

研究報告書第85号

教職に関する研究

学校の教育活動全体を通じて行う 道徳教育の在り方

平成25・26年度



茨城県教育研修センター

目次

I	研究の概要	1
II	道徳教育の実態と課題	2
III	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育	4
1	道徳教育の位置付け	4
2	教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進	4
(1)	道徳教育の全体計画	4
(2)	全体計画の別葉	5
(3)	道徳教育の指導の基本方針	6
3	各教科等で行う道徳教育	7
(1)	各教科等の指導を通じて児童生徒の道徳性を養うための視点	7
(2)	各教科等の目標と道徳教育との関連	9
(3)	体験活動を生かした道徳教育	14
4	道徳の時間との関連性	14
(1)	補充、深化、統合の役割を担う道徳の時間	14
(2)	補充、深化、統合を意図した道徳の時間の工夫	15
5	道徳教育の充実に向けて	16
(1)	組織としての協力体制	16
(2)	環境の整備	17
(3)	「私たちの道徳」の活用	17
IV	研究協力校実践事例（6校）	18
○	笠間市立友部第二小学校 「互いを認め合う児童の育成を目指した取組」	18
○	日立市立大沼小学校 「自他の生命を尊重する児童の育成を目指した取組」	36
○	鉾田市立旭中学校 「互いの個性や立場を尊重する生徒の育成を目指した取組」	56
○	阿見町立竹来中学校 「自主的に考え望ましい行動がとれる生徒の育成を目指した取組」	74
○	県立勝田高等学校 「自己の人生を切り拓く生徒を育てる道徳教育の取組」	98
○	県立那珂高等学校 「自尊感情を育む道徳教育の取組」	108
V	研究のまとめ	118
1	研究の成果	118
2	今後の課題	119
3	〔資料3〕から見えてくる問題点	119
	〔主な参考文献等〕	121
	〔研究関係者一覧〕	122

（別冊）【資料】

〔資料1〕本県の高等学校における道徳教育

〔資料2〕「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の在り方」に係る
アンケート調査（集計結果、アンケート用紙）

〔資料3〕研究協力校における教員の意識調査（集計結果、アンケート用紙）

〔資料4〕研究協力校における児童生徒の意識調査（集計結果、アンケート用紙）

I 研究の概要

1 研究主題 学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方

2 研究の趣旨

学校の教育活動全体を通じて行う道德教育に関する研究を行い、学校教育の充実に資する。

3 研究の内容

理論研究、調査研究、研究協力校との連携及び研究協議を通して、道德教育の全体計画に基づいた、道德の時間(「道德」)を要として学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方について研究する。

4 研究期間

平成25年4月～平成27年3月(2か年事業)

5 研究方法

(1) 理論研究

研究助言者の講義等を基に、道德教育に関する理論研究を行う。

研究助言者

学校法人 東京家政学院大学現代生活学部 教授 長谷 徹

国立大学法人 東京学芸大学総合教育科学系 教授 永田 繁雄(平成25年度)

(2) 調査研究

「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方」に係るアンケート調査の実施及び分析を行う。

(3) 実践研究

研究協力校及び研究協力員を委嘱し、研究協力員と茨城県教育研修センター指導主事等による研究協議会を開催するとともに、研究協力校との連携を図りながら、実践研究を進める。

研究協力校

小学校：笠間市立友部第二小学校

日立市立大沼小学校

中学校：銚田市立旭中学校

阿見町立竹来中学校

高等学校：県立勝田高等学校

県立那珂高等学校

Ⅱ 道徳教育の実態と課題

「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の在り方」に関する研究の基礎データとして、現在、各学校で取り組まれている道徳教育の状況を把握するとともに、その課題を明らかにするために、平成25年10月、県内全ての市町村立小・中学校、県立中学校、県立高等学校、県立中等教育学校を対象として、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の在り方」に係るアンケート調査を行った。

その結果、各校種において、以下のような実態と課題が明らかとなった。

なお、アンケート調査の実施要項、調査の内容及び結果の詳細については、「〔資料2〕「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の在り方」に係るアンケート調査（集計結果、アンケート用紙）」に掲載した。

■道徳教育の実態

【小・中学校（全体計画等、「心のノート」について）】

- 道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間指導計画は、ほぼ全校で作成されている。さらに、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容や時期を整理し、別葉にまとめているのは、小学校約79%、中学校約70%であった。これらのことから、多くの学校が、全体計画の別葉は作成し、活用している状況がうかがえる。
- 「心のノート」は、特別活動や総合的な学習の時間での活用が多く見られ、活用状況はおおむね良好である。

【全校種】

- 道徳教育の取組状況は、特別活動や日常において道徳教育を行っている割合が高い。また、中・高等学校では、各教科における道徳教育の指導、環境の整備の割合が小学校と比べて若干低い。
- 学校全体で道徳教育を行う上での課題としての最頻値の項目は、小学校は、人間関係の充実59.6%、中学校は、要となる道徳の時間の指導56.6%、高等学校は、人間関係の充実35.1%である。
- 保護者や地域の人々との連携について、最頻値の項目は、全校種とも「道徳の授業参観（公開授業）を行った」である。さらに、他項目の数値からも保護者や地域の人々との連携を図っていることがうかがえる。
- 各学校が、学校の実態や児童生徒の発達の段階を踏まえた内容項目を重点目標としている。
- 道徳教育推進教師（小・中学校）、豊かな心育成コーディネーター（高等学校）が捉えた道徳の時間（「道徳」）に対する児童生徒の意識は、ほとんど肯定的な捉えである。
- 校種によって取組に差はあるが、全ての教科等において道徳教育に取り組んでいる。

■道徳教育の課題

【小・中学校（全体計画等、「心のノート」について）】

- 全体計画の別葉は作成されているが、教育活動において活用しているのは、小学校約92%、中学校約74%であった。さらに、活用していない理由として「まとめ方が分からない」など、別葉の活用の仕方や方法については課題がある。
- 文部科学省の動向を踏まえ、道徳教育用教材「心のノート」を全面改訂した「私たちの道徳」の活用法について、工夫、検討していく必要がある。

【全校種】

- 特別活動や日常における道徳教育の指導の充実を図るとともに、各教科における道徳教育の指導（道徳教育と各教科等の目標、内容及び教材との関わりの把握、学習活動や学習態度への配慮など）、環境の整備（環境美化や整理整頓、道徳の学習内容に関する資料等の掲示など）を推進することに課題がある。
- 学校全体で道徳教育を行う上での課題は、校種ごとに異なる。教育活動全体を通じて行う道徳教育と要となる道徳の時間（「道徳」）の関連を意識した道徳教育を実践することに課題がある。具体的には、関連を意識した指導のために、全体計画の別葉を作成、活用することが課題の一つである。
- 児童生徒の道徳性は、家庭や地域社会を含めた全ての環境の影響によって育まれることを踏まえれば、保護者や地域社会との連携を推進することも課題である。
- 各学校が、校長の方針の下に、全ての教員が協力して、児童生徒や学校の実態、児童生徒や保護者の意見等を把握し、学校全体における道徳教育の重点目標を決めていくことが必要である。また、それを具体的に指導していくための方針を各教育活動の特質を考慮して明確にしたり、各学年の重点目標を設定したりすることに課題がある。
- 全ての教科等において道徳教育に取り組んでいるといえるが、各教科等の特質を踏まえた上で、道徳教育の充実を図ることに課題がある。

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を充実させるために、学校の道徳教育の全体計画を基に、重点目標を明確化し、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理し、別葉にまとめ、それを実践的に活用する方法を示す必要がある。その際、道徳教育の目標に基づき、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を行う上で、要となる道徳の時間（「道徳」）の指導の充実を図ることが重要である。そこで、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することが重要となる。

以上のような道徳教育の実態と課題を踏まえ、理論研究の方向性を定め、研究協力校において、学校や児童生徒の実態を踏まえた内容項目を重点化した取組について、各校種の実態に応じた実践研究を行った。

Ⅲ 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育

1 道徳教育の位置付け

小学校及び中学校学習指導要領の「第1章 総則」には、「学校における道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳の時間はもとより、各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童生徒の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。」と示されている。また、高等学校の学習指導要領では、「学校における道徳教育は、生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより、その充実を図るものとし、各教科に属する科目、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、適切な指導を行わなければならない。」と示されている。昭和33年に改訂された学習指導要領において道徳教育が教育課程に位置付けられて以来、道徳教育は教育活動全体を通じて行うという基本的な考え方は変わっていない。

また、小学校及び中学校学習指導要領の「第2章 各教科」等の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において「道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、第3章道徳の第2に示す内容について、（各教科等）の特質に応じて適切な指導をすること。」と示されている。現行の学習指導要領では、道徳の時間以外の教育活動における道徳教育を重視している。

なお、本県においては全ての県立高等学校の第1学年の生徒を対象に「道徳」の授業を行っている。本研究では、小学校及び中学校においては、それぞれの校種の学習指導要領及び解説道徳編に基づき、高等学校においては、茨城県教育委員会発行の「高等学校道徳教育指導資料」に基づき研究を進める。本基調については、小学校及び中学校の道徳教育に関して論述する。

2 教育活動全体を通じて行う道徳教育の推進

(1) 道徳教育の全体計画

学校における道徳教育の基本的な方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示したものが、道徳教育の全体計画である。

各学校における道徳教育は、校長が示した自校の道徳教育の基本的な方針の下、個々の教師の責任ある実践に託されているが、学校が組織として一体となって道徳教育を進めるに当たり、全教師による一貫した展開が求められる。また、道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行われるものであることから、道徳の時間の位置付けや役割を明確にし、教育活動相互の関連を図ることが必要である。全体計画には各教育活動がどのような役割を分担するのかが示されており、それらを基に関連を図ることが可能である。そして、各教師が全体計画に基づいて道徳教育を行うことで、一貫した展開が可能となる。小学校及び中学校の学習指導要領解説道徳

編（以下、「小学校の解説」及び「中学校の解説」という。また、両方を指す場合には「解説」という。）には、全体計画が持つ意義について以下のように示している。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①豊かな人格形成の場として、各学校の特色や実態及び課題に即した道徳教育が展開できる ②学校における道徳教育の重点目標を明確にして取り組むことができる ③道徳教育の要として、道徳の時間の位置付けや役割が明確になる ④全教師による一貫性のある道徳教育が組織的に展開できる ⑤家庭や地域社会との連携を深め、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を可能にする |
|---|

本研究では、各学校において従前どおり作成された全体計画に基づいて、実践研究を進める。

(2) 全体計画の別葉

各教科等において、どのような方針で道徳教育を行うのかは、全体計画に示されているが、より意図的、計画的に行うためには、各教科等で行う道徳教育の内容や時期を整理して示すことが有効である。しかし、各教科等で行う道徳教育を、どの時期にどんな内容で行うのかを具体的に示すことは、全体計画が煩雑になり難しい。そこで解説では、年間を通して具体的に活用しやすくする工夫として、例えば「各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの」「道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの」「道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの」などを別葉として全体計画に加えることを示している。

本研究では、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の在り方について追究するが、小学校及び中学校においては、各教科等の授業者が意図的、計画的に道徳教育を行うときに活用しやすい全体計画の別葉（以下「別葉」という。）を作成する。まず、図1に示すような別葉を作成する。そして、実践研究を進める中で、別葉の様式や記載内容についても検討し、改訂する。

	道徳	国語	社会	算数	理科
1-(1)	5月	3月			5月
生活習慣、節度節制	ホームステイ（文部科学省「小学校道徳読み物資料」） 生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けようとする心情を育てる。	君たちに伝えたいこと 書き手のメッセージを捉え、時間を大切にしながら生活を向上させようとする。 時間を大切にする			体のつくりとはたらき 吸収された養分が全身に運ばれることから、日常の食生活の大切さについて考えさせる。 規則正しい生活習慣
1-(2)	1月	6月			
希望・勇気、不屈	ヘレンと共に（文部省『小学校 読み物資料とその利用1「主として自分自身に関すること」』） より高い目標を立て、希望と勇気を持ってくじけず努力する心情を育てる。	ぼくらのもの 詩に描かれている作者の思いを捉え、夢や希望を持って新しい学年を頑張っていこうという気持ちを持たせる。 希望 夢			

図1 全ての教科等で行う道徳教育を内容項目ごとに示した別葉

	4月	5月	6月	7月
道徳	楽しい学校 4-(4)愛校心 いつでもどこでも 2-(1)礼儀	おてっだい 4-(3)家族愛 じゅぎょうがはじまります 4-(1)規則尊重 バムのおかたづけ 1-(1)基本的生活習慣 わたしはもんしろちょう 3-(2)動物愛護	がんばれホイッ 1-(2)勤勉努力 ごろりんごろんころろろろ 2-(2)親切 いなりやまのこんたろう 2-(1)礼儀 ぼくにまかせてね 4-(2)勤労	かぼちゃのつる 1-(1)基本的生活習慣 うちのきんぎょ 3-(2)動物愛護
国語	みつけたよ 2-(3)友情 はきはきあいさつ 2-(1)礼儀	あめですよ 3-(2)動物愛護	かいがら 2-(3)友情 どうやってみをまもるのかな 3-(2)動物愛護	おおきなかぶ 2-(3)友情
算数	10までのかず 1-(1)基本的生活習慣	なんぼんめ 4-(1)規則尊重	あわせていくつふえるといくつ 4-(1)規則尊重 のこりはいくつちがいはいくつ 4-(1)規則尊重	

図2 全ての各教科等で行う道徳教育を時系列で示した別葉

国語 中学3年		月	単元	内容
1 主として 自分自身 に関する こと	(1) 基本的生活習慣 望ましい生活習慣を身に 付け、心身の健康の増進を 図り、節度を守り節制に心 掛け調和のある生活をする。	5	「形」	「形」は外見を表すだけでなく、場合によってはそれ以上の影響力を持つという内容から、習慣がその人の内面にも大きく影響を与えることに気付かせたい。
	(2) 強い意志 より高い目標を目指し、 希望と勇気を持って着実に やり抜く強い意志を持つ。	3	「最後の一句」	追い詰められた状況の中で、知恵と勇気を持って行動したことが思いがけない働きを及ぼすことがある内容から、父親の命を助けるという目標のために勇気を持って行動することの大切さを気付かせたい。
	(3) 自律・責任 自律の精神を重んじ、自 主的に考え、誠実に実行し てその結果に責任を持つ。	1	「『正しい』言葉 は信じられるか」	言葉による表現には、読み手に与える印象が大きく異なることがあり、私たちは言葉の持つ性質をしっかり理解し、物事を複数の視点から眺める習慣をつける必要があるという内容から、自主的に考えるときに様々な視点を持つことの大切さに気付かせたい。

図3 教科別にして内容項目ごとに示した別葉

別葉は、図1のように、全ての教科等について内容項目ごとに示したり、図2のように時系列にして示したり、又は、図3のように教科別にして内容項目ごとにして示すなど、様々な様式が考えられる。内容項目ごとに示したものは、道徳の時間の授業を構想する際、児童生徒が各教科等でどのような学びをしているのかを把握しやすい。また、内容項目ごとに、指導する機会の数を把握しやすい。自校の道徳教育の目標を具現化するために、各学校において内容項目の重点化を図るが、その内容項目について重点的に学ぶ機会があるかを確認することもできる。時系列で示したものは、日々の教育活動の際に活用しやすい。このように、活用の用途に応じた様式で作成することが大切である。

(3) 道徳教育の指導の基本方針

道徳教育は、道徳の時間を要として各教科、外国語活動（小学校のみ）、総合的な学習の時間、特別活動など全ての教育活動を通じて、児童生徒の道徳性の育成を図るものである。以下は、解説において示している教育活動全体を通じて行う指導の基本方針の一部抜粋である。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①各教科，外国語活動（小学校のみ），総合的な学習の時間及び特別活動の特質に応じた道徳性の育成を図る ②教師と児童生徒の信頼関係と児童生徒相互の人間関係の充実を図る ③児童自ら道徳性をはぐくみ，自己の生き方についての考えを深めるようにする（小学校）
自らの人間としての生き方についての自覚を深める指導を充実させる（中学校） ④豊かな体験活動を通して児童の内面に根ざした道徳性を育成する（小学校）
豊かな体験活動の充実と他者とのかかわりの中で自らを振り返る指導を充実させる（中学校） ⑤学級や学校の環境の充実・整備による指導を充実する（中学校は「充実させる」） |
|--|

道徳教育の内容について，各教科等の特質に応じて適切な指導をするが，各教科等には，それぞれの固有の目標や内容があり，各教科等において道徳教育の内容を扱うときには，各教科等の特質を損なわないように配慮する。

小学校においては，共に学ぶ楽しさや自己の成長に気付く喜びを大切に，各教科等の学習が自らの生き方に深く関わることを実感できるようにするなど，道徳教育に資する学習を充実させることが必要である。そして，それらの学習と道徳の時間の学習とが関連し合うようにし，生き方についての考えを深めるようにすることが大切である。中学校においては，将来に向けて自らの進路を選択する時期であることから，自己の持つ個性の発見や伸長を図りつつ，自らの人間としての生き方についての自覚を深める指導が大切である。

児童生徒は，様々な体験活動を通して道徳性をはぐくんでいる。小学校段階では，道徳的成長のために直接的な体験を必要としており，集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動など豊かな体験活動が求められている。また，中学校においても，職場体験活動やボランティア活動，自然体験活動など，生徒の豊かな心を育てる実践的活動の一層の充実が求められている。特に，進路選択の時期を迎える中学校の時期においては，道徳的価値に基づいた人間としての生き方を考える上で，職場体験活動は深い意義を持つ。

本研究では，この基本方針に基づいて別葉を作成し，道徳教育の実践研究を行う。

3 各教科等で行う道徳教育

(1) 各教科等の指導を通じて児童生徒の道徳性を養うための視点

解説には，各教科等の指導を通じて児童生徒の道徳性を養うための視点として，以下の三つを挙げている。

ア 道徳教育と各教科等の目標，内容及び教材との関わり

各教科等の目標や内容には，児童生徒の道徳性の育成に関係の深い事柄が直接的，間接的に含まれている。直接的な関わりとしては，目標や内容に道徳的内容が含まれている場合，取り扱う教材が道徳教育的なものである場合などがある。一方，間接的な関わりとしては，学習の成果が基礎的な教養や生きる知恵などとなって，児童生徒の豊かな生き方の育成に寄与する場合がある。各教科等において道徳を適切に行うためには，それぞれの特質に応じて道徳教育に関わる側面を明確に把握し，それらに含まれている道徳的価値を意識しながら指導することが効果的である。例

えば、各教科等と道徳の時間の関連付けとして、各教科等における指導の際に教師が道徳的価値を意識するだけではなく、道徳的価値に関するキーワードを設定し、各教科等でその言葉を用いて授業を行うことが考えられる。この工夫が、各教科等と道徳の時間においてねらいとする道徳的価値に関する児童生徒の意識をつなげることになる。図1で示した別葉の中のゴシック体の文字のように、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容に加えて、各教科等と道徳の時間を関連させるキーワードを示せば、授業を行う教師が事前に、用いる言葉を確認することができる。

イ 学習活動や学習態度への配慮

各教科等において学習目標や学習内容に応じて、効果的な学習活動として話し合い活動や表現活動、グループ活動を行うことがある。このような学習活動により学習態度や学習習慣をはぐくむことが、道徳性を育てることにもなる。

話し合い活動や表現活動を行うときに、「自分の考えをしっかりと発表する」、「友達の意見に耳を傾ける」など、思いやりや協力的な雰囲気や人間関係をつくるなどの配慮をすることによって、学習態度が向上する。このことが、礼儀や思いやり、役割の遂行などの道徳性を育てることにもなる。

また、基本的な学習習慣、体験的な学習や問題解決的な調べ方や学び方を身に付ける学習を重視することで自分の生き方と関わらせながら学習を進めていく態度を育むことにもなる。

自校の道徳教育の重点目標に関わる学習態度について向上が見られた時には、教師はそれを認め、称賛することで児童生徒の道徳性の育成が図られると考える。例えば、「根気強さ」を重点目標としているならば、算数・数学の授業において、課題を解決できたことだけでなく、根気強く課題に取り組んだことを称賛することが考えられる。

ウ 教師の態度や行動による感化

各教科等の指導における教師の態度や行動が、児童生徒の道徳性の育成に大きな影響を与える。教師が適切な言葉を使い、児童生徒の人格を尊重し、認め励ますことが児童生徒の道徳性が育つよりよい学級の雰囲気や環境をつくり、児童生徒の人格の形成につながる。

本研究では、以上の視点を持って、教科等の指導を行うが、アとイの視点は別葉を作成する際にも必要である。イの視点は全ての教科等にも通じるものであるが、各教科等の年間指導計画と内容項目を照らし合わせながら、各教科等において関連する学習内容を洗い出す時には、アの視点が中心となる。しかし、その場合、関連する学習内容が多い教科等や少ない教科等がある。前述のとおり、各教科等の特質に応じた道徳教育を行うことから、道徳教育を行うために、あえて関連を見いだすものではない。したがって、教科等によって別葉に記載する学習内容の多少が生じることがあり、その結果、内容項目によっても記載された学習内容の多少が生じることにもなる。

(2) 各教科等の目標と道徳教育との関連

ここでは、小学校学習指導要領において示されている各教科等の目標や内容を基に、各教科等における道徳教育との関連を例示する。

ア 国語科

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

国語科の目標にある「伝え合う力を高める」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする力を高めることである。これは「思いやり」に関わるものであるが、広義に捉えれば、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていく上で、基盤となるものである。また、「思考力や想像力及び言語感覚を養う」ことは、道徳的心情や道徳的判断力を養う上で基本となるものである。この思考力や想像力とは言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力である。そして、言語感覚とは話すこと・聞くこと・書くこと及び読むことの具体的な言語活動の中で、相手、目的や意図、多様な場面で状況などに応じて、どのような言葉を選んで表現することがふさわしいものであるかを直観的に判断したり、話や文章を理解する場合に、そこで使われている言葉が醸し出す味わいを感覚的に捉えたりすることである。例えば、小学校学習指導要領解説国語編には、第5学年及び第6学年における話すことに関する指導事項として「イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。」がある。場に応じた適切な言葉遣いで話すことは、「礼儀」に関わるものであり、この学習によって道徳的心情や道徳的判断力の育成が図られると考える。

また、教材としての関連は伝記や古典にも見いだすことができる。例えば、自分の考えの形成及び交流の場面において登場人物の生き方に学ぶことは豊かな人間形成につながり、古典の学習を通して昔の人のものの見方や感じ方を知ることは、「郷土愛・愛国心」につながるものである。国語科においては、文章を学習教材として、文章に書かれた内容を基に自分の考えを形成していくが、道徳の時間においては、文章は学習資料であり、ねらいとする道徳的価値を基にして自分の考えを形成していく。国語科と道徳の時間では、教材と資料という点で異なっているが、自分の考えを形成する点で共通している。

イ 社会科

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

社会科の目標と道徳教育が目指していることは、深く関連している。我が国の国

土と歴史に対する理解と愛情を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。また、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚を持ち、自由・権利と責任・義務との関係を正しく認識し、権利・義務の主体者として公正に判断しようとする態度や能力などの公民的資質の基礎を養うことは、「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の内容などと密接な関わりを持つものである。

また、各学年の目標を実現するための配慮事項として示されている「調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現すること」は道徳の内容の「思いやり」に、「環境の保全や自然災害の防止が大切であることに気付くようにする」は道徳の内容の「自然愛」につながるものである。

社会科の授業は、三つの学習過程が重要である。第一が社会的な事象や事実を調べ、社会の現状をありのままに見ること、第二が社会的な事象の意味や働き、役割などを考えること、第三が社会への関わり方の考え、進んでかかわろうとすることである。この第三は単元末に学習のまとめとして行われる実践が多いが、この活動が道徳教育と深く関連している。

ウ 算数科

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

算数科の目標に「日常の事象について見通しを持ち筋道を立てて考え、表現する能力を育てる」がある。筋道を立てて考えを進め、よりよい考えを導き出すことは、道徳的判断力の育成にも資するものである。また、「進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」ことは、「創意工夫」「個性伸長」につながるものである。

他教科の学習においても共通するものでもあるが、算数科の学習過程に道徳教育の視点を見いだすことができる。例えば、学習課題の解決に向けて努力する自力解決の場面では「勤勉・粘り強さ」、互いの考え方を話し合う場面では自分の考えを发表或し友達の見解に耳を傾けたりすることから「寛容・謙虚」などが考えられる。教師が児童生徒に対して、解法を導き出したことだけでなく、粘り強く取り組んだことや異なる意見や立場を大切にしたことについても称賛することで、児童生徒の道徳性が養われると考える。

エ 理科

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

理科では、栽培や飼育などの体験活動を通して自然を愛する心情を育てることを目標の一つにしている。これは、「生命尊重」「自然愛・動植物愛護」につながるものである。また、問題解決の能力を育てることは「真理愛・創意工夫」につながるものである。

オ 生活科

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

生活科では、学習上の自立・生活上の自立・精神的自立などの自立への基礎を養うことを目標としており、道徳教育と密接なつながりがある。また、内容として、基本的な生活習慣を身に付けること、郷土の文化や生活に愛着を持つこと、集団や社会の一員としての役割や行動の仕方について考えること、身近な自然に親しむことなどがあり、児童は人との関わり、社会との関わりや自然との関わりを通して生き方や生命などについて学んでいる。さらに、自分の成長や生活を振り返り意欲的に生活することは、自己の生き方についての考えを深めるものである。

カ 音楽科

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

音楽科の目標にある「音楽を愛好する心情や音楽に対する感性」は美しいものや崇高なものを尊重する心につながり、「音楽による豊かな情操」は道徳性の基盤を養うものである。また、教材を通して、伝統や文化、自然や四季の美しさなどを学ぶことが道徳的心情の育成に資するものである。

キ 図画工作科

表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

図画工作科の目標にある「つくりだす喜びを味わうようにする」は美しいものや崇高なものを尊重する心につながり、「造形的な想像による豊かな情操」は道徳性の基盤を養うものである。また、表現活動において題材の設定を工夫することで児童の道徳性を養うことにつながることになる。例えば、家族への感謝の気持ちを絵で表すことは「家族愛」につながる。鑑賞活動において作者の生き方や考え方を学ぶことは、児童の道徳性の育成に資するものである。

ク 家庭科

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることを学び、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

家庭科の目標にある「日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、生活をよりよくしようとする態度を育てる」ことは「基本的な生活習慣」つながり、「家庭生活を大切にすることを学ぶ」ことは「家族愛」「感謝」につながるものである。また、内容として「季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること」があるが、これは「創意工夫」につながるものである。

ケ 体育科

心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。

運動領域において、集団でのゲームなど運動をすることを通して友達との関わり方を学ぶ。これは、「粘り強さ」「規則尊重」「信頼・友情・協力」などにつながるものである。また、保健領域における健康・安全についての理解は、「基本的な生活習慣」「生命尊重」につながるものである。

コ 外国語活動

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

外国語活動の目標にある「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める」ことは、「国際理解・親善」につながるものである。また、コミュニケーションを図ることを通して、自分や友達の感情や思いを表現したり受け止めたりすることから「寛容・謙虚」などが考えられる。

サ 総合的な学習の時間

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

総合的な学習の時間の目標にある「自己の生き方を考えることができるようにする」とは、学習の成果から達成感や自信を持ち、自分のよさや可能性に気づき、自

分の人生や将来について考えていくことであり、道徳教育で目指すことと密接な関連がある。また、育成する資質や能力、育てる態度は、道徳教育の内容の「主として自分自身に関すること」「主として他の人とのかかわりに関すること」につながるものが多い。

シ 特別活動

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

特別活動の目標には、道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、望ましい集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的実践の指導をする重要な機会と場である。小学校の解説には、集団活動を通して身に付けた道徳性として、以下のように示している。

- ・自分勝手な行動をとらずに節度ある生活をしようとする態度
- ・自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度
- ・よりよい人間関係を築こうとする態度
- ・みんなのために進んで働こうとする態度
- ・自分たちで約束をつくって守ろうとする態度
- ・目標をもって諸問題を解決しようとする態度
- ・自己のよさや可能性に自信をもち集団活動を行おうとする態度

これらは、道徳教育の内容の「主として自分自身に関すること」「主として他の人とのかかわりに関すること」「主として集団や社会とのかかわりに関すること」につながるものである。特別活動の活動過程における道徳的実践の指導の工夫として、資料のような活動が考えられる。

資料 特別活動の活動過程における道徳的実践の指導の工夫例

<事前の指導>

- 各活動、学校行事などで取り上げる内容の道徳的価値の見だし方とその意識化のための工夫
 - ・事前に、関連する内容項目について道徳の時間の授業を行っている場合には、活動目標を伝達するときに、児童生徒に道徳の時間の授業を想起させる。

<本時の指導>

- 明確な行動目標や態度目標を持って活動に取り組めるようにする話し合い活動の工夫
 - ・レクリエーションの企画についての話し合い活動に「信頼友情」を関連付けている場合には、みんなで協力することを活動目標に設定する。

<事後の指導>

- 道徳的価値の必要性や大切さを実感できるように、集団や個人の目標を追求する実践を引き出したり、効果的に認めて他の児童生徒に連鎖させたりする工夫
 - ・レクリエーションを行っているときに、協力して活動している児童生徒の行動を認め、称賛する。
- 自己の活動を振り返る工夫
 - 道徳的価値と関連した活動目標について、自己評価や相互評価する。
 - ・自分勝手な行動をとらずに節度ある生活をしようとする態度
 - ・自己の役割や責任を果たして生活しようとする態度
 - ・よりよい人間関係を築こうとする態度
 - ・みんなのために進んで働こうとする態度
 - ・自分たちで約束をつくって守ろうとする態度
 - ・目標を持って諸問題を解決しようとする態度
 - ・自己のよさや可能性に自信を持ち集団活動を行おうとする態度

(3) 体験活動を生かした道徳教育

学習指導要領では、集団宿泊活動や職場体験活動、ボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成が図られるよう配慮することが求められている。事前に、体験活動のねらいや意義を児童生徒に十分に理解させた上で活動させ、事後には自己評価や話し合いなどにより自己を振り返ったり、友達と体験を共有したりすることができるようにする。このような活動が、児童生徒にとって単に活動するだけで終わらずに内面に根ざした道徳性の育成が図られるようになる。

4 道徳の時間との関連性

(1) 補充、深化、統合の役割を担う道徳の時間

道徳教育の要である道徳の時間は、各教科等で行う道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合する役割を果たす。小学校の解説では、補充について「児童は、学校の諸活動の中で多様な道徳的価値について感じたり考えたりするが、そのすべてについて考える機会があるとは限らない。道徳の時間は、このように学校の諸活動で考える機会を得られにくい道徳的価値などについて補充する役割がある。」と示している。本研究では、自校で作成した別葉に記載している学習内容が少ない内容項目については、道徳の時間に補充する必要があると捉える。

また、深化について「体験の中では道徳的価値の意味などについて必ずしもじっくりと考え、深めることができているとは限らない。道徳の時間は、このように道徳的価値の意味やそれと自己とのかかわりについて一層考えを深化させる役割を担っている。」と示している。本研究では、別葉の記載を見て、児童生徒が学んだり、体験したりする機会があるが、その実態として、深く考えていると判断できない場合、深化が必要であると捉える。

そして、統合について「多様な道徳的体験をしていたとしても、それぞれがもつ道徳的価値の相互の関連や、自己とのかかわりにおいての全体的なつながりなどについて考えないままに過ごしてしまうことがある。道徳の時間は、それらを統合し、児童に新たな感じ方や考え方を生み出すというような役割もある。」と示している。本研究では、学んだり、体験したりする機会があるが、それらは断片的であり、まとまりがない場合、統合が必要であると捉える。本研究では、図4のように、補充、深化、統合の構造を捉える。

道徳の時間で補充、深化、統合を図るためには、各教科等における道徳教育の状況、つまり

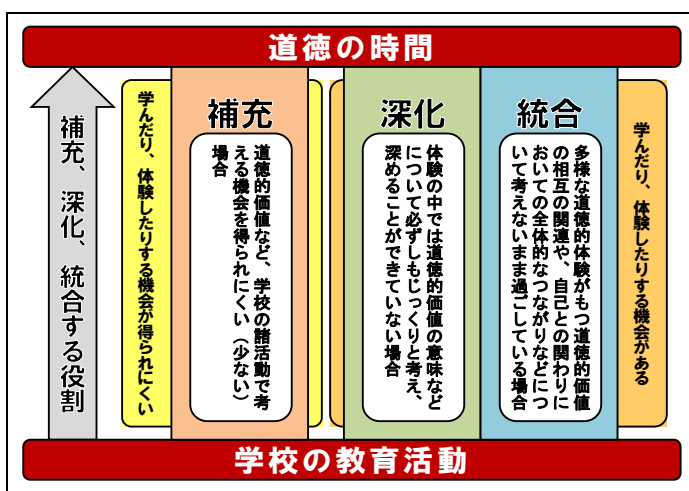


図4 補充、深化、統合の構造図
(分かりやすいように単純化し、例示的に表したものです。)

児童生徒がどのような学びをしたのかを把握することが求められるが、各教科等で行われた道德教育と道德の時間をつなげるためにも道德教育の状況を把握する必要がある。把握することで、自ずと「補充の必要性」「深化の必要性」「統合の必要性」が浮き彫りになると考える。

なお、中学校の解説では各教科等における指導について、それらの指導の中に合わせ含まれる道德教育が道德教育としてはとかく断片的であったり、徹底を欠いたりするのは避けられないこと、それらの指導だけでは十分な成果をあげることができないのもやむを得ないことを述べている。それらを踏まえて、「したがって、その断片的な不十分さを補充し、掘り下げを欠いた不十分さを深化して、それらの指導を統合する道德の時間がどうしても必要になってくる。」と示している。小学校の解説では、児童の意識の上での「補充、深化、統合」の視点で示しているが、中学校の解説では、道德教育の徹底という指導の必要性として、道德の時間は「補充し、深化し、統合する時間である」として示している。そこで、本研究では、補充、深化、統合の役割としての道德の時間について実践を進めることから、小学校の解説に基づき研究する。

(2) 補充、深化、統合を意図した道德の時間の工夫

本研究では、以下のように、道德の時間の授業を構想するとき、各教科等で行われた道德教育を補充、深化、統合することを意図した授業の工夫を図る。また、図5のように、教科等と道德の時間の関係を捉える。

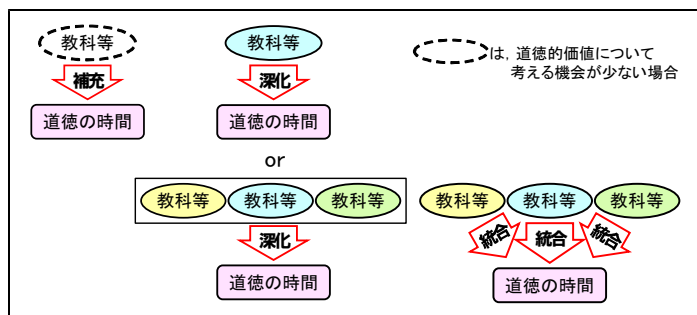


図5 教科等の時間と道德の時間の関係図
(分かりやすいように単純化し、例示的に表したものです。)

(ア) 補充を意図した授業

児童生徒が、学校の諸活動の中で、本時においてねらいとする道德的価値について考える機会が少ない場合に、補充を意図した授業を行う。したがって、読み物資料を使用するときには、考える機会が少ないことを踏まえ、資料は興味が持てるもの、道德的価値について自分との関わりで考えやすいもの等の視点を一層意識して資料を選定する。

また、終末においては、児童生徒のこれまでの生活や学習において考える機会が少なかったが、将来出会うであろう様々な場面をイメージさせることを意図した内容の説話が考えられる。

(イ) 深化を意図した授業

これまでの学校生活において道德的価値について学んだり、体験したりする機会があるが、児童生徒の実態として、深く考えていると判断できない場合に、深化を意図した授業を行う。したがって、導入において本時でねらいとする道德的価値に関わる学習や体験を想起させたり、体験的な場面の提示をしたりして、児童生徒の問題意識を高めることが考えられる。あるいは、展開において自分自身の問題とし

て考えるときに、学習や体験を想起することを通して自己の姿を率直に見詰め、自己との関わりについて一層考えを深められるようにする。終末においても、教師の説話によって、学習や体験を想起させ、本時の学習内容を、日常生活との関わりで印象的にまとめることが考えられる。

(ウ) 統合を意図した授業

これまでの学校生活において道徳的価値について学んだり、体験したりする機会があるが、それらは断片的であり、まとまりがない場合に、統合を意図した授業を行う。この場合も深化を意図した授業と同様に、学んだり、体験したりしたことを道徳の時間において関連付けを図るため、導入や展開、終末の工夫と同様なことが考えられる。ただし、これまでの学習等を統合させることを意図するので、複数の体験等を提示したり想起させたりして、まとまりを持たせるとよい。

5 道徳教育の充実に向けて

(1) 組織としての協力体制

現行の学習指導要領では、「道徳教育推進教師」の位置付けが明確に示された。校長の方針の下、学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために、全教師が力を発揮できる体制を整え、機能的な協力体制の下、道徳教育を充実させていく。そのためには、道徳教育推進教師を中心とした全教師による協力体制が必要である。解説では、道徳教育推進教師の役割を以下のように示している。

- | |
|-----------------------------|
| ア 道徳教育の指導計画の作成に関すること |
| イ 全教育活動における道徳教育の推進、充実に関すること |
| ウ 道徳の時間の充実と指導体制に関すること |
| エ 道徳用教材の整備・充実・活用に関すること |
| オ 道徳教育の情報提供や情報交換に関すること |
| カ 授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること |
| キ 道徳教育の研修の充実に関すること |
| ク 道徳教育における評価に関すること |

これまでも、ほとんどの学校の組織において道徳主任が位置付けられてきたが、その役割は道徳の時間に限定されていた場合もある。しかし、道徳教育推進教師の役割から、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を担っていることが分かる。

また、永田氏は「道徳教育推進教師の役割と実際」の中で、道徳教育推進教師が持ちたい機能的役割として「推進者」「調整役」「助言者」を挙げている。学校全体として道徳教育を行うことを推進し、そのための調整を行い、情報を提供したり助言したりすることが、道徳教育推進教師に求められている。その際、自校の道徳教育の方針が示されている全体計画やその別葉が必要である。

教科担任制で授業を行っている学校では、各教科等においてどのような道徳教育が行われたのかを共有することが困難な状況がある。全体計画の別葉を活用することで、各教科等でどのような道徳教育を行う計画であるのかを共有することができる。

し、その結果、各教科等の授業に関連した内容項目について道徳の時間で深化する必要があるのか、統合する必要があるのかを各学年の教職員で共有することは難しい。そこで、共有するための場を設定したり、各教科等で行った道徳教育の実践結果を記入できるように別葉の様式を工夫したりすることが考えられる。

(2) 環境の整備

教室や校舎、校庭等の環境は、児童生徒の道徳性の育成に深く関わっている。道徳性の育成に関わる情報などの掲示は、児童生徒が日常的に目に触れることで心に深く刻まれていく。例えば、道徳の時間や各教科等で使用した資料を掲示することが考えられる。

また、児童生徒の道徳的実践の成果の掲示は、児童生徒にとって、自らの道徳的実践が認められ称賛される場となり、道徳的実践への意欲が高まることが期待できる。例えば、友達のよさを認めたメッセージカードを掲示することが考えられる。

(3) 「私たちの道徳」の活用

小・中学校においては、平成25年度には「心のノート」、平成26年度には「私たちの道徳」が、道徳教育用教材として児童生徒に配付された。これらは、道徳の時間のもとより、学校の教育活動全体で活用できるものである。文部科学省は、ホームページで『「私たちの道徳」活用のための指導資料』を紹介しているが、実践事例の集積は今後の取組に期待されている。本研究は、その活用方法について特化したものではないが、研究協力校の実践として紹介する。

【実践事例】 互いを認め合う児童の育成を目指した取組

笠間市立友部第二小学校

URL : <http://www.ed.city.kasama.ibaraki.jp/el-tomobe2/>

1 学校の概要

本校は、旧友部地区に位置し、児童数414名（学級数16）の中規模校である。学区内には、心の医療センター等の公共施設が多く、近年は新しい住宅地として、ますます発展が期待される地域である。教育目標の一つに「思いやりがあり助け合う子」を掲げ、互いを認め合う関係づくりができる教育活動の工夫に日々取り組んでいる。

2 児童の実態

本校の児童は、明るく活発で、素直な気持ちで毎日生活している。決められた課題に一生懸命に取り組む児童も多い。また、自分の思いや考えを持ち、表現したり伝えたりしようとする態度を身に付けてきている。一方で、生活の様子やアンケートから、人間関係づくりやコミュニケーションを図ることが苦手で、相手を思いやることができず、傷つけてしまい、トラブルになることも少なくないと言える。そこで、学校生活の教育活動全体を通じて、友達のよさを認め、助け合って生活できる児童の育成を目指す必要性を感じた。

3 取組の概要

人との関わりが苦手であるという実態を踏まえ、まずは学校内の友達との関わりを大切にし、相手の気持ちを考えたり、助け合ったりすることができるよう「互いを認め合う児童」の姿を目指して実践を行った。

はじめに、全学年において児童の実態を把握し、道徳教育の重点目標を設定した。それを踏まえ、発達の段階に応じた重点目標を設定し、内容項目を明確にした。また、本校の重点目標は三つであるが、特に、「2-(3)友情」を指導の重点として、全体計画を作成した。

そして、道徳教育と各教科等との関連を明確にすることで、より効果的に児童の道徳的実践力を育成し、道徳性を養うことができると考え、別葉の作成や道徳の時間の年間指導計画の見直しを行った。さらに、「2-(3)友情」については、指導の流れがより明確になるよう、道徳の時間と各教科等における学習の関連を時系列で詳細に示した指導構想図を作成した。

作成した各種の指導計画に基づいて、各教科等で行う道徳教育の在り方やそれらを補充、深化、統合する「要」の時間である道徳の時間の指導の在り方について実践した。加えて、指導の意図や思いが明確になるように、学習指導案の作成の仕方や形式についての見直しも図った。

校内には、道徳教育コーナーを設置し、道徳教育の啓発になるような工夫を行った。また、「2-(3)友情」が指導の重点であることから、特別活動における実践や人権教育の取組にも力を入れた。

4 実践の内容

(1) 全体計画の別葉の作成

児童の生活の様子やアンケートの見取りから、目指す児童像を設定し、「2-(3)友情」を指導の重点として、全体計画に明記した。また、以前は明記していなかった各教科等の欄を追加・見直しをし、教育活動全体で行う道徳教育について分かりやすい全体計画とした。

はじめに、各教科等で行う道徳教育を整理した別葉1を作成した(資料1)。これを作成することにより、教育活動全体で行う道徳教育が、どのような場面で行われるのか、道徳の時間に補充すべき内容項目はどれなのかということ把握することができた。また、指導に当たって、道徳教育を意識するために、別葉の中にキーワードを記入した。キーワードは、学習のねらい、学習内容や学習活動を基に考えた。授業では、児童への言葉かけや板書等において、指導者が意図的にキーワードを使ったり、学習活動として展開に取り入れたりすることができた。内容項目やキーワードについては、何度も検討を繰り返し、活用しやすい別葉を目指した。

資料1 別葉1 (内容項目ごとに整理)

	道徳	国語
2-(1) 礼儀	いつでも どこでも[4月] あいさつ 明るく (わ)あいさつからはじまるたびにでて あいさつ [6月]	はきはきあいさつ[4月] あいさつ 明るく
2-(2) 親切	ごろりんごろんごろろろろ[6月] 親切 温かい心 はしのうえのおおかみ(わ)[10月] 優しく 親切 ぼくにできること[1月] 親切 思いやり	
2-(3) 友情	およげないりすさん(わ)[9月] 仲良く 助け合う 二わのことり[12月] 仲良く 友達のために	みつけたよ[4月] 友達 仲良し かいがら[6月] 友達 仲良し おおきなかぶ[7月] 助け合う 歯がぬけたらどうするの[2月] 伝え合う 花いっぱいになあれ[3月] 優しさ 喜び つながり

資料2 別葉2 (時系列に整理)

内容\月	4月	5月
主な学校行事と 主な価値項目	始業式1-(2)勤勉努力○ 入学式1-(2)勤勉努力○ 交通安全教室4-(1) 公徳心・規則尊重○	避難訓練4-(1) 公徳心・規則尊重○ 1年生を迎える会2-(3)友情◎ 宿泊学習4-(3)役割・責任
1年生にかかわる 主な学校行事と 主な価値項目	入学式1-(1) 基本的な生活習慣 交通安全教室4-(1) 公徳心・規則尊重○	避難訓練4-(1)公徳心・規則尊重○ 1年生を迎える会4-(4)愛校心 サツマイモ苗定植3-(2) 自然愛・動植物愛護 遠足4-(1)公徳心・規則尊重
道徳 文溪堂	たのしいがっこう 4-(4)愛校心 いつでもどこでも 2-(1)礼儀	おてつだい 4-(3)家族愛 じゅぎょうがはじまります 4-(1)規則尊重・公徳心○ パムのおかたづけ 1-(1)基本的な生活習慣 わたしはもんしるちょう 3-(2)自然愛・動植物愛護
学級活動 (1)		みんなとなかよく 2-(3)友情◎ 楽しい遠足 4-(1)公徳心・規則尊重○

別葉1を作成し、活用を始めたところ、内容項目については一年間の見通しが明確にはなっていたが、指導の時期という点では活用しづらいことが明らかになった。そこで、別葉1と各教科等の年間指導計画を活用し、別葉2を作成した(資料2)。これを作成したことにより、指導の時期と内容項目が明確になった。別葉2では、本校の3つの重点目標が分かりやすくなるよう色分けをした。

さらに、別葉1から重点とする内容項目のみを抽出したものを別葉3とし、指導者が手元に置いて、常に意識して指導できるようにした。(資料3)。これを作成することで、重点目標とそのキーワードについて意識化を図ることができた。

別葉2と別葉3に関しては、それぞれ一枚の用紙にまとめたため、活用しやすくなった。

資料3 別葉3 (重点とする内容項目のみを表示)

	道徳	国語	算数	生活
1-(2) 勤勉努力	がんばれホイッ[6月] あきらめずに最後までがんばる がんばれポポ[9月] 最後までがんばる			
2-(3) 友情	およげないりすさん(わ)[9月] 仲良く 助け合う 二わのことり[12月] 仲良く 友達のために	「みつけたよ」[4月] 友達 仲よし 「かいがら」[6月] 友達 仲よし 「おおきなかぶ」[7月] 助け合う 歯がぬけたらどうするの[2月] 伝え合う 「花いっぱいになあれ」[3月] 優しさ 喜び つながり		どきどきわくわく1ねんせい[4月] 仲よし 友達 がっこうだいすき[5月] 仲よし 助け合う なつだいっしょにあそぼうよ[6月] 助け合う いきものとなかよし[9月] 協力 あきのおもちやだいしゅうごう[11月] みんなで
4-(1) 規則尊重・公德心	じゆぎょうがはじまります[5月] 約束 きまり みんなで使うもの 黄色いベンチ(わ)[10月] みんなで使うもの みんなのことを考える	ほんがたたくさん[4月] 約束 きまり みんなで使うもの	なんばんめ[5月] 約束 きまり あわせていくつふえるといくつ[6月] きまり のこりはいくつちがいはいくつ[6月] きまり 3つのかずのけいさん[10月] きまり	どきどきわくわく1ねんせい[4月] 約束 きまり がっこうだいすき[5月] きまり なつだいっしょにあそぼうよ[6月] 約束 みんなで使うもの ふゆをたのしもう[1月] 約束 みんなで使うもの

(2) 全体計画の別葉の活用

別葉は、それぞれ指導者が教室に置いたり、学級経営簿に貼ったりするなどして、常に確認ができるようにした。特に、別葉2と別葉3は、A3一枚に表したため、学級経営簿等に貼ることができ、活用しやすくなった。指導者が指導する際に、別葉を確認することで、内容項目と指導する内容、指導の時期が明確となり、意図的、計画的に道徳教育を行うことができた。

さらに、「2-(3)友情」については、指導の流れがより明確になるよう、指導構想図を作成した(資料4)。

資料4 指導構想図

重点内容項目2-(3)「友情」における道徳の時間の指導構想(1年)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学校行事・特別活動		学活「みんななかよく」 小学校には1年生から6年生まであり、他の学年との関わりを大切にしようとする。(P10~P11)	行事「押しタイム」 友達や上級生といつしょに仲良く遊ぶことができる。		行事「大掃除大会」 各学級でまわって協力したり、助け合ったりすることができる。(P76)	行事「大掃除大会」 各学級でまわって協力したり、助け合ったりすることができる。(P76)	行事「押しタイム」 友達や上級生と仲よく活動することができる。	行事「大掃除大会」 各学級でまわって協力したり、助け合ったりすることができる。(P76)	行事「押しタイム」 友達や上級生と仲よく活動することができる。	行事「大掃除大会」 各学級でまわって協力したり、助け合ったりすることができる。(P76)	行事「押しタイム」 友達や上級生と仲よく活動することができる。	行事「大掃除大会」 各学級でまわって協力したり、助け合ったりすることができる。(P76)
道徳		「ごろんごろんころころ」 2-(2) 親切 身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする実践意欲を養う。(P66)	「およげないりすさん」 2-(3) 友情 友達の良いところを考え、だれでも仲よく助け合っていることを心づかせる。(P78)	「はしのうえのおおかみ」 2-(2) 親切 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする心づかせる。(P70)	「二わのことり」 2-(3) 友情 友達と仲良くし、助け合おうとする心づかせる。(P43)	「ぼくのできること」 2-(2) 親切 身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。(P66~P67)	「がっこうのようむし」 2-(4) 尊敬・感謝 日頃お世話になっている人に感謝しようとする心づかせる。(P87)					
各教科	生活「どきどきわくわく年生」 先生や友達とかわることを通して、楽しく安心して遊びや生活ができる。(P6)	生活「公園探検」 公園での遊びについて友達と話し合い、仲よく遊ぶことができる。(P30)	体育「リズム遊び」 誰とでも仲よく踊ったり、友達と調子に合わせて楽しく踊ったりすることができる。	生活「公園探検」 秋の公園での遊びを考え、みんなで遊びを楽しむことができる。	音楽「たがいのとおをき ころ」 互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、気持ちを合わせて演奏することができる。	生活「がっこうだいすき」 友達といつしょに校舎内や校庭を歩いたり、調べたりして遊びや生活ができる。	体育「水に慣れる遊び・泳ぐ・もぐる遊び」 水の中で進んで運動に取り組む、仲よく運動できる。	体育「ボール投げゲーム」 ゲームについて約束を決めて、みんなと仲よく進んでゲームをすることができる。	生活「あきのおもちやだいしゅうごう」 秋の遊びのおもしろさに気持ちを、みんなと遊び楽しむとともに、人とかわることを楽しむことができる。	生活「もうすぐ2年生 2-(2) 親切」 新しい1年生のことを考え、活動したり準備したりすることができる。	体育「ボール投げゲーム」 運動に楽しんで取り組み、仲よく運動したり、勝敗を受け入れたりすることができる。	
その他	(帰りの会) 「今日のできごと」 「スマイルカード」	(5月~3月) 「縦割り班活動」	(帰りの会) 「今日のありがとう」									

は、「2-(3)友情」についてのねらい
 は、関連価値及び関連した行事・学習についてのねらい
 は、「わたしたちの道徳」を活用、Pはページを示す。
 は、「学校行事・特別活動」各教科での目指す学習の姿
 は、「2-(3)友情」の学習の流れ
 は、「2-(3)友情」と関連価値の学習の流れ

指導構想図は、重点的に指導するに当たり、各教科等と道徳の時間とのねらいや指導の時期とのつながりを明確にすることを目的として作成した。また、その中には、各教科等で目指す児童像や「私たちの道徳」のページを入れることで、指導者がより計画的に指導できるようにした。道徳の授業を組み立てるためだけでなく、各教科等の教材研究をする際にも大いに役立った。一年間でどのような過程を経て、目指す児童像に迫るのが明らかになった。指導構想図を作成、活用することで、道徳教育についての教職員の共通理解が一層深まり、「2-(3)友情」の指導への意識が非常に高まった。

(3) 各教科等における実践

作成した別葉を活用して、道徳との関連を明確にし、各教科等の内容に関わること、学習活動や態度に関わることなどを踏まえ、各教科等の指導を行った。学習指導案にも道徳教育との関連を明記することで、指導者が各教科等と道徳の時間とのつながりを意識して指導することができた。

ア 第3学年体育科「ネット型ゲーム」

体育科の授業は「友達と協力し合っていくことのすばらしさを身体を通して学んでいく場」であることを踏まえ、ソフトバレーボールを用いたネット型ゲームの授業を行った。

児童はこれまでに、道徳の授業で「相手を本当に思いやるとは、どういうことなのか。」についての考えを深め、判断する力を養うことをねらいとする学習を行い、「友情」について深く考える機会があった。また、学級活動では、相手と信頼し合い、悩みを相談し合えるような好ましい人間関係づくりができるよう「あたたかい言葉かけ」という題材の学習を行った。児童は、自分の言葉が相手に与える影響を考え、日常生活の中で「ほめる」「励ます」「心配する」「感謝する」などの言葉かけが大切であることを学んだ。

資料5 体育科の授業の様子



そして、本授業を道徳的心情を育成し、道徳的实践を行う場とした。事前に行った道徳の授業や学級活動とのつながりを意識した体育の授業では、友達を励ます言葉かけをする姿やグループで作戦について活発に話し合う姿が見られた(資料5)。指導者からは、よく協力できた姿への称賛の言葉がかけられた。授業後も、互いに助け合ったり、協力したりする場面を見ることができた。

各教科等の授業では、各教科等でのねらいを達成することが大切であるが、道徳教育との関連を意識することで、目指す児童の姿を明確に持つことができた。また、指導者がどんな言葉かけをするのが明らかになった。

イ 特別活動における実践

道徳教育と特別活動は密接に関連しているため、道徳的实践の場として、特別活動の充実にも努めた。その際、特別活動における様々な活動について、「2-(3)友情」との関わりを十分に吟味した上で計画、実践を行った。

異学年交流として、「なかよしタイム」を実施した。「なかよしタイム」とは、1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生と一緒に活動する異学年交流の場である。以前から年に2回実施していたが、活動を通して目指す児童像を再度明らかにし、教師がねらいを持って、児童への言葉かけ、称賛ができるようにする場を設定した(資料6)。1年生と6年生の「なかよしタイム」では、1年生が楽しく、安全に活動できることを考え、6年生が計画を立てた。当日は、6年生が準備した遊びを1年生が楽しそうに行う姿や6年生が1年生の視線に合わせて優しく声をかける様子が見られた。活動の最後には、6年生から「心配だったけれど、1年生が楽しんでくられる様子が見られてうれしかった。」という感想が発表された。

資料6 なかよしタイムの進め方

友二小「なかよしタイム」の進め方

1・6年との交流

めあて

6年生 ・ 1年生に優しく接することができる。
 ・ 自分の役割に進んで取り組み、最後まで責任をもって行動することができる。

1年生 ・ お兄さんお姉さんとなかよく遊ぶことができる。
 道徳との関連 2-(3)友情
 6年生「相手の立場に立つて」

1 事前の活動(話し合い活動)

○ 活動内容を決める。
 ○ 活動計画を作る。
 ○ 仕事の役割分担を決める。

【指導・支援のポイント】

- ・ 前期のなかよしタイムは、よしタイムは下学年が計画する。
- ・ 児童の発想が生かされるようにする。
- ・ 当日の使用可能な場所や、(家庭)

2 本時の活動

○ はじめの会
 ○ 活動場所に分かれて活動をする
 ○ おわりの会

【こんな姿がみられたらいいな】

6年生 ・ 目線を1年生に合わせている。
 ・ 1年生のことを考える、ゆるめる、声をかける。
 1年生 ・ 自分の役割に進んで6年生に楽しく活動している。
 ・ 困った時は6年生に聞いてもらう!

6年生のお友達をいっぱい作ろう!

困ったことがあったら6年生に聞いてごらん!

(4) 日常生活における実践

ア 縦割り班活動

異学年の交流をさらに広げるねらいで、本年度から「縦割り班活動」も取り入れた(資料7)。「縦割り班活動」は1年生から6年生までの全学年で構成されており、全部で18班ある。下級生が楽しめるように、上級生が遊びのルールを工夫したり、安全に配慮したりする様子が見られた。上級生同士は、話し合いながら役割を分担し、自主的に活動する姿が見られた。

資料7 縦割り班活動の様子



様々なふれあいの場を設定することで、相手の気持ちを考えたり、考えを交流したりし、自分の考えばかりを主張するのではなく、相手を認める場面や譲り合う場面が見られるようになったと考えられる。

イ 人権教育の取組

各学級で、人権尊重教育の視点に立った取組として、友達のよさを認める活動を取り入れた。席替えの前などに、隣の友達に「～してくれてありがとう。」「～していてすごいね。」など、友達のよいところをメッセージカードに書いて手渡す活動を行った。各学級では、「心の木」などの名称の掲示物に、メッセージカードが蓄積されていった。友達からもらったメッセージをうれしそうに読む姿が見られた。また、友達同士だけではなく、教師が児童のよさを認め、伝える活動を取り入れた。「スマイルカード」という名称で、がんばったことをメッセージカードに記入して児童に渡し、連絡帳の後ろに添付させた。カードの授与は、全職員が全児童を対象に行った。これは、児童のよさを保護者に伝える手段にもなった。互いのよさを認

める活動を取り入れることで、友達よさを再発見する場として、また、認め合う雰囲気づくりとして、効果的であったと考えられる。

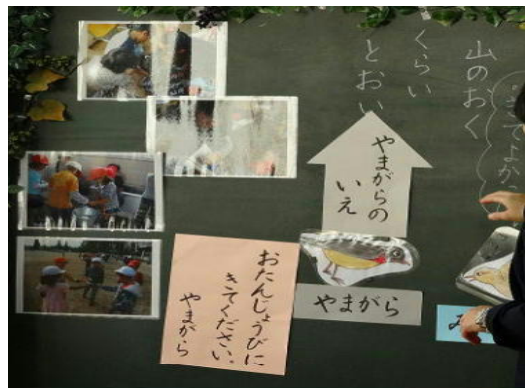
(4) 補充、深化、統合を意図した道徳の時間における実践

別業を活用することで、各教科等との関連を確認し、補充、深化、統合を意図した道徳の授業を意図的、計画的に行った。学習指導案には、各教科等との関連や意図すべき点を明記することで、関連を意識して教育活動に取り組むようにした。また、「2-3-友情」については、各教科等の中で育成できる場面が複数あることが明らかになったため、道徳の授業では深化と統合を意図して行った。

ア 統合を意図した授業 第1学年「二わのことり」

本授業では、「相手の気持ちを考え、友達と仲よくし、大切にしようとする心情を育てる。」というねらいで授業を行った。児童はこれまでの学校生活の中で、友達と助け合ったり、友達の立場に立って考えたりする経験をしていた。係活動では、声をかけ合って協力して活動したり、学習で分からないことがあると教え合ったりする姿も見られた。学級活動では、「ともだちのよいところ」という学習の中で、友達に助けってもらったことや優しくしてもらったことを伝え合う活動をしていた。しかし、それらの活動を全体的なつながりとして考えていない児童が多かった。

資料8 統合を意図した授業の板書



そこで、本授業では、統合を意図した授業を展開した。導入では学級活動で行った「ともだちのよいところ」での学習を想起させた。また終末では、友達同士が仲良くしたり、助け合ったりしている場面などの写真を提示することでふだんの生活を想起させたり、ふだん歌っている友情をテーマとした歌を歌ったりし、ねらいとする道徳的価値について、これまでの道徳教育を統合させた(資料8)。

これらの展開は、児童が自分の生活を改めて振り返り、よいことをしていることに気付いたり、これからの生活に生かそうと考えることに有効であった。ワークシートには、みそさざいの行動に共感し、「やさしいところをまねしよう。」ということを書いていた児童も複数見られた。また、帰りの会の「ともだちのよいところ」では、助けってもらった友達への感謝の気持ちを発表する児童も増えた。

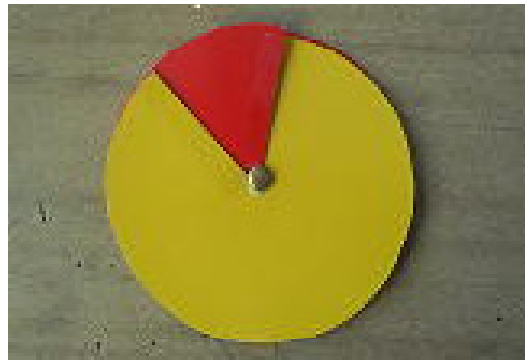
イ 深化を意図した授業 第5学年「友のしょうぞう画」

本授業は、「友達を理解し、互いに信じ合って友情を深めようとする態度を養う。」というねらいで展開した。

児童はこれまでに、教育活動全体を通じて、協力したり助け合ったりすることを経験してきており、友達の存在について、「仲間」、「助け合う存在」など大切なものであることを感じていた。一方、「一緒に遊ぶ人」など表面的な意識しか持っていない児童もいた。学級活動では、「友達に相談されたら」という学習の中で、相手の気持ちを考えることは大切であることを学んでいた。そこで、本授業では、友達や友情の在り方について深く考える機会とするため、深化を意図した授業を行っ

た。児童一人一人が自分の考えを表現できるよう「心のメーター」を用いた(資料9)。そうすることで、人物の心の変化を視覚的に捉えることができるようにするとともに、なぜそのように変化したのか、その根拠を明らかにすることによって、ねらいとする道徳的価値について考えを深化させた。さらに、グループで話し合わせる活動を取り入れ、多様な考えに触れることで、友達や友情の在り方についてより深く考えられるようにした。また終末には、宿泊学習のキャンドルファイヤーで児童が朗読した友情に関する詩(「私たちの道徳」から引用)を用いた。これらの展開は、児童一人一人が、自分の考えを表現したり、友達の考えを聞いたりすることで、「友情」についてこれまでの自分の考えに向き合うために有効であったと考えられる。児童のワークシートの中には、「友達は遊ぶ人だと思っていたけれど、お互いに支え合う存在だ。」という内容も見られ、友達に対する考えが深まった様子も見られた。しかし、一回の授業では、深く考えることが難しいことも事実である。道徳の授業だけではなく、教育活動全体で繰り返し、考えさせることが必要である。

資料9 心のメーター



他の教育活動との関連が明らかになったことで、要となる道徳の授業で、補充、深化、統合をしっかりと意図するとともに、計画的に行うことができるようになった。児童の実態をより把握し、道徳の授業に生かそうとする心構えを持つことができるようになった。また、児童にとっては、他の教育活動を想起したり、結び付けたりすることに有効であった。

(5) 環境の整備

道徳教育に関わる掲示物や児童の様子を掲示をする道徳教育コーナーを設置した。道徳教育コーナーの設置は、道徳の授業への意識はもちろん、他の教育活動とのつながりを意識させることをねらいとし、各学年の廊下に設けた。学年ごとに「2-(3)友情」に関するキャッチフレーズをつけて、道徳教育コーナーの見出しとし、道徳や各教科等の授業で使った掲示物、それに関わる児童の様子などを掲示した(資料10)。また、「私たちの道徳」から、児童に読んでほしい言葉を掲示した。立ち止まって読んだり、見たりする児童の様子が見られ、児童の関心を高められたと考えられる。

資料10 学年の道徳教育コーナー

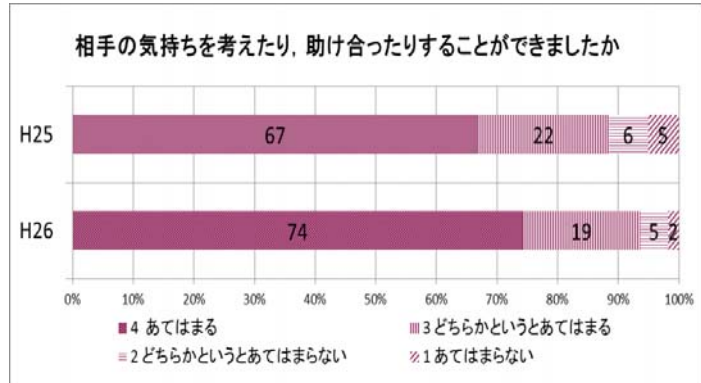


職員室前の廊下には、全児童が見られる道徳教育コーナーを設けた。このコーナーには、特別活動等と関連を図った道徳教育について掲示を行った。児童は、様々な活動の様子をまとめて見ることで、活動のつながりを目にすることができた。保護者や地域の方が来校したときにも、目に触れることになり、道徳教育の啓発となった。

5 成果と課題

(1) 成果

ア 児童の意識調査から、「友情」への意識は、わずかではあるが、高まった(図11)。それは、行動面からも見られるようになった。友達のよいところを言葉や拍手などで称賛したり、「心の木」のメッセージを素直に書いたりすることができるようになっている。また、道徳の授業に対しても好きと答える児童が増えるなど、前向きな気持ちで臨む様子を捉えることができた。



資料11 「2-(3) 友情」に関する意識調査

(平成25年7月17日実施 全学年438人)

(平成26年7月14日実施 全学年414人)

イ 全体計画の別葉を作成、活用したことで、教師は教育活動全体で「友情」について見通しが明確となり、意図的、計画的に指導することができるようになった。各教科等では、道徳教育との関連を意識して授業を行うようになった。また、道徳の授業では、補充、深化、統合を意図したり、教育活動とのつながりを意識したりして授業を行うようになった。

ウ 特別活動では、意図的に児童同士が関わる場を設定したり、道徳との関連を意識して目指す児童像やねらい等を再度明らかにしたりして、実践につなげたことで温かい雰囲気を感じられるようになっている。休み時間には、以前より異学年の児童同士で遊ぶ姿が見られるようになった。また、学年を超えて、相手の気持ちを考えて行動することができるようになっている。

(2) 課題

ア 全体計画の別葉は、教育活動全体を通じて道徳教育を行うためには不可欠であることが分かり、活用しながら、使いやすくなるように改善を図った。しかし、そのためには、多くの時間がかかったことも事実である。本校では、夏休みの研修の時間を利用したが、それ以降も見直しや改善にも時間を要した。それらの時間の確保も課題であった。今後、効率よく作成する方法を考える必要がある。また、指導構想図についても、指導時期や目指す児童の姿だけではなく、補充、深化、統合の意図についても入れるべきかどうかなど、課題が残っている。さらに、それらの資料の活用の充実も課題である。

イ 本研究では、児童の実態を踏まえ、友達との関わりを大切に、相手の気持ちを考えたり、助け合ったりすることができる「互いを認め合う児童の育成」というねらいで実践を行った。今後は、誰に対しても思いやりをもてる児童の育成に努めていきたい。そのため、保護者や地域へのさらなる啓発も必要があると考えている。

ウ 道徳の授業では、補充、深化、統合を意図した授業の展開を進めてきた。しかし、同じような展開になってしまうため、授業展開の在り方についても、さらに研修を深めていきたい。

道徳教育全体計画【全体計画】道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連(第1学年)

別葉1

	道徳	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	特別活動(学級活動)	特別活動(学校行事)	備考	
2-(1) 礼儀	いつても、どこでも(4月) あいさつ 明るく (わ)あいさつから、はじまるたびにて あいさつ (6月)	はきはきあいさつ(4月) あいさつ 明るく				みんながかざろう(5月) 人との接し方			なか日タイ (6月11日) みんな仲良く 人権集会(2月) 互いのよ ささ 大縄大会(2月) 動けあつて		
2-(2) 親切	ごみんごみん(4月) 仲良く 助けあふ はしのうまのおおかみ(わ)(10月) 優しく 親切 ほくにてきること(1月) 親切 思いやり	はきはきあいさつ(4月) あいさつ 明るく		まるとぐねん(中)(12月) 親戚への思い 相手の立場になって	うたでなか日(1)になろう(4月) みんな仲良く (1)なか日 みんな仲良く たがいの志と志(2月) おんがく(3月) 友達のおいところ	プレゼントをばらそ(10月) 思いやり 親切	たのしくあそぼう(4～5月) なかよく	みんなとあそぼう(5月) 友達のおいところ 友達のおいところ	1年生を迎える運動会しよう(2月) 親戚への思い 相手の立場になって		
2-(3) 友情	おとぼけ(11月) 仲良く 助けあふ 二つのこころ(12月) 仲良く 友達のために	みつけよう(4月) 仲良く 助けあふ かいたが(6月) 友達 仲良く おとぼけ(7月) おとぼけ(12月) 仲良く 助けあふ 花いっばい(3月) 優しい 喜び つながり		ひまわり(4月) 仲良く 助けあふ かいたが(6月) 友達 仲良く おとぼけ(7月) おとぼけ(12月) 仲良く 助けあふ 花いっばい(3月) 優しい 喜び つながり	ひまわり(4月) 仲良く 助けあふ かいたが(6月) 友達 仲良く おとぼけ(7月) おとぼけ(12月) 仲良く 助けあふ 花いっばい(3月) 優しい 喜び つながり	プレゼントをばらそ(10月) 思いやり 親切	みんながかざろう(5月) つながり	みんなとあそぼう(5月) 友達のおいところ 友達のおいところ		なか日タイ (6月11日) みんな仲良く 人権集会(2月) 互いのよ ささ 大縄大会(2月) 動けあつて	
2-(4) 尊敬・感謝	おとぼけ(11月) おとぼけ(12月) おとぼけ(3月) おとぼけ(3月) おとぼけ(3月) おとぼけ(3月)	はきはきあいさつ(4月) あいさつ 明るく		おとぼけ(11月) おとぼけ(12月) おとぼけ(3月) おとぼけ(3月) おとぼけ(3月)		プレゼントをばらそ(10月) 思いやり 親切			プレゼントをばらそ(10月) 思いやり 親切		
2-(5)											
2-(6)											

別業2

道徳教育全体計画別業 道徳の時間と各教科、領域の指導内容・時期との関連(1年)

第1学年の 重点目標	2-③友情			1-② 動物努力			4-① 公徳心・規則尊重		
	・友達と仲よくする。	・自分のためあてを決め、それに向けてがんばる。	・約束やまじりを守る。	・動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	・動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	・動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	・動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	・動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	・動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
1年生にかかわる主な価値項目	始業式1-①動物努力 入学式1-①動物努力 交通安全教室1-①公徳心・規則尊重	進路訓練1-①公徳心・規則尊重 生活学習1-①動物努力	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎
1年生にかかわる主な価値項目	入学式1-①動物努力 交通安全教室1-①公徳心・規則尊重	交通安全教室1-①公徳心・規則尊重	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎	仲良しタイム2-③友情◎
道徳	文芸鑑賞 2-①礼儀	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
学級活動(1)	新しい服装 1-①動物努力 1-①動物努力	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
学級活動(2)	整理・整頓の仕方 1-①動物努力	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
クラブ/児童会	1年生を迎える会 4-①愛校心	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
国語	あめです 3-②友情◎ 3-②友情◎	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
算数	10までの「が」 1-①動物努力	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
生活	どきどきわくわくお楽しみ 1-①動物努力 2-③友情◎ 4-①動物努力	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
音楽	「ひらいたひらいた」 3-②自然愛・動物愛護 2-③友情◎ 2-③友情◎	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
図工	かんじこを 3-②動物愛護 3-②動物愛護	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
体育	たのしくかまぼこ 2-②動物愛護 4-①動物努力	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。
地域・家庭との連携等	動物の気持ちを考えて、大切にしよう。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。	動物の力を活かして、自分や仲間を助ける。

道徳教育全体計画【重点内容】道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連(第1学年)

	道徳	国語	算数	生活	音楽	図画工作	体育	特別活動(学級活動)	特別活動(学校行事)	備考	
1-(2) 動機努力	かんばしくあそぶ【6月】 あきらめずに最後までがんばる【6月】 あきらめずに最後までがんばる【6月】	みつけたよ【4月】 友達 仲間 【かいがら】【6月】 友達 仲間 【おおきなから】【7月】 助ける 【花】 伝え合う 【花】 伝え合う 【花】 伝え合う 【花】		どきどきわくわく抱っこ【4月】 仲よし 友達 【かっこだいすき】【6月】 仲よし 助ける 【なつだいっしょにあそぼう】【6月】 助ける 【いきものとなかよし】【9月】 いきもの 【あきのおもちやだいしゅうごう】【11月】 みんな	うたでなかよ【4月】 【しにらう】 みんな 【うたでさんぽ】【4月】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】		みななでかぞ【5月】 【つながり】	みずにはられる、遊び・泳ぐもぐる遊び【6～7月】 なかよく水遊び 【リズム遊び】 なかよく水遊び 【ボール投げゲーム】 なかよく水遊び 【ボール投げゲーム】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】	はじめての運動会【9月】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】	休業式【9月】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】	
2-(3) 友情	おまげがいらすさん【9月】 仲よく 助ける 【わのこ】 仲よく 友達のために 【わのこ】	【みつけたよ】 友達 仲間 【かいがら】 友達 仲間 【おおきなから】 助ける 【花】 伝え合う 【花】 伝え合う 【花】 伝え合う 【花】		どきどきわくわく抱っこ【4月】 仲よし 友達 【かっこだいすき】 仲よし 助ける 【なつだいっしょにあそぼう】 助ける 【いきものとなかよし】 いきもの 【あきのおもちやだいしゅうごう】 みんな	うたでなかよ【4月】 【しにらう】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】		みななでかぞ【5月】 【つながり】	みずにはられる、遊び・泳ぐもぐる遊び【6～7月】 なかよく水遊び 【リズム遊び】 なかよく水遊び 【ボール投げゲーム】 なかよく水遊び 【ボール投げゲーム】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】	はじめての運動会【9月】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】	なかよしタイム【6月】 みんな仲よく 人権集会【12月】 互いのよさを 大賞大会【2月】 助けて	たてわり運動会 【あそび】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】
4-(1) 規則尊重・公徳心	じゆぎょうがはじまり【5月】 約束 守り みんなであそぶ【10月】 黄色いペンチ【10月】 みんなであそぶ【10月】 みんなの約束【10月】	ほんがたにさん【4月】 約束 守り みんなであそぶ 【あそび】	なんぼんめ【5月】 約束 守り あわせていくつ【6月】 約束 守り 【のこりのこり】 約束 守り 【3つのかず】 約束 守り 【たしざん】 約束 守り 【ひきざん】 約束 守り 【すくわ】	どきどきわくわく抱っこ【4月】 仲よし 友達 【かっこだいすき】 仲よし 助ける 【なつだいっしょにあそぼう】 助ける 【いきものとなかよし】 いきもの 【あきのおもちやだいしゅうごう】 みんな	うたでなかよ【4月】 【しにらう】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】 みんな 【うたでさんぽ】		みななでかぞ【5月】 【つながり】	みずにはられる、遊び・泳ぐもぐる遊び【6～7月】 なかよく水遊び 【リズム遊び】 なかよく水遊び 【ボール投げゲーム】 なかよく水遊び 【ボール投げゲーム】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】 なかよく水遊び 【多様な動きをつくる運動遊び】	はじめての運動会【9月】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】 運動会 【あそび】	交通安全教室【4月】 約束 守り みんなであそぶ【10月】 黄色いペンチ【10月】 みんなであそぶ【10月】 みんなの約束【10月】	

重点内容項目 2 - (3) 「友情」における道徳の時間の指導構想 (1年)

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学校行事・特別活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">学活「みんななかよく」 小学校には1年生から6年生まであり、他の学年との関わりを大切にしようとする。(P10～P11)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">行事「人権集会」 互いのよさを認め合い、助け合って生活することができるとができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">行事「6年生を送る会」 2 - (4) 尊敬・感謝 お世話になった6年生に感謝し、卒業を祝うことが出来るようにする。</p> </div> </div>											
道徳	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">行事「仲良しタイム」 友達とや上級生といっしょに仲良く遊ぶことができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">学活「女だちのよいところ」(～8月) 友達の良いところを見つけていくことができる。(P25)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">行事「大縄大会」 各学級でまともな協力したり、助け合ったりすることができる。(P76)</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「ごろんごろんころろ」 2 - (2) 親切 身近な人に温かい心で接し、親切にしようとする実践意欲を養う。(P66)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「はしろうえのおおかみ」 2 - (2) 親切 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする。(P70)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「ぼくにできること」 2 - (2) 親切 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする態度を育てる。(P66～P67)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「がっこうのようむしゅじさん」 2 - (4) 尊敬・感謝 日頃お世話になっている人に感謝しようとする心情を育てる。(P87)</p> </div> </div> </div>											
各教科	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「どきどきわくわく1年生」 先生や友達とかわることを通して、楽しく安心して遊びや生活ができる。(P6)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「公園探検」 公園での遊びについて友達と話し合い、仲よく遊ぶことができる。(P30)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「公園探検」 秋の公園での遊びを考え、みんなで作ることを楽しむことができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">音楽「たがいのおとをきこう」 互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、気持ちに合わせて演奏することが出来る。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「およげないすき」 2 - (3) 友情 友達の気持ちを考え、だれでも仲よく助け合っている心情を育てる。(P78)</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「あきのあきのおおしゅうこう」 2 - (2) 親切 秋の遊びのおもしろさに気付く、みんなで作ることを楽しむことができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「もうすぐ2年生」 2 - (2) 親切 新しい1年生のことを考え、活動したり準備したりすることができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「たがいのあきをおとをきこう」 互いの歌声や楽器の音を聴き合いながら、気持ちに合わせて演奏することが出来る。</p> </div> </div> </div>											
その他	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">行事「仲良しタイム」 友達や上級生と仲よく活動することができる。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「今日のできごと」 (5月～3月) 「縦割り班活動」</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「今日のあき」 (帰りの会) 「今日のあき」として</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">生活「今日のあき」 (帰りの会) 「スマイルカード」</p> </div> </div>											

は、「2 - (3) 友情」についてのねらい
→
は、関連価値及び関連した行事・学習についてのねらい
→
は、「わたしたちの道徳」を活用、Pはページを示す。
→
は、「2 - (3) 友情」の学習の流れ
→
は、「2 - (3) 友情」と関連価値の学習の流れ

授業の視点	学び合いを通して、ネット型ゲームの楽しさや喜びを実感できる学習活動の工夫
-------	--------------------------------------

1 単元名 ゲーム（ネット型ゲーム：ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム）

2 単元の目標

- (1) 友達と教え合い，励まし合って，進んで練習やゲームをしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- (2) ソフトバレーボールの行い方を知り，楽しく試合ができるように，練習やゲーム試合をするときのルールや作戦を工夫することができる。
(思考・判断)
- (3) サービス，キャッチ，パス，アタックなどをして，試合を楽しく行うことができる。
(運動の技能)

3 単元について

本学級の児童は，体育の学習が好きで，授業に積極的に取り組んでいる。体力テスト測定時には，高得点を目標として工夫して活動したり，運動を楽しみながら友達と学んだりしている姿が見られた。ボールを使った学習は，他の体育の学習よりも好んでいる児童が多いが，苦手としている児童も少なくない。中休みや昼休みにはボール遊びが多く，男女一緒にサッカーやドッジボールをしていいる。一方，サッカーやドッジボールなどのボール遊びが苦手な児童も一部見られる。本単元では，ボールを使った学習の楽しさを味わえるように指導していきたい。

本単元は，学習指導要領3・4学年の内容Eゲーム(1)のイに記されているより「ネット型ゲームの運動を楽しく行い，ラリーを続けたり，ボールをつないだり楽して易しいゲームをする」とをねらいとする。低学年までは，ボールゲームを養ってむきて簡単なボール操作などをして体験し，ボールを蹴ったり感覚をとってパスしたり，その体験を相手コートへ返したりできるように指導していく。指導にあたっては，はじめの段階では，ごく軽量のボールを用意し，味方や相手のコートに返してラリーゲームをする。後半では，児童が簡単なルールやマナーを決めて，易しいゲームをする。児童の実態に応じて，サービス・パス・アタックなどのボール操作，ボールの落下点へ走り込む動きなど，どの技能を高めるための練習を行うようにする。また，練習やゲームをする中で，チームで友達と教え合ったり，励まし合ったりしながら，ソフトバレーボールの楽しさや

4 道徳との関連

小学校学習指導要領解説に道徳と体育の関連について、「体育科は，根気よく努力することの尊厳や，友達と協力し合っていくことのすばらしさを身体を通して学んでいく場であり，それは道徳教育そのもの」と述べられている。これを踏まえて内容項目2-(3)「友情」の道徳の時間の事後に体育科「ネット型ゲーム」を関連付けた。体育科の学習を通して，道徳の時間に育んだ道徳的心情や道徳的実践意欲を実践する場として指導できると考える。

5 単元の評価規準

◎は十分に満足できる状況

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
学具体的 習動的な 評価規 準	①練習に◎粘り強く取り組もうとする。 ②◎自ら進んで友達にアドバイスしたり励ましたりしようとする。 ③ゲームの勝敗に対して正しい態度をとり，ルールやマナーを◎常に守りながら運動している。	①学習カードを基に，◎創意工夫して自分やチームに合った練習をする。 ②学習カードを活用して◎自分や相手チームの特徴に応じてアドバイスしたり励ましたりしている。	①ねらった場所へ◎正確にボールをコントロールすることができる。 ②◎安定した動きで正確にサービス，キャッチ，パス，アタックなどができる。

6 指導と評価計画（7時間扱い）

学習のねらい・活動		評価計画																						
		関	思	技																				
はじめ	<p>○学習の進め方やねらい，内容を理解する。 ○ソフトバレーボールの学習準備をする。</p>	③																						
1	<p>1 学習の進め方について知る。 ・学習の約束，単元の流れ，学習カードの使い方 2 学習のねらいについて確認する。 3 用具の扱い方と安全面の配慮の仕方について知る。 4 準備運動をする。 5 チーム編成をする。</p>																							
なか	<p>1 準備運動・ボール慣れをする。 ・ミニハードル，投げ上げキャッチ，キャッチボール（上下） 2 学習のねらいを確認する。</p> <p>ねらい① ボールを相手コートに落としたり，自分たちのコートに落とさないようにして，ソフトバレーボールをしよう。</p> <p>[第2時] [第3時]</p> <p>ルールを守って楽しくゲームができる。 よりよいルールを選び，より楽しくゲームができる。</p>				① ② ③	① ②	①																	
2	<p>3 チームの作戦タイムをする。 ・チームのめあて（作戦）を確認しミニゲームをする。 対面キャッチ，対面パス，対面アタック，アタックゲームなど</p>																							
3	<p>ねらい② チームで攻め方，守り方を工夫して，ソフトバレーボールをしよう。</p>																							
4	<p>[第4時] [第5時] [第6時]</p> <p>ソフトバレーボールの攻め方を知り，チームのめあてをたて，楽しくゲームができる。 簡単な作戦をたてそれに合うミニゲームを選んで，楽しくゲームができる。</p>																							
5	<p>4 ゲームをする。（5分間×3）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1コート</th> <th>2コート</th> <th>3コート</th> <th>審判</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゲーム①</td> <td>B対H</td> <td>C対G</td> <td>D対F</td> <td>A・E</td> </tr> <tr> <td>ゲーム②</td> <td>A対G</td> <td>B対F</td> <td>C対E</td> <td>H・D</td> </tr> <tr> <td>ゲーム③</td> <td>H対F</td> <td>A対E</td> <td>B対D</td> <td>G・C</td> </tr> </tbody> </table>		1コート	2コート				3コート	審判	ゲーム①	B対H	C対G	D対F	A・E	ゲーム②	A対G	B対F	C対E	H・D	ゲーム③	H対F	A対E	B対D	G・C
	1コート	2コート	3コート	審判																				
ゲーム①	B対H	C対G	D対F	A・E																				
ゲーム②	A対G	B対F	C対E	H・D																				
ゲーム③	H対F	A対E	B対D	G・C																				
6	<p>5 本時のまとめをする。 ・友達のよい動きやよい声かけについて話し合う。 ・作戦や選んだミニゲームはどうだったか話し合う。 ・クラス全体で振り返る。</p>																							
まとめ	<p>○ソフトバレーボール大会をしよう。</p>	③		① ②																				
7	<p>1 準備運動・ボール慣れをする。 2 学習のねらいを確認する。 3 ソフトバレーボール大会をする。 4 単元のまとめをする。</p>																							

7 本時の指導

(1) 目標

- ・友達と教え合い，励まし合って，進んで練習やゲームをしようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・サービス，キャッチ，パス，アタックなどを正確にできる。
(運動の技能)

(2) 準備・展開

学習カード・ソフトバレーボール・ホワイトボード・得点板・タイマー・ゲーム用ゼッケン

(3) 展開 (6 / 7)

	学習活動・内容	指導上の留意点及び評価																
はじめ 10分	1 集合，整列，あいさつをする。 2 準備運動・ボール慣れをする。 ・ミニハードル，投げ上げキャッチ，キャッチボール(上下) 3 本時のねらいを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 簡単な作戦をたて，それに合う練習方法を選んで，楽しくゲームをしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よくあいさつをして，本時の学習意欲を高めさせる。 ・児童の様子から健康状態を把握し，見学者の確認と指示を行う。 ・一つ一つの動きを正確に行えるように声をかける。 ・本時のねらいと自分のめあてを確認させる。 																
なか 30分	4 チームの作戦タイムをする。 ・チームのめあて(作戦)を確認しミニゲームをする。 対面キャッチ，対面パス，対面アタック，アタックゲームなど 5 ゲームをする。(5分間×3) <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>1コート</th> <th>2コート</th> <th>3コート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゲーム①</td> <td>B対H</td> <td>C対G</td> <td>D対F</td> </tr> <tr> <td>ゲーム②</td> <td>A対G</td> <td>B対F</td> <td>C対E</td> </tr> <tr> <td>ゲーム③</td> <td>H対F</td> <td>A対E</td> <td>B対D</td> </tr> </tbody> </table>		1コート	2コート	3コート	ゲーム①	B対H	C対G	D対F	ゲーム②	A対G	B対F	C対E	ゲーム③	H対F	A対E	B対D	<ul style="list-style-type: none"> ・和やかな雰囲気の中でチームごとに教え合えるように助言する。 ④ 友達にアドバイスしたり，励まし合ったりしている。(関・意・態)(観察) ・できないときややり方がわからないときには，聞いたり見たりできるようにさせたい。 ・ゲームでは，チームごとに積極的に取り組めるような方法を助言する。 ⑤ サービス，キャッチ，パス，アタックなどを正確にできる。 (運動の技能)(観察・学習カード)
	1コート	2コート	3コート															
ゲーム①	B対H	C対G	D対F															
ゲーム②	A対G	B対F	C対E															
ゲーム③	H対F	A対E	B対D															
まとめ 5分	6 本時のまとめをする。 ・友達のよい動きやよい声かけについて話合う。 ・作戦や選んだミニゲームはどうだったか話合う。 ・クラス全体で振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・努力の様子が見られた児童に発表させ，活動を称賛するとともにチームでの学習の仕方についても称賛する。 ・お互いに学び合うことで技術が向上したことを実感させたい。 																

(4) 場の設定

ステージ		タイマー
③コート		得点板
②コート		得点板
①コート		得点板

ホワイトボード

本時の視点	多様な考えに触れ、道徳的価値を自覚させるための授業展開の工夫
-------	--------------------------------

- 1 主題名 信じ合う心 2-(3) 友情
- 2 ねらい 友達を理解し、互いに信じ合って友情を深めようとする態度を養う。
- 3 資料と出典 「友のしょうぞう画」(文部省)

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

高学年における内容項目の2-(3)は、「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力して助け合う。」である。これは、友達関係において基本とすべき精神を述べたものであり、友達との間に信頼と友情及び助け合いの精神をもった児童を育てようとするものである。高学年においては、お互いの信頼のもとに学び合う活動を通して互いに磨き合い、真の友情を育てることを目指している。

高学年の児童は、友達と仲よくして助け合っていこうとする意識は育っている。また、友情の在り方について考え、真の友情を育てたいと願う心をもち始める時期でもある。しかし、自分勝手な考えや些細なことでの感情の行き違いで、友達関係が台無しになってしまったり、相手からの思いやりばかりを期待したりすることもある。

そこで、ここでは、友達とは単に仲がよいだけではなく、互いをよく理解し、助け合い、信じ合うことで友情が深まることに気付かせたい。また、真の友情や友情の尊さについて理解を深め、友情がより確かなものになるよう指導したい。

(2) 児童の実態(*名)

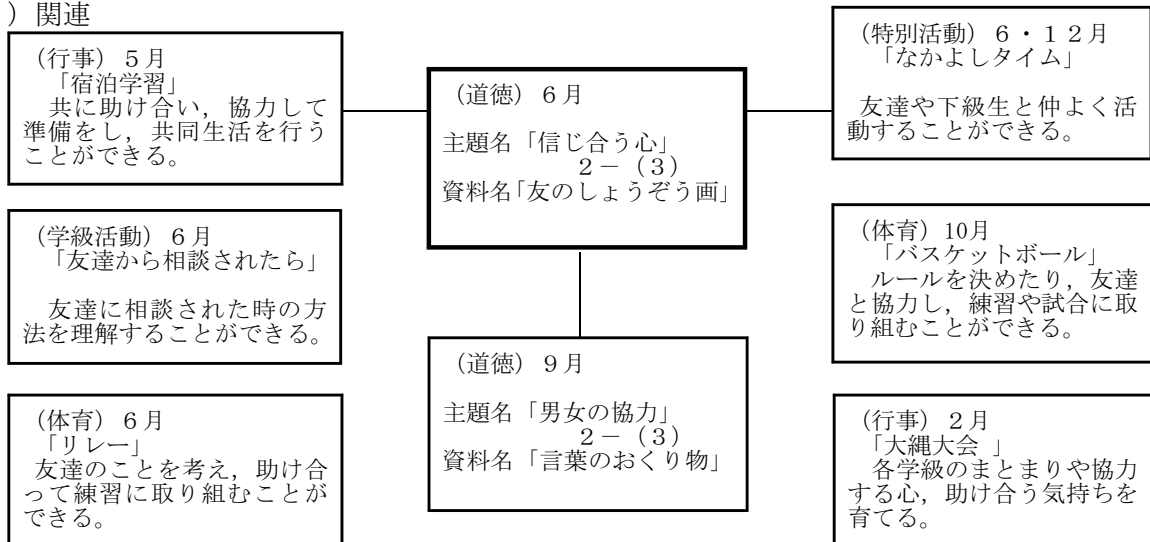
本学級の児童は、学校生活にもだいたい慣れ、学習や遊びも活発になっている。以前と比べると、友達同士の関わりも多くなり、休み時間には鬼ごっこなどで元気に遊んだり、声をかけ合って係活動をしたりする場面が見られる。また、事前調査から、学校で「楽しい」と感じるものの一つに「友達と一緒に遊ぶとき」を挙げる児童が多く、友達の存在は児童にとって大きなものとなっていることが分かった。また、友達は困った時に優しくしてもらったり、助けてもらったりしてくれる存在であることを感じている児童がいる。一方で、相手から何かをしてもらうことを期待した受動的な考えから抜け出せない児童もいることも分かった。ここでは、児童の友達に対する素直な気持ちを引き出すと共に、「相手の気持ちを考え、友達を大切にしようとする」というねらいとする価値に気付くことができるようにしたい。また、登場人物と自分を重ねたり、ふだんの生活を振り返ったりすることを通して、友達を思いやる温かい心情を養っていききたい。

(3) 資料について

本資料は、友情を誓い合って離ればなれになった幼なじみの和也(ぼく)と正一のその後の行動から友情について深く考えさせる資料である。しばらく互いに文通していたが、そのうち病気で療養していた正一からの手紙が来なくなることで和也も手紙を書かなくなった。一年ほどして、和也は正一が筋肉を鍛えるために挑戦した「友のしょうぞう画」という作品を見て、自分に対する正一の気持ちを知り、涙を流す。互いを理解し、信じ合って友情を深めていこうとする心情を養う上で有効な資料であると考えられる。

5 全教育活動における道徳の時間との関連

(1) 関連



(2) 深化を意図した指導の工夫

児童は、今までの経験から友達は大切なものであることは分かっている。しかし、友達や友情の在り方について深く考える機会は十分にはない。本授業では、和也の正一に対する思いを「友情メーター」を用いて表し、その変化を視覚的に捉えることができるようにするとともに、なぜそのように変化したのかの根拠を明らかにすることによって、ねらいとする価値を深化させていきたい。また、グループで話し合わせる活動を取り入れ、多様な考えに触れることで、友達や友情の在り方についてより深く考える機会としたい。

6 本時の指導

(1) 準備・資料

場面絵、事前アンケートの結果、友情メーター、ワークシート

(2) 展開

主な活動と問いかけ	児童の予想される反応	指導上の留意点・評価
<p>1 自分にとっての「友達」について話し合う。 ○あなたにとって友達とはどんな人ですか。</p> <p>2 資料「友のしょうぞう画」の範読を聞き、話し合う。 ○「ぼく」は、どんな気持ちで正一を見送ったのでしょうか。</p> <p>○正一から手紙がこなくなって「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>◎「友のしょうぞう画」を見たとき、「ぼく」はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>3 今までの自分を振り返り、話し合う。 ○今日の授業で、あなたが大事にしたいと思ったことは何ですか。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊ぶと楽しい。 ・助けてくれる。 ・相談できる。 ・何でも話し合える。 ・ずっと友達だよ。 ・もう会えなくなってしまうのかな。 ・寂しいな。 ・療養をがんばって。 ・どうしたのだろう。 ・具合が悪くなってしまったのかな。 ・新しい友達ができたのかな。 ・ぼくのことなんて忘れてしまったのだろう。 ・がんばったな。 ・すごいな。 ・ぼくをかいてくれてありがとう。 ・正一を疑ってしまっって悪かったな。 ・ごめんね。 ・また手紙を書こう。 ・いつまでも友達だよ。 ・友達のことを大切にしたい。 ・離れていても、友達は大切なんだ。 ・友達のことをよく分かってあげないといけないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にとっておいたアンケートも活用し、ねらいとする価値への方向付けをする。 ・親しい二人の関係について十分に押さえてから発問に入る。 ・「友情メーター」を使って「ぼく」の気持ちを考えていくことを伝えておく。 ・正一のことを心配する思いだけではなく、自分本位な思いもあることにも気付かせさせたい。 ・「友情メーター」が変化する理由を考えさせ、グループで話し合うことで、多様な考え方に触れさせたい。 ・版画を見たときの衝撃や正一への思いの変化をしっかりと考えさせ、ワークシートに記入させる。 ・「ぼく」が正一を信頼しきれずにいたことを後悔するとともに、正一の自分に対する思いに気付いたことを児童と共有することで価値への焦点化を図っていききたい。 ・正一がどんな思いで版画を作ったのかということにも触れることで、「ぼく」の思いを考える助けとしたい。 ◎「ぼく」の心の変化を通して、友達を理解し、信頼しようとする気持ちをもつ。(ワークシート・発表) ・ワークシートに、本時の学習を通して大事にしようと思ったことを書く活動を設け、自分をみつめる手立てとしたい。 ・「友」という漢字の成り立ちについて話をする。 ・「私たちの道徳」P72の詩を範読し、余韻を残して終わりたい。

(3) 事後の指導

学級活動で行う「友達のよいところ」での掲示を継続したり、学習や日常生活の中での活動を通して友達を大切にしようとする事への意欲付けを行う。

(4) 板書計画

<p>友情</p> <p>場面絵</p> <p>「友のしようぞう画」を見たとき</p> <ul style="list-style-type: none">・ がんばったな。・ 一年もかけてすごいな。・ ぼくをかいてくれてうれしな。・ 正一をうたがってしまって悪かったな。・ これからの友達だ。 <p>心の底から友達っていいなと思ったとき</p>	<p>友情</p> <p>文通</p> <ul style="list-style-type: none">・ 正一から手紙がこなくなる・ どうしたのだろう。・ 具合が悪くなったのかな。・ ぼくのことなんかわすれてしまったんだ。・ 新しい友達ができたんだな。	<p>友情</p> <p>場面絵</p> <ul style="list-style-type: none">・ 正一を見送る・ さびしい・ もう会えないかな。・ ずっと友達だよ。	<p>友情</p> <p>正一 ぼく</p> <p>難病 九州のりよう養所</p> <p>友達とは</p> <ul style="list-style-type: none">・ 遊ぶと楽しい。・ 相談にのってくれる。・ 助けてくれる <p>友のしようぞう画</p> <p>おさななじみ・いっしょ</p> <p>「大きくなっても、ずっといっしょ」</p> <p>野球</p>
---	---	---	---

【実践事例】 自他の生命を尊重する児童の育成を目指した取組

日立市立大沼小学校

URL : <http://www.onuma-e.hitachi-kyoiku.ed.jp/>

1 学校の概要

本校は日立市の南東部に位置し、東は太平洋に面し、西は国道6号に至る。学級数は、23クラス、児童数570名で日立市では大規模校の一つである。本校の学校教育目標は、「夢を持ち、感性豊かで、たくましい大沼っ子の育成」である。今年で創立63年を迎え、学校と家庭・地域が連携し、地域のボランティア活用にも力を入れてきた。

2 児童の実態

子どもたちの意識調査からは、「生き物や人の命を大切にしなければならない」と感じている児童が多いことが分かる。しかし、ふだんの生活の様子をみると、他人の思いに気付いていても主体的に助け合ったり、関わりあったりする深まりのある関係が築けていない。また、固定的な判断により、自分とは異なる言動について排他的な行動を取る様子や、間違ったことがあっても表面的に仲間に合わせ、人間的なつながりに深まりがない児童が見られる現状がある。

3 取組の概要

本校の重点目標の一つである「生命尊重」に目を向け、自分の命も他人の命も大切に、明るく生き生きと生活できる児童の育成を目指した。かけがえのないものとして生命を捉え、実感させ、児童一人一人の心に響かせるためには、道徳の時間を要として各教科等と関連を図った道徳教育を進めていくことが必要であると考えた。

これまでの本校道徳の授業実践では、読み物資料を中心に道徳的価値に迫ってきた。資料を通して自分の生き方を振り返ることが中心であったため、資料と現実との間に壁があることもあった。そこで、本校では、実感を伴う道徳の授業を展開しようと考えた。まず、生命尊重を重点的に指導する計画を立て、年間を通して他の教科等と道徳の時間との関連を図り、学校の教育活動全体で取り組むように考えた。資料については、読み物資料の他に、視聴覚教材（写真、ビデオ等）を準備し、またゲストティーチャーや自作資料を用いて、児童の心に訴えかけられるようにしていくことにした。さらに、総合的な学習の時間や学校行事、地域との連携を図った実体験を伴った道徳的实践の場を設定した。

これらの活動を通して、児童一人一人が自分や他人の命を大切にしようとする心情が深まるのではないかと考えた。

4 実践内容

(1) 全体計画の別葉の作成

以前は、多くの学年で「道徳の時間と教科との関連表」を年間指導計画として活用していた。これには、道徳の時間と他の教科との関連が月ごとに示されていて、見通

しを持ちやすかった。しかしそれだけでは道徳の時間に行う内容項目が分かりづらく、他の教科での内容項目がはっきりと理解できないという欠点があった。

そこで学校全体で別葉の作成に取り組んだ。作成にあたっては、「道徳の時間と教科との関連表」を基に、各教科の指導書やこれまで活用してきた年間指導計画を参考にした。また、別葉には各教科の内容にキーワードを入れ、その授業の中でどのような道徳的価値に迫るのかが分かるように工夫した（資料1）。

別葉の作成には約1年を必要とした。まず、25年度の夏の研修時に課題研究主任が別葉の作り方について、全職員へ説明を行った。それを受けて各学年で担当の教科を割り振り、別葉の枠にそれぞれの内容やキーワードを入れていった。各教科は全ての単元が道徳的価値とつながりがあるとは限らないため、関連するかどうかの検討も各学年で行われた。

一通りできた別葉を春休みには再度見直し、年間を通して不具合があったかどうかを調整し、26年度の実施に至った。

別葉への書き込みは、あくまでも当時の年間計画に基づき学年担当者が記入したため、毎年見直しが必要であるということは常々職員には伝えてきた。そこで、別葉にも変更がある場合には朱書きで書き加えていくよう周知を図っていった。

資料1 別葉作成までの過程

第5学年 道徳の時間と教科との関連表

道徳	1 星野君と定家君 (友情) 2 ひとふみ十年 (自然愛) 3 待合い室で出会った少女 (礼儀)	4 父の言葉 (親切) 5 ふくらんだリュックザック (規則尊重) 6 消えたマイケル (公正公平)	7 コロナのかがやき(敬けん) 8 キャプテン (希望・勇気・努力) 9 夏休みの白川郷 (郷土愛) 10 ボランティアクラブに入って (勤労)	11 もじスト 12 命の 13 おも
学年行事	始業式 避難訓練 授業参観	1年生歓迎集会 10 運動会	プール開き 12 課題研要請訪問 芸術鑑賞会 16 親子学習会 授業参観	終業式
国語	4月 だいたいようぶ だ いじょうぶ4 メモを使って題材 を探そう3	5月 ゲストティーチャー をすいせんしよ う3 漢字の由来に関心	6月 意見とその理由を 聞き取ろう3 熟語の構成をしろう2	立場を 書こう 古文を 読んで

↓

道徳教育全体計画【別葉】小学校（第5学年）
道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連

	道徳	国語	社会
3-(1) 生命尊重	7月 精一杯生きる 一命のアサガオ かけがえのない生命を大切に、精一杯に生きようとする。 11月 尊い命 一稲むらの火で命を救えー 生命がかけがえのないことを知り、 他の生命を尊重しようとする心情を育てる。 2日	4月 だいたいようぶ だ いじょうぶ 情景を思い浮かべながら物語を読み取る。 生命尊重	9月 水産業のさ 静岡県 魚や海を守り 取り組みとし つき保安林 の放流、持続 開発について 2月 わたしたちの 森林 本は人間の かりでなく多 植物にとつて せないこと

↓

キーワード

(2) 全体計画の別葉の活用

全体計画の別葉は、道徳の内容項目【1 主として自分自身に関すること】から【4 主として集団や社会とのかかわりに関すること】までを載せるとA3判4枚になり、ふだん活用するには使いづらいものになってしまった。そこで本校ではさらに

活用しやすいものにするために、重点目標としている「生命尊重」に関するところだけを取り出し、『「生命尊重」指導計画』を各学年で作成することにした（資料2）。指導計画には各教科と総合的な学習の時間、特別活動が道徳の時間（本時のねらい）とどのような関係があるのかを、矢印で表記し工夫した。

資料2 「生命尊重」指導計画

【第2学年 「生命尊重」指導計画 ～一部抜粋～】			
月	各教科	道徳の時間	総合、特別活動
4			
1	国語「思い出ブックを作ろう」 1年間を振り返り、心に残っていることが伝わるように文章に書く。	助産物にも何かめることに刃付き、生命を大切にしようとする心情を育てる。	
2		第4次 はじめてのプレゼント ④ 自分の名前には周囲の人々の願いがこめられており、自分が周りの人に支えられ生きていることを知ること喜びを感じ、希望をもって前向きに生活していこうとする心情を育てる。	
3	生活「みんな大きくなったよね」 自分の成長を振り返り、支えてくれた多くの人々に感謝の気持ちをもつ。		学活「ぼくのおへそわたしのおへそ」 生命の誕生について知り、生命のかけがえのなさを実感する。

これを4月に各学年に配付し、「生命尊重」を各教科でも意識して取り組めるようにした。これはあくまでも、重点目標としている生命尊重を分かりやすくしたものであり、今回の研究にも役立ち、活用しやすいものであるが、生命尊重以外の内容項目でも、道徳と各教科との関連はこのようなものがあると便利であるように感じた。

(3) 各教科等における実践

ア 実践1【生活科】 ～第2学年～ 単元名 「みんな大きくなったよね」

この単元は、生活科の学習のまとめとして2・3月頃に行われる学習である。自分が小さかった頃の様子について聞いたり調べたりする学習を通して、自分の成長には多くの支えがあったことに気付かせる。そして自分が今生きていることのすばらしさ、喜び、家族の愛を感じることをねらいとしている。

これは道徳の「3-(1)生きることを喜び、生命を大切にすることを心をもつ」の内容項目と関連する。低学年の段階においては、生命の尊さを知的に理解するより、生活経験の中で生きていることを感じることが中心になる。そのため生活科の学習で学んできたことが生命尊重につながると考えた。授業では、「体も頭も心も成長したね。これまでにたくさんの人にお世話になったね。」と、人との関わりに目を向けさせる板書と言葉でまとめていった。

本時では「自分を見守ってくれた人に感謝の気持ちを伝えよう」という内容で、手紙を書かせることにした。児童は保護者からもらった手紙を読み、改めて感謝の

気持ちを膨らませることができた。児童の手紙には、家族に対して「見守ってくれてありがとう」や「おめでとうといっしょに喜んでくれてうれしかった」等といった言葉が並べられていた。また家族以外に宛てた手紙にも「大切な友達ができた」や「できるようになったことを先生に伝えたい」など、自分の成長に気付き、できるようになったことが増えたことを実感している言葉が記されていた。これらを見ると、生活科の学習を通して、自分の成長には多くの人の支えがあり大切にしていきたい、という思いが深まっていることが感じられた。

この学習と平行する形で、道徳の時間には、自分の名前に込められた両親の思いを中心とした内容のものを扱った。未来に向かって明るく元気に生活していこうとする心情を、道徳の時間で深化させるねらいがあった。使用した読み物資料には、名前には両親の深い思いが込められていること、その思いが大きな励みとなり今後に生かしていこうとすることなどのねらいがあった。生活科の授業と重なる部分が多く、自分との関わりの中で道徳的価値をとらえる場面では、自分のこととして考えを深めている発言が多く見られた。さらにワークシートには、自分の名前に込められた両親の願いを受け、これからの生活に生かしていきたいという希望にあふれる文が書かれていた（資料3）。授業終盤、両親からの手紙を読んで泣き出す児童もいた。両親からの温かい言葉が胸に響き、改めて家族の愛を感じるとともに、生命の大切さを実感する姿が見られた。

資料3 手紙を書く様子



イ 実践2【総合的な学習の時間】 ～第5学年～

単元名 「見つめよう環境！ボクらはみんな生きている」

本校にビオトープができて7年になる。毎年5年生が中心となってビオトープの管理をしてきた。「全学年から親しまれるビオトープ作り」をテーマに、生息する植物の種類を増やしたり、生息する生物を紹介するための看板を作ったりした。本時では、池の周り、池の中、遊歩道に生息する生物の「命を守る」活動が計画された。前時までの活動として、ビオトープの現状を観察し、これからどのような活動をしていくとよいか、どんなビオトープにしていきたいかが話し合われてきた。

本時は、ビオトープのよりよい環境について考えることにした。池の中プロジェクトでは、「メダカの命を守るために排水口を整備したい」「飛んできたトンボが休憩できるような水生植物をたくさん植えたい」といった発言があった（資料4）。そのような言葉を取り上げ、総合的な学習の時間の中で、生き物の命について考える場面が見られた。

資料4

ビオトープの話合いの様子



総合的な学習の時間を受けて、道徳の時間には、「命のアサガオ」という副読本の資料を使い学習を行った。本時に入る前に、教室で飼っているメダカについて、「あのメダカたちは楽しんで泳いでいるのかな。」と問いかけてみた。すると児童からは、「今は水槽の中にいるけれど、以前はビオトープで泳いでいて、友達もたくさんいた。もちろん狭くなってしまったけれど、僕たちがきちんとお世話をしている。大切にしていかなきゃいけない。幸せにしてあげたい。楽しいかどうかは分からないけど、楽しんでもらいたい。」という反応があった。理科の学習で、メダカの卵からの成長を学んだ際には、卵から小さな命が誕生し、大きく成長していくことに対することの興味の方が強かった。しかし、総合的な学習の時間を受けて、そのメダカの命の神秘性や重要性を意識した発言が、児童の中に見られるようになった。

ウ 実践3【体育】 ～第6学年～ 単元名 「病気の予防（薬物乱用の害）」

この学習は6月に計画されている「病気の予防」3時間取り扱いの第3時として取り組んだ。第1時では、外部からゲストティーチャーを招いて薬物乱用防止教室を行った。ここでは、薬物を乱用することの危険性について取り上げ学習した。本時では、薬物使用をすすめられた際に、自分の身を守るために必要な言葉を考えさせ、物事の善し悪しをよく考えて判断することの大切さや、健康を考えて最良の意思決定を自ら行えるような力を高めさせたいと考えた。また、生涯にわたって自分の健康や生き方についても考えさせる機会としたい、との思いもあった。薬物との出会いは様々な状況が考えられるが、それぞれの状況に応じた断り方や、自分の命を大切にする生き方についても考えることをねらいとした。

また、自分の命を粗末にしないようにする生き方を道徳の時間で取り扱う、「国境なき医師団」での＜自分の命や他の命の重さを感じながら、今を精一杯生きていこうとする心情の育成＞につなげていくようにした。

(4) 補充、深化、統合を意図した道徳の時間の実践

本校の重点目標として行ってきた「生命尊重」は、各教科、総合的な学習の時間、特別活動それぞれの単元のねらいの中心ではない。私たちは、各教科等で子どもたちが学んだ「生命尊重」の気づきを道徳の時間に「深化」させたいと考えた。

次に、道徳の時間での様々な取組を紹介する。

ア 【視聴覚教材】 ～第6学年～ 資料名「絶望の中で見つけた光」

6学年社会科の学習「長く続いた戦争と人々の暮らし」からの深化として取り組んだ授業である。導入で戦闘機やキノコ雲の映像を見せ、そこから分かることを発表させた。そして、戦時中の体験談が書かれている読み物資料「絶望の中で見つけた光」へとつなげていった。

終末で再度プロジェクターを使い、戦時中の様子や当時の子どもが書いた手記などを提示した。そこでは、必死に逃げた家族の様子や手記にこめられた命の重みなどが書かれてあり、児童は「本当に戦争は怖い」「命があるだけでも幸せだと思え

る」などとワークシートに自分の思いを書いていた。導入でプロジェクターを使い、当時の状況や数々の資料を視覚的に捉えることで、その世界に入ることができた。

イ 【ゲストティーチャー】 ～第3学年～ 資料名「おばちゃん、がんばれ」

3学年国語科の学習「サーカスのライオン」からの深化として取り組んだ授業である。本資料は、「生命の尊さを感じていない主人公が、いとこの誕生をきっかけとして自分の生命が母親や周りの人々によって守られていたことを知り、生命は尊く、誕生は喜ばしいと感じるように変化する。」という内容である。授業では、実際に生後3か月になる赤ちゃんとその母親をゲストティーチャーとして招いた。そこ

では、母親になることへの不安や喜び、家族や社会との関わりなど語っていただいた。そのお母さんの体験談を児童は自分の親と重ね合わせ、今ここにいることや今までのことを実感し考えることができた。ゲストティーチャーを活用して良かったところは、児童と直接交流が持てたところである。ゲストティーチャーの語りかけに児童はうなずいたり笑顔で答えたりする様子が見られた。また授業後には赤ちゃんを抱っこさせてもらったり、恐る恐る赤ちゃんのほっぺたを触ってみたりと、初めて赤ちゃんに触れ合った児童もあり、貴重な体験となった。授業後の感想には「命はやっぱり一番大切」「生まれてきて良かった。生んでくれてありがとうって気持ちになった。」等と自分の事として考え、思いを深められたことが書かれていた（資料5）。大変温かな雰囲気

資料5 児童の感想



ウ 【自作資料】 ～第3学年～ 資料名「モンシロチョウがとんだ」（自作資料）
第3学年の道徳年間計画では、3-(1)生命尊重について、年間3時間を予定している。計画では副読本の資料を使うことになっていたが、児童の実態、他の教科との関連を考えて、資料6のような自作資料を作成し、道徳の授業実践をすることが望ましいと考え、年間計画を変更することにした。

「モンシロチョウがとんだ」は、第3学年の1学期に学習する理科「チョウをそだてよう」と深く関連している。内容は、「教室で世話をしていたモンシロチョウの羽の1枚が縮んで羽化し、『教室で飼うか』『逃がすのか』でみんなの意見が分かれる。迷った結果、試しに外に出してみると、チョウは傾きながらも空へ飛んでいった。」というものである。

児童は実際にこのような経験を1学期にしておき、実体験も含めて動物の命の尊さや、生きようとする気持ちの強さを考える機会となった。

理科の「チョウをそだてよう」の学習では、卵から幼虫、さなぎ、成虫となる過程を学習し、「チョウの成長」を時間をかけて学んだが、理科の授業では毎時間チョウの命について深く考えさせることはできなかった。そこで2月の道徳の時間では、人間だけに限らない命あるもの

に焦点を当て、理科の学習での「生命尊重」への気づきを深化させようと考えた。道徳の授業の中心発問では、ディベートのような形をとり、それぞれの考えを自由に発言させた。中には「どちらも決められない」という意見も出て、解決できないままになりそうな時もあった。そこで教師からは、「この話合いは、どちらもチョウの命を守りたい、その思いはどちらも変わらない、共通の思いだね」と道徳的価値を見直し、終末につなげた。ワークシートには、「元気に飛んで行って、元気なたまごを産んでね」「チョウの小さな命も大切にしたいと思った」「飼っているペットのことを思い出した。大切にしていきたい」などと書かれていた。これも生命を尊重する気持ちが深まっていると見て取ることができた。

資料6 自作資料



エ 【パネル・写真掲示（国境なき医師団）】 ～第6学年～

資料名「この手に命を受けて～国境なき医師団～」

高学年の発達の段階では、生命の誕生から死に至るまでの過程を理解することができる。人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの尊さ、共に生きることのすばらしさなどを考えることができることから、道徳の資料には死を取り上げるものが増えてくる。本授業の資料は、国境なき医師団の一員として活躍する一人の日本人女性が、アフリカのブルンジで携わった出産の様子、劣悪な環境の中で彼女が奮闘する思いや生き方を感じとることができるものである。前時までに、学年の学習室に国境なき医師団から

資料7

国境なき医師団 パネル掲示



借りたへき地での活動の様子をパネル展示し（資料7）、自由に見ることができるようにした。また、児童と同年代の子どもが貧困や劣悪な環境で、必死に生きようとしている事が伝わる写真等を掲示し、これらの環境を作っておくことで、道徳の授業をより実感を伴って捉えさせることができるようにした。

道徳の授業では、「自分ができることなら命を顧みずに精一杯活躍したい」「人のために働くことはすごい。」という主人公の活動をたたえる発言があった。その一方で、「国境なき医師団として働く彼女はすごいけれど、家族としては、いつ命を落とすかもしれない、その恐怖や応援できない気持ちも分かる」などの意見も出された。

自分の夢のために働き、輝いて見える彼女の姿と、できるだけ命を大切にしていほしい家族の思い、精一杯生きるとはどのようなことなのかなど、自分の生き方も含めて深く考えることができる授業となった。発達段階にふさわしく、世界に目を向け、世の中の動きにも関心を持たせられる道徳の時間になった。

5 成果と課題

(1) 成果

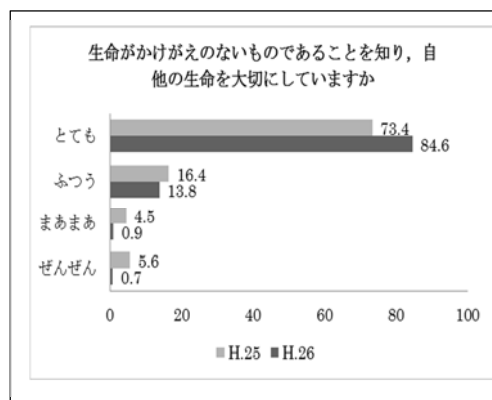
【生命尊重の意識向上】

全学年、別葉に基づき指導計画を立てたことにより、補充、深化、統合を意図した授業を展開することができた。また、教育活動全体を通して、道徳教育がどのように行われるか、どのような内容が各教科等とつながり合っているのかが分かりやすく、実践しやすいものであった。児童の意識調査から本研究を通して、本校の研究目標であった「生命尊重」への意識も高くなったことが分かった（資料 8）。

また、道徳の時間では、様々な方法で授業展開を行い、児童の心に響かせる授業を行うことができた。「生死」について真剣に考え、素直に自分の言葉で表現することができた。さらに道徳の時間での学習内容を家庭でも伝える児童が増えた。授業参観後の保護者会では、道徳の時間の事を食卓で話したり、父母に自分の誕生の様子を聞いたりするなど、家庭で話題にする児童の話聞くようになった。これは、児童の生命尊重を含む道徳への意識の高さの現れではないかと考える。

資料 8 児童の意識調査

（平成 26 年 7 月 15 日実施 全学年 570 人）



(2) 課題

ア 道徳の時間の補充、統合の授業展開

本研究の「生命尊重」は、道徳の時間に深化させていく価値であるということが検証できた。他の内容項目であれば、補充、統合の役割をしていくことも大いにあるであろう。このように一つ一つを検証し、計画するにはさらに綿密な全体計画が必要になる。それらを行う時間の確保や重要性の理解を全職員に図ることが早急の課題である。

イ 教具、資料の充実

道徳の時間の質を高めるためには、資料の充実が不可欠である。限られた時間で効果的に準備するためにも、教具、資料の保管と共有化が一層大切となる。年間計画を見通し、学年で共通理解を図り、教材研究をしていきたい。

ウ 年間を見通した道徳教育の取り組み方

生命尊重以外の内容項目においても、別葉を活用し効果的に道徳教育をすすめていけるようにしていきたい。そのためには、さらに活用方法を検討し、職員にも負担のかからない、よりよい方法を考えていかななくてはならない。

道徳教育全体計画【別葉】 道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連 小学校（第5学年）

	道徳	国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	総合	特別活動(学級活動)	特別活動(学校行事)	
3-(1) 生命尊重	7月 一命がけで命を懸ける 一命のアサガオ一命がけがえのない生命を大切に、精一杯に生きようとする。 11月 豊い命 一箱ひらの火で命を救えー 生命がかけがえのないことを知り、自他の生命を尊重しよとするとする心情を育てる。 2月 自他の命を大切にー元ラガーマン決死の救助ー 自他の命を大切にしたい行動のすばらしさを知り、自他の生命を尊重する心情を育てる。	4月 だいじょうぶ、だいじょうぶ 情書を思い浮かべながら物語を読み取る。 生命尊重	9月 水産資源のさかんな増産 魚や海を守り育てる 取り組むこととして魚つぎ保安林や稚魚の放流、持続可能な開発について調べ 生命尊重 2月 わたしたちの生活と森林 木は人間の生活ばかりでなく多くの動物にとっても欠かせないことを考える。 生命尊重		7月 生命のつながり 人の母体内での成長の様子に生命の神秘さを感ぜようとする。 生命の神秘に触れる			4月 風が吹いたら 風を感じる場所や風景の特徴や風を吹く様子などをとらえ、風を可視化する方法を考える。 自然愛・動物尊重 6月 感じたことを伝えたい 自分が感じた情景に、材料や月真の特徴を生かし、表現方法を工夫して表す。 自然愛・動物尊重	1月 物を生かして住みやすく 自分の生活と身近な環境と環境との関わりに関心を持たせたり、環境に配慮した物の使い方を考えさせる。 環境保全			見つめよう環境！本 くらばみんな生きて いる ヒオトロープの管理活動を通して、生命がかけがえのないものであることを知り、大切にしようとする 態度を育てる。 生命尊重		
3-(2) 自然愛・環境保全	4月 自然に学ぶ ーひとふみ十年ー 自然のすばらしさを理解し、自然環境を大切にしようとする。 10月 自然への思い ー世界初のトンネル区づくりー 自然の偉大さを知り、自然環境を守ろうとする。	4月 動物の体と気候 動物の体と気候との関係に興味を持つ。 自然愛 11月 森林のおくまの 自分たちの生活と自然との関わりについて考えを持つ。 自然の愛護	2月 環境を守るわたしたち 環境を守るための市民の努力と、市民の願いを届け入れた行政の取り組み、条例作りについて考える。 環境保全 3月 自然巡遊をめぐ 国や市町村の自然災害の被害を防ぐ対策を調べる。 自然愛		6月 生命のつながり メダカに愛情を持って世話をして育てようとしている。 動物の命を大切に する			4月 風が吹いたら 風を感じる場所や風景の特徴や風を吹く様子などをとらえ、風を可視化する方法を考える。 自然愛・動物尊重 6月 感じたことを伝えたい 自分が感じた情景に、材料や月真の特徴を生かし、表現方法を工夫して表す。 自然愛・動物尊重				見つめよう環境！本 くらばみんな生きて いる ヒオトロープの管理活動を通して、環境に 関心を持ち、荒れた ヒオトロープを理想の 状態に再生させてい こうとする態度を育 てる。 環境保全		
3-(3) 敬けん・畏敬の念	6月 自然の偉大さ ーコロナのかがやき ー 美しい物に感動する 心や人間の力を超え た物に対する畏敬の 念をもとうとする。				4月 天気の変化 霊の様子と大気の 関係に興味を持ち、 その関係を進んで 調べようとしている。 自然のすばらしさ に触れる	9月 和音の美しさを味わ おう 和音のひびきの美し さを感じ取り、全体 のひびきのバランス に気を付けながら演 奏することができるようになる。 美しいひびき						見つめよう環境！本 くらばみんな生きて いる ヒオトロープを再生す ることで、身の回り の環境に関心を持 ち、豊かな環境を維 持していくことの難し さをとうする。この 大切さを考える。 敬けん		

【第2学年 「生命尊重」 指導計画 ～一部抜粋～】

月	各教科	道徳の時間	総合, 特別活動, 学校行事
4			
5	<p>国語「たんぼば」 説明の順序や大事な言葉に気をつけて読む。</p>	<p>第1次 げん気でわくわく ㊦ 自分の成長に気付き, 楽しく生活していこうという気持ちを育てる。</p>	
6	<p>生活「げんきにそだて」 生き物も自分たちと同じように生命をもっていることに気づき, 大切にしようとする態度を育てる。</p>	<p>㊦ 主に道徳的心情を育てる。</p>	<p>学活「大人のははいくつ」 大人の歯の特徴に気付き, 成長の喜びを味わう。</p>
7			
8			
9			
10		<p>㊦ 主に道徳的心情を育てる。</p>	
11		<p>第2次 ふしぎな音 ㊦ 生命のすばらしさに気付き, 生命を大切にしようとする心情を育てる。</p>	<p>学活「いのちの音をきいてみよう」 聴診器で自分や動物の心音を聴き, 心臓の動きに関心をもったり, 生きていることを実感したりする。</p>
12		<p>第3次 ハムスター ㊦ 動植物にも命があることに気付き, 生命を大切にしようとする心情を育てる。</p>	
1	<p>国語「思い出ブックを作ろう」 1年間を振り返り, 心に残っていることが伝わるように文章に書く。</p>	<p>第4次 はじめてのプレゼント ㊦ 自分の名前には周囲の人々の願いがこめられており, 自分が周りの人に支えられ生きていることを知ることによって喜びを感じ, 希望をもって前向きに生活していこうとする心情を育てる。</p>	
2	<p>生活「みんな大きくなったよね」 自分の成長を振り返り, 支えてくれた多くの人々に感謝の気持ちをもつ。</p>		<p>学活「ぼくのおへそわたしのおへそ」 生命の誕生について知り, 生命のかけがえのなさを実感する。</p>
3			

【第5学年 「生命尊重」 指導計画 ～一部抜粋～】

月	各教科	道徳の時間	総合，特別活動，学校行事
4	<p>国語「だいじょうぶ だいじょうぶ」 情景を思い浮かべながら物語を読み取る。</p>		<p>総合「見つめよう 環境！ボクらはみんな生きている」</p>
5			
6	<p>理科「生命のつながり メダカ のたんじょう」 卵の変化の様子や水中の小さな生物を調べ，動物の発生や成長についての考えをもつことができるようにする。</p>	<p>④ 主に道徳的心情を育てる。</p>	
7	<p>理科「生命のつながり 人のたんじょう」 人の母体内での成長の様子に生命の神秘さを感じようとしている。</p>	<p>第1次 命のアサガオ④ かけがえのない生命を大切に，精一杯に生きようとする。</p>	
8			
9	<p>社会「水産業のさかんな静岡県」 魚や海を守り育てる取り組みとしての魚つき保安林や稚魚の放流，持続可能な開発について調べる。</p>		
10		<p>④ 主に道徳的心情を育てる。</p>	
11		<p>第2次 稲むらの火で命を救え④ 生命がかけがえのないことを知り，自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。</p>	
12			
1			
2	<p>社会「わたしたちの生活と森林」 木は人間の生活ばかりでなく多くの動植物にとっても欠かせないことを考える。</p>	<p>第3次 元ラガーマン決死の救助④ 自他の命を大切に行動のすばらしさを知り，自他の生命を尊重する心情を育てる。</p>	
3		<p>④ 主に道徳的心情を育てる。</p>	

1 単 元 みんな大きくなったよね

2 目 標

- (1) 自分の成長の様子を振り返り、意欲的に調べ、これからの自分に自信を持って生活しようとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- (2) 自分の成長の様子について、聞いたり調べたりしたことを、自分なりに絵や文で表現することができるとともに、友達と交流し認め合うことができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- (3) 自分の成長には様々な人の支えがあったことに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

3 指導にあたって

○ 本単元は、生活科学習指導要領の内容(8)「多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、役割が増えたことが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようになる。」に基づいて設定されたものである。

ここでは、自分の成長の様子を調べる活動を通して、自分の成長を支えてくれた人々がいることに気付き、感謝の気持ちを抱けるように導きたい。また、家族の自分に対する愛情を知ること、多くの人々から見守られていることを考え、自分や友達を大切に生きようとする、未来を切り拓いていく態度につなげていきたい。

○ 本学級の児童は、まじめに前向きに取り組む児童が多く、普段の生活では友達と元気に遊んだり活動したりしている。友達との接点が多くなるにつれ、お互いの良さに気付き、認め合ったり励まし合ったりしている姿が見られるようになるなど、成長が感じられる。時には、相手の心を傷つけてしまう言動が見られ、それに対する反省や謝罪の中に相手の人格を尊重し、かかわり合っていくことを低学年なりに日常生活の中で学んでいる。道徳の「はじめてのプレゼント」で、名前の持つ意味、親の希望、命の大切さを感じる事ができた。

実態調査 1月20日 **人調べ	
1 生まれたときのことや小さい頃のことを知りたいですか。	はい **人 いいえ *人
2 その理由は何ですか。	小さい頃どんな子だったかどんなことをしていたのか、自分では覚えてないので知りたいから
3 どんなときに大きくなった・できることが多くなったと思いますか。	・運動が上手にできるようになった。 ・弟や妹の面倒を見られるようになった。 ・補助輪なしで自転車に乗れるようになった。 ・ピアノが上手に弾けるようになった。 ・縄跳びで二重跳びがたくさん跳べるようになった。

○ 指導に当たっては、自分自身の誕生の様子や成長の過程を調べる活動を通して、成長を実感させたい。そして、自分の成長を支えてくれる人々がいることに気付き、感謝の気持ちを抱けるように導きたい。さらに自分の良さに気付くことで、自分に自信を持ち、これからの自分の成長に思いや願いを持てるようにしていきたい。また、家族の自分に対する愛情を知ること、多くの人々から見守られていることを考え、自分や友達を大切に生きようとする態度につなげていきたい。

4 指導計画(14時間取扱い)

- 第1次 自分の得意なことやできるようになったことを発表し合い、自分や友達が成長していることに気付く。 2時間
- 第2次 自分が小さかった頃のことを調べたり追体験したりしながら、自分が成長を続けてきたことに気付き、喜びを感じる事ができる。 4時間
- 第3次 調べたことを元に自分の成長を好きな方法でまとめて、自分らしい成長の記録を作ることができる。 4時間

次	時間	学習活動・内容	評価規準
4	11 (本時)	自分の成長の記録を見て、多くの人に支えられていることに気付き、感謝の気持ちを表す。	・自分の成長の記録を見て、成長を支えてくれた人の存在に気付き、感謝の気持ちを表そうとしている。 (思考・表現)
	12・13	発表を通して、自分や友達の成長を認め合い、感謝の気持ちを伝える発表会をする。	・発表を通して成長を支えてくれた人に感謝の気持ちを伝え、喜び合うことができる。 (思考・表現)

第5次 未来の自分や3年生の自分について希望や決意を表現して、これからの生活への意欲が持てるようにする。 1時間

5 本時の指導




(1) 目標

・自分の成長には多くの人々の支えがあったということに気づき、それらの人々に感謝の気持ちを表す手紙を書くことができる。

(2) 準備・資料

・成長の記録 ・便せん

(3) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	活動の支援と評価 ・全体への指示や支援 ◎個に対する配慮や支援
<p>1 本時の活動内容やめあてについて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分をみまもってくれた人にかんしゃの気持ちを伝えよう。</p> </div> <p>2 自分のアルバムを作りながら気付いたことについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長を支えてくれる人がいる。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>世話をしてくれた 教えてくれた 励ましてくれた 助けてくれた</p> </div>  </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-left: 10px;"> <p>一緒にいてくれた 喜んでくれた</p> </div> </div> <p>3 感謝の気持ちを伝える方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙 ・プレゼント ・言葉で <p>4 成長を支えてくれた人に感謝の手紙を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に書くか決める。 <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>小さい頃熱を出したとき、お母さんが看病してくれたからお母さんに書くわ。</p> </div>  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自転車に乗れるように一緒に練習してくれたからお父さんに書いたいな。</p> </div> <p>5 活動のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会に来てもらって感謝の気持ちを伝えようね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生から現在の自分の成長をアルバムを見ながら振り返る。 ・成長するに当たり、いろんな場面でのいろんな人々にお世話になったり、励まさせたり、助けられたりしていることを思い起こすようにする。 ・道徳「初めてのプレゼント」で感じた親から自分たち子どもへの思いも取り上げ、生まれて良かったと感じたことにも触れたい。 ・家族だけでなく、地域の人や先生にも支えられていたことに気付けるようにする。 ・発表会をするに当たり、お家の人に成長の証を発表するとともに、感謝の気持ちを伝えるには、どうしたらよいか考えさせる。 ・手紙以外にプレゼントなどの意見があった場合は、それらの意見も尊重して思いを伝えて良いことを知らせる。その上で、全員が感謝の手紙を書くように話す。 <p>◎ なかなか書き出せない児童には、具体的にどうしてもらったか思い出して手紙を書くよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>㊦ 自分を支えてくれた人に感謝の手紙を書くことができる。(手紙)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会で成長した姿を見てもらい、感謝の気持ちを伝えることを知らせ、発表会への意欲を促す。

1 主題名 たいせつなわたし 3-(1) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目3-(1)は、「生きることを喜び、生命を大切にすることをねらいとしている。これは、生命の大切さに関するものであり、生命あるものすべてをかけたがないものとして尊重し、大切にしようとする児童を育てようとするものである。

日々の様々な出来事が、子どもたち自らが授かった「命」とともにあること、日々の生活や明日・未来の生活は、すべて自分がこの世にいるから、生きているからだということに気付かせることで、生命の大切さを自覚し、より前向きに生活する心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、アンケートの結果から家族や友達など自分や周囲の命あるものを大切に思っている児童が多いことがわかる。自分の名前については、ほとんどの児童が気に入っているが、その理由は曖昧なものもある。

1月27日 (**人調べ)

1. あなたにとって、いちばん大切なものは何ですか。

命**人 家族*人 友達*人 ペット*人 ぬいぐるみ*人 ゲーム*人 漫画*人

2. あなたは自分の名前が好きですか。 はい **人 いいえ *人

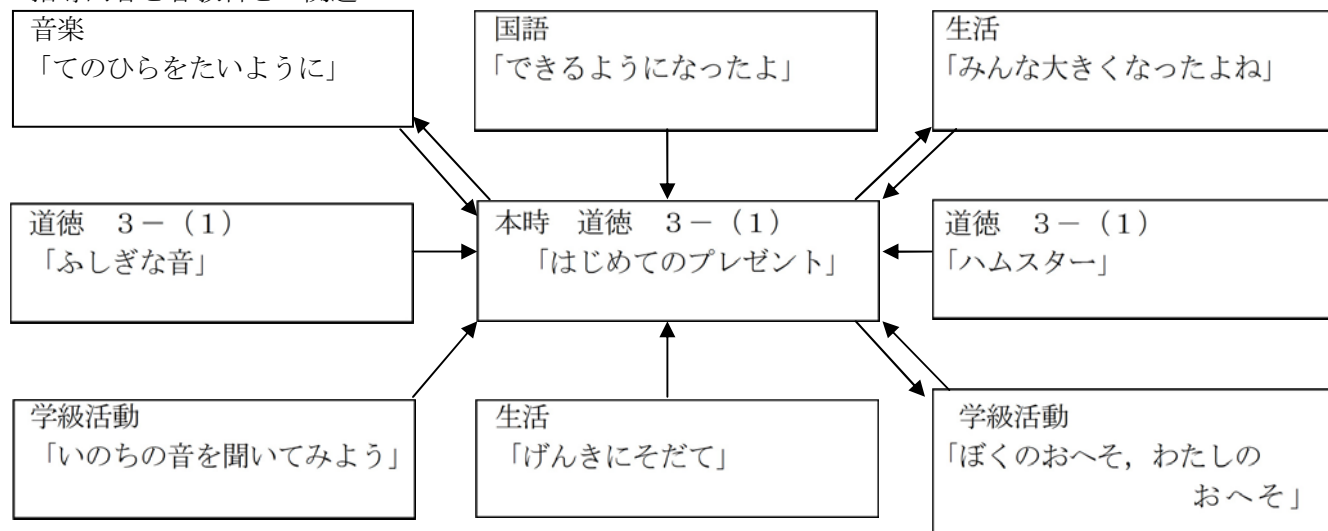
(理由) 好き：家族がつけてくれたから、かわいい・かっこいいから、呼びやすいから

嫌い：よくある名前だから、漢字が難しいから、からかわれるから

(3) 資料について (資料名：「はじめてのプレゼント」自作資料)

本資料は、自分の名前についてからかわれた主人公が、父親から自分の名前に込められた思いや、周囲の人たちのこと聞き、自分の名前やこれからの生き方について改めて考えていく内容である。自分の誕生を周囲の人々が待ち望み、生き方の願いをこめて名前が贈られていることを知ることで、感謝の気持ちを持つとともに、自分がこの世にただ一人のかけがえない存在であることを実感し、未来や夢に向かって希望をもち前向きに生きていこうとする心情を育てたい。

3 指導内容と各教科との関連



○ 生活科の「みんな大きくなったよね」では、小学校に入学するまでの自分の様子について、聞いたり調べたりする学習を通して、自分の成長には様々な人の支えがあったことに気付いていく。本時の道徳の時間では、未来に向かって明るく元気に生活していこうとする心情を深化することで、生きる喜びを感じることに繋がっていきたいと考えた。

4 本時の指導

(1) ねらい

- 自分の名前には周囲の人々の願いが込められていることや、自分が周りの人に支えられ生きていることに喜びを感じ、希望を持って前向きに生活していこうとする心情を育てる。

(2) 資料

- 場面絵 ・ワークシート ・保護者からの手紙

(3) 展開

	主な活動と発問 ●中心発問	予想される児童の反応	支援の手だて ◎個に対する配慮や支援 深化を意識した工夫は太文字
導入 5分	1 「名前」について、自分の考えを話す。 ○自分の知っている名前で、いいなと思う名前がありますか。	<ul style="list-style-type: none"> 「○○○」がかっこいい。 「かすみちゃん」がかわいいな。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や好きなキャラクターなどから自由に発想させ、本時のねらいの方向付けをする。
展開 35分	2 資料「はじめてのプレゼント」を聞き、話し合う。 ○ゆうちゃんから「しんごうき」と言われた信吾くんはどんな気持ちになったでしょう。 ○お母さんはなぜかなしそうな目をしてだまってしまったのでしょうか。 ●お父さんの話を聞いた信吾くんはどんなことを考えたでしょう。 3 保護者からの手紙を読んで自分の名前にこめられた家の人達の思いを知り、感想を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ゆうちゃんはいじわるだな。 こんな名前はいやだな。 こんな名前だから悪口を言われるんだ。 信吾くんがかわいそうだから 心をこめてつけた名前を嫌だと言われたから。 名前はお父さんやお母さんがはじめてくれたプレゼントだったんだね。 いやだと思っていたけれど、すてきな意味があったんだな。 お父さんとお母さんが名前を一生懸命考えてくれてうれしい。 違う名前にしてって言ってごめんさい。 素敵な名前をつけてくれてありがとう。 名前のような人になれるようにがんばるね。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を前半と後半に分けて読み、信吾くんの心情の変化について考えていく。 自分の名前を悪く言われて泣きじゃくる信吾くんの気持ちに共感できるようにする。 だまってしまったお母さんの心情も考えさせることで、ねらいにせまっていく。 ワークシートを用意し、児童一人一人にじっくりと考えさせたい。 名前には、家の人々の思いや願いが込められていることに気付けるようにする。 ◎考えが書けない児童には、お父さんの話の内容を確認し、信吾くんの心情を考えるよう助言する。 手紙を読んで、自分の名前に多くの思いが寄せられていることを知り、多くの人に望まれ、支えられて生きている喜びを感じられるようにする。
終末 5分	4 教師の説話を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 家族の思いについて触れ、自分がかげがえのない存在であることを感じさせる。

5 評価

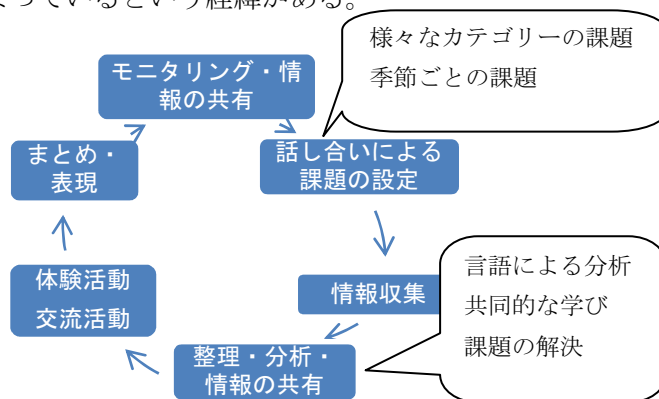
- 自分が、多くの人に望まれ支えられて生きている喜びを実感を持って感じられたか。
- 希望を持って生きていこうと思うことができたか。

- 1 単元 見つめよう環境！ボクらはみんな生きている
- 2 単元のねらい
 - 学校ビオトープへの関心を高め、課題を見つけ、よりよく問題を解決しようとする力を育てる。
- 3 育てたい力
 - 身近な環境に関心を持ち、課題を見つけ、課題の解決に適した方法を考えて取り組み、追求したことをさらに深めたり発展させたりしようとしている。 【学ぶ力】
 - 友達や専門家の考えやアドバイスを参考に、意見を交換しながら学び合い、分かったことや考えたことをまとめ、積極的に発信しようとしている。 【関わる力】
 - 自分の頑張りや成長に気付き、自分にできることを考えて生活に生かそうとしている。 【高める力】

4 単元の構想

大沼小学校にビオトープができて7年になる。毎年5年生が中心となってビオトープの管理をしてきた。昨年度は、「全学年から親しまれるビオトープ作り」をテーマに、生息する植物の種類を増やしたり、生息する生物を紹介するための看板を作ったりした。そして昨年度末には「ビオトープ引き継ぎ式」が行われ、今年度の5年生に思いが引き継がれ、「今度は自分たちが守っていきたい。」という思いが高まっているという経緯がある。

そこで今年度は、これまでの取り組みを土台に、「ボクらはみんな生きている～いのち輝けボクらのビオトープ～」をテーマとし、右の図に示した探求的な活動を、子供たちの思いを大切にしながら取り入れていくことで、効果的にビオトープの環境保全活動に取り組むことができるようにすると共に、総合的な学習の時間における教育効果を高めていきたいと考え、単元を設定した。



5 指導計画（総時数63時間取扱い）

小単元	主な学習活動	形態	教師の支援	育てたい力（評価規準）
				学ぶ力● 関わる力▲ 高める力■
出会い (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープの現状と問題点を知る。 ・課題を持つ。 	全 個	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しが持てるように課題をじっくり話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ビオトープを観察して、気付いたことや疑問に思ったことをもとに課題を設定できる。 ▲相互の意見交換をして、問題点の共通理解を図ることができる。
追求 (40)	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング調査。 ・プロジェクトごとに計画を立てる。(本時3時間目) ・実践 	プ プ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に応じたプロジェクトを取り入れ、学年を3つに解体して支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観察したり情報を収集したり、ゲストティーチャーからアドバイスをもらったりしてプロジェクトの課題に合わせた活動計画を主体的に立て、実践することができる。
まとめ (17)	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の成果から、自分達が伝えたいことをまとめ、発信する。 	プ	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた情報の整理や活動内容、成果をまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲■環境のために自分たちにできることを友だちと協力して実践しようとしている。 <p>個・・・個人 プ・・・プロジェクト 全・・・学年</p>

6 道徳との関連

総合的な学習の時間の活動の中には、池の周り、池の中、遊歩道に生息する生物の「命を守る」活動が含まれている。それを道徳の授業で深化させるようにしていく。

7 本時の指導

(1) 目標

話し合いを通して、現在の課題を整理し、今後の活動内容を考えることができる。

(2) 準備・資料

①模造紙 ②カード

(3) 展開

学習活動・内容	活動の支援と評価
	・全体への指示や支援 ◎個に対する配慮や支援
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">課題を整理し、活動内容を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで課題を見つけ、活動内容を考えることで、よりよい活動を目指すことを知らせる。
<p>2 グループごとに課題を出し合い、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を出し合う。 課題を種類ごとに整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> KJ法を用いることで、カテゴリごとに課題を整理しやすくする。 課題を出すときは、質より量が大切であることを伝え、様々な観点から、課題がでるようにする。 ◎モニタリングシートを振り返るようにすることで、課題を見つけやすくする。
<p>3 活動内容を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ゴミをなくす。 危険な箇所を整備する。 メダカの命を守るために、排水口を整備する。 植物の種類や数を増やす。 植物を守るために柵を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> KJ法で整理された模造紙に書き加えることで、活動内容を整理しながら考えられるようにする。 整理された課題を解決するために、何をすることが必要か細かく考えるように助言することで、活動内容がより具体的になるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> 現在の課題を整理し、今後の活動内容を考えることができたか。 (観察・発表) </div>
<p>4 全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに話し合った課題と活動内容を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに考えた課題や活動内容を共有することで、次時の活動につなげる。
<p>5 振り返りをする。</p>	

1 主題名 精いっぱい生きる 3-(1) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

内容項目3-(1)は、「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」ことをねらいとしている。生命は、他の何ものにも代えがたい、かけがえのないものである。それは親から子へ、子から孫へと受け継がれているものであり、多くの人々に見守られ、育まれるものである。「自分の命だから、どうしようと自分の勝手」では決してない。また、生命は有限なものである。限りあるからこそ精いっぱい生きることが大切である。10歳を越えた児童に、改めて自分の命、他人の命の重さを感じ、大切さを考え、尊重しようとする心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態(男子**人, 女子**人, 計**人)

本学級の児童は、友達を思いやり、自分のできる手助けを最後までやり遂げようとする素直な気持ちをもっている児童が多い。生命に関しても、「命は大事である」という認識はきちんと持っている。これまでの指導や経験を通して「命を大切にしていこう」とする考えは深まってきたように思える。本時では道徳の授業で初めて「死」についてふれる機会となる。事前のアンケートより、児童は「死」をマイナスな感情として捉えていることが多い。しかし、「死」をみつめることによって、生きることの尊さに気づき、より命の大切さに気づけるようにしたい。

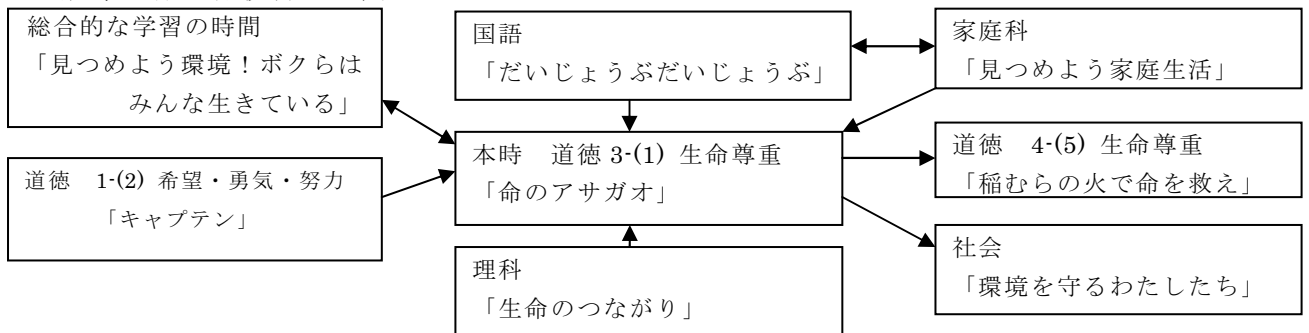
「死」についてのアンケート	5月19日(**人調べ)
○「死」についてどのようなイメージをもっていますか。(複数回答)	
・こわい **人	・暗い **人 ・自分とは関係ない *人
・考えたことがない *人	・悲しい *人 ・さびしい, かわいそう *人
・おそろしい *人	・家族との別れ *人

(3) 資料について(資料名:「命のアサガオ」出典名:「5年生の道徳」文溪堂)

本資料は実話をもとに書かれた話を、道徳の授業用にまとめたものである。運動が大好きな光祐君はナマズの「コシヒカリ」のえさのミミズを冷蔵庫の中に入れて、お母さんを驚かせるような活発な子どもである。5歳の春、突然白血病と宣告される。つらい治療に耐え、いったん退院して、小学校入学。運動会の50m走で最下位になっても頑張って走り抜いた。学校でアサガオの種をまく。治療計画どおり再入院。苦しい治療に耐え、夏休みには5日間の外泊許可をもらう。「コシヒカリ」は死んでいた。病院に戻った後、容態が急変する。7歳で亡くなる。お母さんは、光祐君のアサガオの種を配り始める。

命の限り力を尽くして頑張ろうとする光祐君、その命を必死で支えるお母さん。生きていた時の楽しさ、死が近づいていく時の恐怖を感じることができる資料である。

3 指導内容と各教科との関連



- 総合的な学習の時間(きら☆ら)の「ビオトープ再生プロジェクト」では、池の周り、池の中、遊歩道の3つの箇所に分かれ、生き物や植物のよりよい環境を考え、改善策を考えていく。本時では、きら☆らでふれた「命を大切にする」ことについて、深化した授業を展開していく。

4 本時の指導

(1) ねらい

- ・ かけがえのない生命を大切にし、精いっぱい生きようとする心情を育てる。

(2) 資料

- ・ 読み物資料 ・ ワークシート

(3) 展開

	主な活動と発問 ●中心発問	予想される児童の反応	支援の手だて ◎個に対する配慮や支援 深化を意識した工夫は太文字
導入 5分	1 事前にとった「死」についてのアンケート結果はどうであったか話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ こわい ・ 暗い ・ 考えたことがない ・ 悲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの思いを自由に発表させる。
展開 25分	2 資料「命のアサガオ」を読む。 ○光祐君が「もう、いやだ！うちに帰りたいよ。」と泣き出したとき、どんな思いだっただろう。 ○「ぼく・・・、もうすぐ、死ぬのかなあ。」と言った時の光祐君の気持ちはどうだっただろう。 ●夏休みが終わる頃に再入院をした際、光祐君は、どんなことを思っていただろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ うちに帰ってお兄ちゃんと遊びたい。 ・ 病院の生活はいやだ。 ・ 苦しい、辛い。 ・ 死ぬのが怖い。 ・ 本当に死んでしまうのかな。 ・ 頑張れば病気は治るのかな。 ・ 死んだらどうなるのかな。 ・ 家族や友達と離れるのはさみしいな。 ・ また学校に行きたい。 ・ もっと長く生きたい。 ・ 元気になりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み物資料をアサガオの種をまいたところまでと、その後の事の2枚に分けて配布する。 ・ 白血病について簡単に説明する。 ・ 元気に生活を送りたいという光祐君の願いに気付かせる。 ◎「・・・」から不安な気持ちであることを感じとらせる。 ・ 「死」への不安と「生」への希望があることを感じ取らせる。 ・ 「学校に行く日に備えて病院で勉強を始めた」というところから、前向きに頑張ろうと精いっぱい努力する姿に気付かせる。
終末 15分	3 教師の説話を聞く。 ・ 本時の学習で感じたことをワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県の中学2年、猿渡瞳さん（当時13歳）が生前、命の尊さについてつづった作文を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の生活が、精いっぱい生きていることにつながっていることに気付かせる。 ・ 様々な生き方を通して、「命の大切さ」を深く考えさせる。 ・ 今までの生活、これからの生き方を見つめ直し、実践していこうとする気持ちを高めさせる。

5 評価

- ・ 光祐君の気持ちを深く考えることができたか。
- ・ 命を大切にしていこうとする気持ちを高めることができたか。

【実践事例】 互いの個性や立場を尊重する生徒の育成を目指した取組

銚田市立旭中学校

http://edusv.city.hokota.ed.jp/junior_high_school/hs_asahi/

1 学校の概要

本校は、「メロン」の生産量が日本一の銚田市北部に位置し、学区の北側には、「ヒヌマイトトンボ」や「ヤマトシジミ」を代表する生物層が豊かな汽水湖の涸沼、東側には、「はまぐり」で有名な鹿島灘が広がっている。学級数 13(うち特別支援学級数 3)、生徒数 345 人の中規模校である。今年度は、ソフトテニス、柔道、陸上が関東大会に出場するなど部活動が盛んである。

2 生徒の実態

生徒の意識調査を行った結果、平成 24 年度、本校の重点目標であった「3-(1)生命尊重」への意識が高いのに対して、「2-(5)寛容・謙虚」や「4-(10)国際理解」等の項目が低い値を示した。豊かな自然に囲まれていることもあり、本校の生徒は生命尊重に対する意識が高い。また、挨拶や掃除をしっかりと行うことや、学習や部活動に意欲的であるなど、素直で活力のある生徒が多い。一方で、一人一人の個性が強いことや中学生の反抗期が重なり、自己中心的な行動をとることから、ささいなことで友達と口論になることが少なくない。家庭生活の中で、「分かっているけど、よくない言葉で親に当たってしまう」と教師に話す生徒もいる。以上のことから生徒は、お互いの立場からものを見たり考えたりすることが苦手であると考えられる。

3 取組の概要

生徒の実態から、お互いの話をしっかりと聞いて、考え方を受け入れたり、そこから新たなことを学んだりする生徒を育成したいと考えて、旭中学校の重点目標は「2-(5)寛容・謙虚」とした。

研究の柱としたものは「道徳の全体計画の別葉を充実させ、教育活動全体を通じて、その活用を図ること」及び「道徳の時間に、補充、深化、統合を明確にした授業を実践していくこと」の二つである。

別葉に関しては、各教科で、関連する内容項目を確認できるシートと、全教科を一つにまとめたシートの 2 種類を作成した。さらに、その情報を七つの項目「内容項目」や「学年」等で検索がかけられるシートを作り、コンピュータ上で随時更新ができるようデータベース化した。また、別葉の内容を各教科の指導案に記載する枠をつくり、教育活動全体を通じて、道徳教育を意識した授業展開ができるようにした。

道徳の授業においては、「学びの機会の得られにくい道徳的価値について補充する授業」、「学びの機会はあるが、道徳的価値についてじっくり考え、深めることができていないものを深化させる授業」、「多様な道徳的体験をしても、それぞれの道徳的価値の関連を全体的なつながりとして考えていないものを統合させる授業」のどれをねらいとするかを指導案の中に明記するようにした。補充、深化、統合を考えることから、道徳の時間の充実と教育活動全体との関連を意識できるようにした。

4 実践内容

(1) 全体計画の別葉の作成

道徳教育を充実させるため、各教科で全体計画の別葉の充実を図った。最初に使用した枠組みは、資料1のように、道徳の内容項目に対して全教科を一つのシートにまとめたものであった。それぞれ授業の「内容」とその実施「月」を記入し、道徳の内容項目との関連を図ることを目的としている。

資料1 全教科が一覧できる別葉

平成25年度 銚田市立旭中学校 道徳年間指導計画 別葉		外国語		国語		数学		理科		社会	
第3学年		月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容
1 自分自身に関する事	(1) 望ましい生活習慣、健康、節度										
	(2) 希望、勇気、強い意志										
	(3) 自主・自律、誠実、責任										

このシートを見ると、年間を通して各教科の単元がどの時期に、道徳の内容項目と関連した授業を行っているのかが分かる。しかし、単元だけでは、担当教科以外は生徒たちの活動や学びの詳細が分からない。そのため、資料2のように、各教科の別葉を1枚のシートで示し、「単元」と「内容」を区別し、細かく記述し、一目で道徳教育との関連が分かるようにした。

資料2 各教科の別葉（第3学年国語）

		月	単元	内容
1 主として自分自身に関する事	(1) 基本的な生活習慣 望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	5	「形」	「形」は外見をあらわすだけでなく、場合によってはそれ以上の影響力を持つという内容から、習慣がその人の内面にも大きく影響を与えることに気付かせたい。
	(2) 強い意志 より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	3	「最後の一句」	追い詰められた状況の中で、知恵と勇気をもって行動したことが思いがけない働きを及ぼすことがある内容から、父親の命を助けるという目標のために勇気をもって行動することの大切さを気付かせたい。

(2) 全体計画の別葉の活用

ア 検索シート

各教科との関連や具体的な内容を整理した別葉を実際に活用し、道徳の授業で補充、深化、統合を意識した展開をするために、関連内容を指導案に記載し生徒のそれまでの学びを確認できるようにした。その指導案に記載する情報を一括表示するため、資料3のような検索シートをつくり、道徳の内容項目で検索したり、学年で検索したりすることができるようにした。

資料3 検索シート

内容項目	学年	教科	月	単元	内容	私たちの道徳
2-(5)	3	国語	11	「観察・分析して論じよう」	さまざまなポスターを見て、自分なりに批評文を書き、批評文を読み合うを通して、いろいろなものの見方や考え方があることに気付かせたい。	60～63
2-(5)	3	社会	9	第2章 人間の尊重と日本国憲法	個人の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に、具体的な学習活動などを通して意欲的に追究する。	60～63
			10	第3章 現代の民主政治と社会	政治に関する様々な話題や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方を活用して多面的・価格的に考察するとともに、良識ある主権者としての政治参加のあり方について考える。	
2-(5)	3	数学	12	8章 抄本調査	全教調査、標本調査のそれぞれのよさを知り、標本から母集団を推定させる。	60～63
2-(5)	3	音楽	9	混声合唱へのステップ —さまざまな曲想の表現—	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す曲想や魅力を生かして表現を工夫する。また、協力して合唱練習を行い、クラスの気持ちをひとつにして、歌い合わせる喜びを味わう。	60～63
			10			
2-(5)	3	保健体育	10, 11	武道	○自己の弱さに気づき、学ぶことを忘れずに活動させる。	60～63

なお、検索できる項目は、「内容項目」、「学年」、「月」、「教科」、「単元」、「内容」、「私たちの道徳」の七つとした。検索の説明を含め、職員であれば誰でも別葉を活用できるように、職員のコンピュータ上で「道徳教育」のフォルダを作成し、随時閲覧、更新ができるようにした。

作成当初は、教科の種類によって、関連しやすいものと関連しにくいものがあり、どの教科も別葉の枠の空欄が多かった。そのため、教科担当同士で話し合いをしたり、教科を越えて話し合いをしたりして、校内研修を重ねながら共通理解を図っていった。また、研修の中で、別葉を紙媒体で配付し、直接記入していく取組は、少しずつ別葉を充実させていくことに効果的であった。

イ 月ごとの道徳教育関連表

別葉の検索シートで「月」検索をかけると、その月に実施する各教科の道徳の内容項目が何かを確認できる。ここで抽出したデータを資料4のようにまとめて、月に一度の職員会議の資料として提示するようにした。この資料も最初は、項目が少なかったが、別葉に記述する内容が増えていくと、どの月もA4一枚分の量になっていった。ただし、実際にどの程度活用することができたのかを確認するまでには至らなかった。実施の把握の仕方に課題があると考えられる。

資料4 月ごとの道徳教育関連表

9月の道徳教育				
学校重点目標 寛容・謙虚2-(5) *学期に2回(全6回)が目安になっています。				
互いの独自性を認め、相手の考えや立場を尊重し、他者とともに生きるという心で、他に対して謙虚に学ぶ生徒を育てる。				
作成していただいた「別葉」の中で9月に行えるものの一覧は以下の通りです。				
学年	内容項目	教科	単元	私たちの道徳
1	1-(2)	社会	(歴史)第2章 第2節 古代国家の歩みと東南アジア	22～25
	4-(1)	数学	4章 量の変化と比例、反比例	92～95
	1-(4)	理科	気体の発生と性質、物質の状態変化	30～33
	1-(5)	保健体育	器械運動	34～37
	4-(8)	保健体育	体育祭	120～123
	1-(3)	技術	生活に役立つ作品の製作	26～29
	2-(5)	外国語	Unit5 お祭り大好き	60～63
	4-(6)	外国語	Unit6 ベッキーのおばあちゃん	112～115
1-(2)	総合	各自のテーマに沿った課題を見つけ、調べ学習を進めることができる。調べた物をまとめることができる。	22～25	

(3) 各教科等における実践

ア 数学科での道徳教育

この授業では、二つの2元1次方程式のグラフの交点が、式を組にした連立方程式の解であることを理解し、グラフの交点を連立方程式で求めること、逆に連立方程式をグラフで解くことがねらいである。

一つの式が1次関数($y=ax+b$)か、または方程式($ax+bx=c$)で、見方が変わると考える方針も変わる、という場合の導入に、「心のノート」のだまし絵を使い、見方を変えることの布石として扱った。

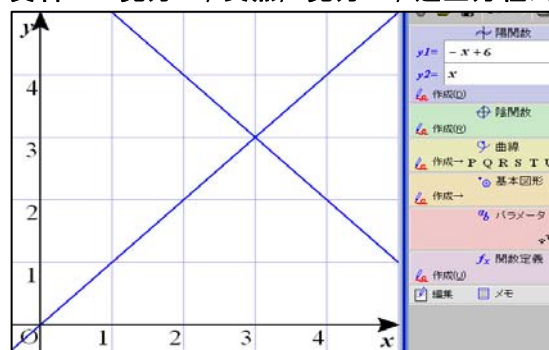
授業では、同じ問題でも最初の見方によって、解法が二つに分かれ、最後は同じ結果になるという考えがノートに記述された。解き方は違ってもよいという友達の考えを受け入れることや、別の視点からの新たな学びができたと考え

る。

資料5 見方1；アヒル，見方2；うさぎ



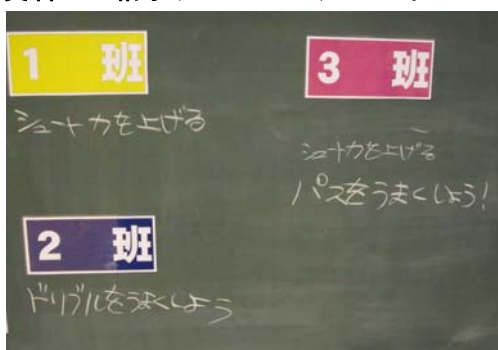
資料6 見方1；交点，見方2；連立方程式



イ 保健体育科での道徳教育

この授業では、体育の球技「バスケットボール」を通して、各チーム内の戦力や役割を互いに考え、認め合いながら作戦を決定すること、また、ゲームを通して、相手のチームに改善のアドバイスを伝え、謙虚に学び合い、チーム力を高めることを目的として行った（資料7）。授業の最初と最後に「心のノート」を活用し、互いの立場を考えるための参考とした（資料8）。まとめの場面では、生徒から、「いろんな人からアドバイスをもらい、チームでそれを練習することで、前よりもうまくできたのがよかったです。」等の発表があり、他に学ぶという実践として有効であったと考える。

資料7 相手チームへのアドバイス



資料8 「心のノート」を見ながら考える



(4) 補充，深化，統合を意図した道徳の時間の実践

ア 補充をねらった授業（読み物資料：あめ細工職人）「4-(5) 勤労の尊さ」

資料9の別葉を見ると、1年生では、働くことに関する価値にふれることが少ない。そのため「勤労の尊さ」について補充をする時間として授業を行った。日本の伝統工芸である、あめ細工職人になるまでに紆余曲折があったこと、収入は安定しないが、お客さんの笑顔に生きがいを感じ、そのために働いているという内容を取り上げた。これにより、勤労の尊さや奉仕の大切さに気付かせ、ねらいとする価値に迫った。活動の中でダイヤモンドランキングの手法を取り入れ、将来仕事に就くにあたって、どんな気持ちを大切にしたいかを考えさせ、生徒は自分の価値観と友達の価値観の違いを比較しながら、働くことの意義を真剣に考えることができた。

資料9 別業の活用(補充)

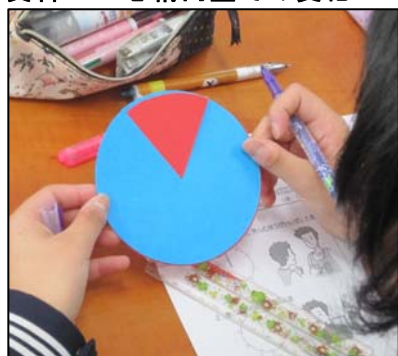
第1学年		国語		社会		数学		美術		保健体育		技術		総合		
		月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	
1 自分自身に関する事	(1) 望ましい生活習慣、健康、筋度									4.1.1	からだの発育・発達(保健) ストレスと心の発達(保健)				学習、生活、部活動など、それぞれの決まりを守って生活することが大切であることを意識させる。	
	(2) 希望、勇気、強い意志	5	5月「さんちぎ」①1-(2) 1-(4) 1-(6)	9	(歴史) 第2章 第2節 古代国家の歩みと東南アジア	4.5.6.	1章 正の数、負の数 2章 文字と式 3章 1次方程式			5.7	陸上競技 水泳学習				各々のチームになった課題をこつくり、調べ学習を進めることができる。調べた結果をまとめることが出来る。	
	(3) 自主・自律、誠実、責任			11	(歴史) 第3章 1節 武士の台頭と鎌倉幕府							9	生活に役立つ作品の製作			
	(4) 真摯愛、理想の実現	4.5	4月「詩の心—発見の喜び」② 1-(4) 3-(2) 5月「さんちぎ」①1-(2)	12	(歴史) 第3章 1節 武士の台頭と鎌倉幕府	11.12	5章 平面の図形 6章 空間の図形			4	侍つくり運動					地域を知ると共に、自分たちが地域に対してできることを考える。
	(5) 向上心、個性の伸長、充実した生き方	4	4月「風の五線譜」① 1-(5) 「小さな発見を許しよ							6.9.7	体力テスト 器械運動 欲求の発達(保健)					農林体験活動を通して地域の産業や特産を知る事ができる。
	(6) 勤労の尊さ、奉仕、公共の福祉															農林体験を通して働く喜びを知るとともに社会への奉仕の気持ちを深めさせる

イ 深化をねらった授業 (読み物資料：茂の悩み)

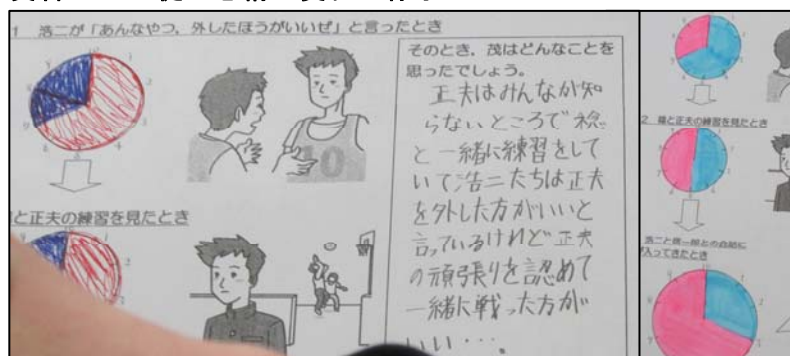
本校では、10月の新人戦を前に2年生が部活動の主体となる。本資料は、主人公のキャプテンが新チームでレギュラーを考える場面で、人選に悩むという内容である。一方的な見方をする双方の部員の板挟みにあい、悩む主人公を通して、偏った判断をせず、それぞれの立場になって考えることの大切さを深く考えさせることをねらいとした。コの字型の形態で授業を実践し、生徒同士が表情を見合いながらお互いの意見を交流したり、資料10のように心情円盤を用いて気持ちの変化を可視化できるようにしたりすることで、生徒の発言を促すことができた。

資料11の生徒のワークシートを見てみると、最初は実力重視だった気持ちの生徒が、授業中盤では、仲間重視の気持ちと半々の葛藤状態となり、最終的には80%以上の生徒が、最初とは逆の立場を考えるようになった。一方の情報だけで判断するのではなく、それぞれの立場になり、じっくり考え判断するという経験ができたと考える。

資料10 心情円盤での変化



資料11 生徒の心情の変化の様子



ウ 統合をねらった授業 (読み物資料：約束)

本資料は、親友の亜起子と麻衣子が、一緒に図書委員をやらうとお互いに約束したが、麻衣子は図書委員になれず、その原因を話し合う前にけんかになるというものである。それぞれの立場になって考えることが大切であり、実際の学校生活の中でも多く見られる場面である。例えば、体育祭や合唱祭などの学校行事で互いの気持ちを考えて行動することや数学の授業で違った見方や考え方を認めること、美術の鑑賞でいろいろな表現の違いを感じるなどがある。このような体験を振り返

り、相手の立場を考えることが、不要なトラブルを回避することになったり、新たな学びを生み出したりするものであると気づき、それらを全体的なつながりとして捉えることで統合することをねらいとした。

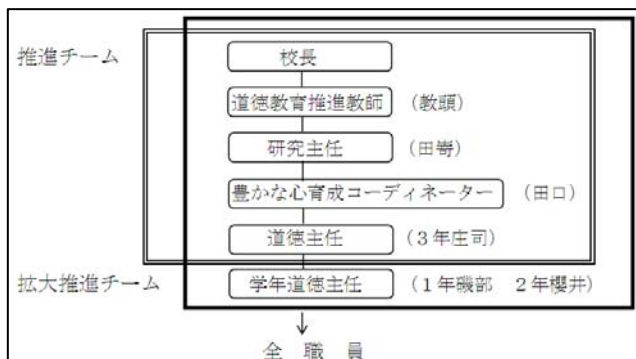
資料を通して、普段の生活を振り返ったとき、相手の立場になって考えることが、大切なのだと気付く実践となった。

(5) 推進体制の構築

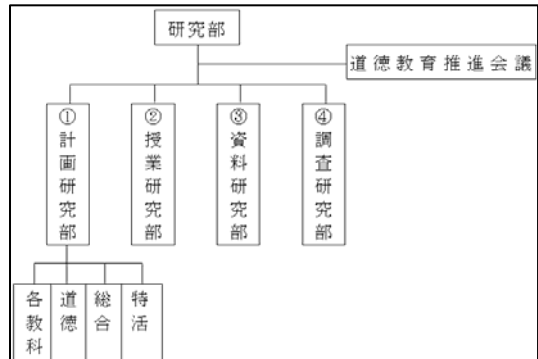
道徳教育の推進を図るために、推進チームを構成し、週に1回道徳推進会議を位置付け、道徳教育の方針について話し合いを行った。道徳推進会議の構成メンバーは、校長をはじめ資料12のように設定した。それぞれの役割は、校長は方針の明示、道徳教育推進教師（教頭）は全職員への伝達、研究主任は、組織力の向上のための校内研修の企画、豊かな心育成コーディネーターは、学級活動や総合的な学習の時間等を中心とした道徳への関わりの提示、道徳主任は、道徳教育の全体計画や年間指導計画の立案、とした。

さらに、組織的に実践するため、全職員が関わる研究部を設置した。研究部は、資料13のように、計画研究部、授業研究部、資料研究部、調査研究部の四つを設定した。計画研究部は、別葉を作成するため全職員が関わり、その他三つの研究部に関しては、各学年から担当を決め、いずれかに所属することにした。それぞれの役割について、授業研究部は指導案の形式の工夫、先進校の視察等、資料研究部は読み物資料や郷土資料、自作資料の選定及び管理、調査研究部は、生徒の道徳教育に関する意識の変容を把握するため、「生徒の意識調査」を実施し、集計等を行った。

資料12 道徳教育推進メンバー



資料13 研究部



(6) 「私たちの道徳」の活用

平成26年度に「私たちの道徳」が配付され、本校では、次のような活用を試みた。まず、道徳の授業で活用した9編の読み物資料に関しては、文部科学省の「中学校道徳読み物資料集」等で扱われている対象学年を参考に各学年に振り分け、年間指導計画に取り入れた。また、副読本による授業の際も、補助資料として活用したり、教師の説話部分で詩やコラムを活用したりした。

3年間積み上げて書くことができるページは、各学年の記録が残るよう積極的に書き込みをした。また、資料14のように書き込みが難しいページは付箋を貼って記録を残した。

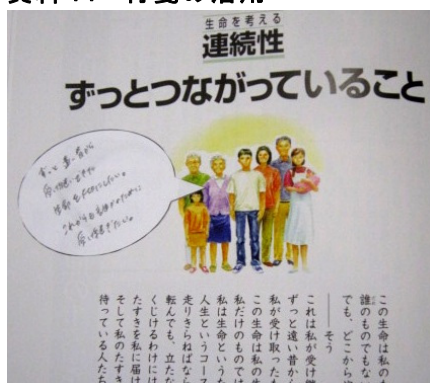
資料15では、社会科の授業で、関連資料を提示する際、「私たちの道徳」を配

らず、タブレットを活用してテレビに映し、短時間で全員に提示した。

また、各教科等と道徳の時間との関連を記録として残せるようにするために、指導案を作る際には「私たちの道徳」の活用場面を、展開の欄に記載できるようにした。

その他として、資料 16 のように、学年ごとに「私たちの道徳」を活用した授業で使用した資料を掲示した。授業の資料を廊下に掲示することで、生徒たちの授業に取り組む姿勢が改善され、効果的であった。学校の掲示板には、資料 17 のように、本校の重点目標である「2-(5)寛容・謙虚」が含まれる「人と支え合って」のページと、そこに掲載されているコラムやメッセージを掲示して、定期的に更新した。普段から目にすることで、生徒の意識の向上につながったと考える。

資料 14 付箋の活用



資料 15 ICTの活用



資料 16 学年の掲示板



資料 17 学校の掲示板



5 成果と課題

(1) 成果

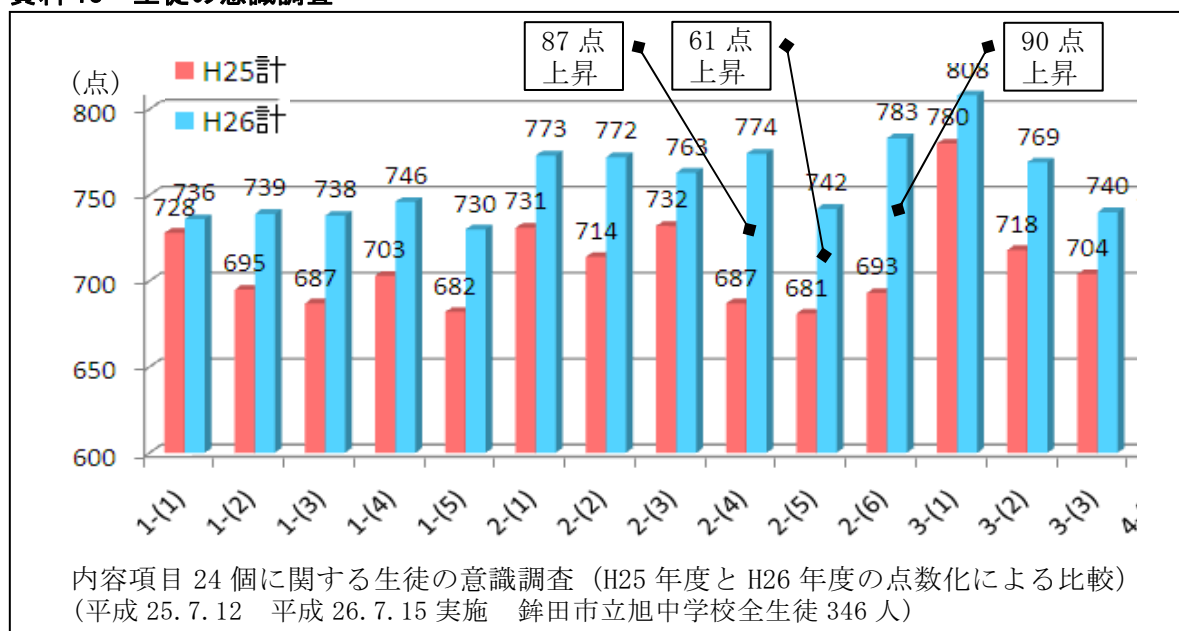
ア 組織を立ち上げ、道徳推進会議を定期的に行ったことや研究部に全職員が関わったことで、学校の教育活動全体で道徳教育の推進を図ることができた。

イ 全体計画の別葉をより詳細なものに改善したことで、各教科のなかで、道徳がどのように関連しているのか、確認する機会が増えた。また、実際に別葉を活用して、関連内容を指導案に明記し、道徳教育を意識した授業を展開することで、職員の意識が高まった。

ウ 道徳の時間においては、別葉における他教科との関連を基に、補充、深化、統合を明確にしたことで内容項目のねらいに、より迫れるような授業改善を図ることができた。

エ 資料18では、生徒の意識調査で、道徳の内容項目すべてにおいて合計点数の高まりが見られた。これは、「よくあてはまる」が4点、「だいたいあてはまる」が3点、「あまりあてはまらない」が2点、「全くあてはまらない」が1点として、合計点をグラフ化したものである。平成25年7月に実施した生徒の意識調査と平成26年7月に実施した調査の結果を比較してみると、道徳の24の内容項目に関して、平成25年度の1年生、2年生の合計と平成26年度の2年生、3年生の合計は、全ての内容項目でプラスの結果であった。さらに、その中で増えた得点を見ると、多い得点から「2-(6)感謝の心」、「2-(4)男女の人格尊重」、「2-(5)寛容・謙虚」の順となっており、本校の重点目標である「2-(5) 寛容・謙虚」と、その前後の内容項目の意識が高まったと考える。さらにこの部分は、中学校学習指導要領解説道徳編で4つの区分に分けられている「2 主として他の人との関わりに関すること」に該当する部分であり、本校生徒の実態である、「お互いの立場からものを見たり、考えたりすることが苦手である」ことが多少なりとも改善の傾向にあると考える。

資料18 生徒の意識調査



(2) 課題

ア 各教科等の指導では、別葉の改善や内容を充実し、積極的な活用を図ることで、教育活動全体を通じた道徳教育の推進を行っていききたい。

イ 生徒の実態を記録として残したものを、指導案や授業に活用できるようにしたい。また、評価については、生徒の活動や考えを記録として残せるような工夫をしていきたい。

ウ 「私たちの道徳」の活用を図るため、授業の導入段階での活用や、朝読書での活用、また、家庭で記入できるように学級通信でやりとりができるような工夫をしていきたい。

エ 生徒の意識調査の結果を、学年ごとに比較・検討することで、生徒がどのように変容しているのかを詳細に分析し、今後の指導に生かしたり、次年度の重点目標への資料として活用したりしていきたい。



平成26年度 銚田市立旭中学校 道徳教育全体計画(別業)

第2学年

	国語		社会		数学		理科		音楽		美術		保健体育		技術		家庭		外国語		特別活動		総合		
	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	月	内容	
1. 自分や周りの人とのかわりに責任を負うこと	5	「形」																							
	3	「幾何の一句」			4	1章 多項式																			
	1	「正しい言葉は信じられる」			2	2章 平方根																			
	0.2	「美の報道」			3	3章 2次方程式																			
		「今の思いをまよとあよう」			4	4章 図形と相似																			
		「朝陽に包まれてほそそ」			5	5章 図形と相似																			
		「雑談」			6	6章 図形と相似																			
		「風の唄」			7	7章 図形と相似																			
		「朝花」			8	8章 図形と相似																			
		「雑談・分科して備しよう」			9	9章 図形と相似																			
2. 他人の立場や感情を思いやり	3	「種間の花」			10	10章 図形と相似																			
	4	「生命は」			11	11章 図形と相似																			
		「命の尊厳」			12	12章 図形と相似																			
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
3. 自分や周りの人とのかわりに責任を負うこと	5	「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							
		「命の尊厳」																							

9月の道徳教育

学校重点目標 寛容・謙虚 2-(5) *学期に2回(全6回)が目安になっています。

互いの独自性を認め、相手の考えや立場を尊重し、他者とともに生きるという心で、他に対して謙虚に学ぶ生徒を育てる。

作成していただいた「別業」の中で9月に行えるものの一覧は以下の通りです。

学年	内容項目	教科	単元	私たちの道徳	
1	1-(2)	社会	(歴史) 第2章 第2節 古代国家の歩みと東南アジア	22～25	
	4-(1)	数学	4章 量の変化と比例, 反比例	92～95	
	1-(4)	理科	気体の発生と性質, 物質の状態変化	30～33	
	1-(5)	保健体育	器械運動	34～37	
	4-(8)	保健体育	体育祭	120～123	
	1-(3)	技術	生活に役立つ作品の製作	26～29	
	2-(5)	外国語	Unit5 お祭り大好き	60～63	
	4-(6)	外国語	Unit6 ベッキーのおばあちゃん	112～115	
	1-(2)	総合	各自のテーマに沿った課題を見つけ、調べ学習を進めることができる。調べた物をまとめることができる	22～25	
	1-(4)	総合	地域を知ると共に、自分たちが地域に対してできることを考える。	30～33	
	2-(4)	総合	体育祭, 和光祭などの行事で男女が協力することによって, 1+1が2以上になることを経験させる。	56～59	
	3-(1)	総合	地域の清掃活動(クリーン作戦)を行い地域の様子や環境にも目を向けさせる。	72～75	
4-(4)	総合	体育祭, スキー学習など集団の力の向上のために自分ができることについて考え, 実践させる。	104～107		
2	4-(9)	国語	「枕草子」	124～127	
	4-(8)	社会	(地理) 第3章 日本の諸地域	120～123	
	4-(1)	数学	3章 1次関数	92～95	
	3-(1)	理科	動物のなかま	72～75	
	3-(2)	理科	行動のしくみ, 動物のなかま	76～79	
	2-(6)	音楽	夏の日の贈り物	64～67	
	3-(1)	美術	心ひかれた風景	72～75	
	1-(5)	保健体育	器械運動	34～37	
	4-(8)	保健体育	体育祭, 傷害の防止(保健)	120～123	
	1-(5)	家庭	よりよい住生活を目指して	34～37	
	4-(10)	外国語	Unit4 Homestay in the United States	128～131	
	1-(2)	総合	各自がテーマに沿った課題を設定し, 体験学習等を通して課題を追究することができる。	22～25	
	4-(2)	総合	校外での活動を通して, 必要な約束や公共のルールを守ることの大切さを理解し, 社会の一員としてよりよい態度を育てる。	96～99	
	3	1-(4)	国語	「奥の細道」	30～33
		2-(2)	国語	「論語」	48～51
4-(9)		国語	「万葉・古今・新古今」	124～127	
2-(4)		社会	第2章 人間の尊重と日本国憲法	56～59	
2-(5)		社会	第2章 人間の尊重と日本国憲法	60～63	
3-(1)		社会	第2章 人間の尊重と日本国憲法	72～75	
4-(2)		社会	第2章 人間の尊重と日本国憲法	96～99	
4-(3)		社会	第2章 人間の尊重と日本国憲法	100～103	
4-(10)		社会	第2章 人間の尊重と日本国憲法	128～131	
4-(1)		数学	4章 関数($y = x^2$), 5章 相似と比, 6章 円	92～95	
3-(2)		理科	自然界のつり合い	76～79	
4-(8)		音楽	ブルタバ(モルダウ)	120～123	
1-(5)		保健体育	器械運動	34～37	
3-(3)		家庭	子どもにとっての家族について考えよう	80～83	
2-(5)		外国語	Unit4 Learn by Losing	60～63	
3-(1)	外国語	Let's Read 1 A Mother's Lullaby	72～75		

*「私たちの道徳」のページは内容項目に対応するところです。教科の内容によっては、他のページが適当である場合もありますので、その場合は使いやすいほうで活用してください。

*別業の作成・修正・追加ありがとうございます。ほぼ完成できました。

*学年の道徳担当の先生は、1年生が**先生、2年生が**先生、3年生は**です。今月は、掲示板の作成です。宜しくお願いします。

学校重点目標、学年重点目標は、

学校重点目標が学期に2回(全6回)、学年の重点目標は学期に1回(全3回)を目安になっています。

こちら合わせて宜しくお願いします。

学校重点目標
寛容・謙虚 2-(5) 互いの独自性を認め、相手の考えや立場を尊重し、他者とともに生きるという心で、他に対して謙虚に学ぶ生徒を育てる
第1学年重点目標
個性の伸長1-(5) かけがえのない自己を肯定的にとらえ自己理解をし、また自己との対話を通して個性をみだしていく 郷土愛4-(8) 郷土によってはぐまれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、郷土を大切にすることを学ぶ心や態度をはぐくむ
第2学年重点目標
個性の伸長 1-(5) かけがえのない自己を肯定的にとらえ自己理解をし、また自己との対話を通して個性をみだしていく 感謝の心 2-(6) 互いに助け合い、協力し合って生きる根底に感謝の心があり、潤いのある人間関係を築く上で大切なものととらえる 公德心・社会連帯 4-(2) 社会の一員である自覚を深め、よりよい社会を実現するために約束やきまりを重んじ協力し合う意欲を育てる
第3学年重点目標
生きる喜び 3-(3) 人間の弱さ醜さを知り、一方で崇高な人生を願う心に触れ、自分に恥じない、誇りある生き方に近づく態度をはぐくむ 公德心・社会連帯 4-(2) 社会の一員である自覚を深め、よりよい社会を実現するために約束やきまりを重んじ協力し合う意欲を育てる 郷土愛 4-(8) 郷土によってはぐまれてきた伝統と文化に触れ、体験することを通して、郷土を大切にすることを学ぶ心や態度をはぐくむ

○道徳教育の充実

～教育活動全体を通して～

・別葉を使った授業実践の記録

Ex. ①板書の記録(写真) → キーワードや内容がわかる部分の記録

②心のノートでの生徒の作品の記録 → 改訂版「心のノート」を生かした道徳教育の展開

(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/detail/1332340.htm)

に各教科具体的にどのように活用できるかの例が2～3個ずつ載っています!

③指導案で別葉と関連事項の記載

・別葉自体の修正、効率化

Ex. ①実際使ってみての修正、または新たに加筆できるものの追加

②「内容」プラスその内容に関するキーワードを入れる → 板書の記録に残しやすい

③全教科が1枚で見られる別葉

④月ごとの時系列にした別葉

・環境の整備

Ex. ①各クラス、各学年、学校での道徳コーナーの充実

②全学級道徳ファイルの作成

- 1 単元名 球 技 (ゴール型 バasketボール)
- 2 単元の目標
 - 課題解決のために、計画的に練習し、競技を楽しむことができるようにする。(関心・意欲・態度)
 - チームや自己の課題をもって互いに意見を出し合い、練習やゲームの仕方を工夫することができるようにする。(思考・判断)
 - 基本技能を身に付け、ゲームの中で生かすことができるようにする。(技能)
 - 技術の名称や行い方を理解し、健康安全に留意して活動できるようにする。(知識・理解)
- 3 単元の学習について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領E(1)「勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。」に基づいている。対する2チームが、コート内を走り回ってボールを奪い合い、ドリブル、パスなどでボールを進め、一定の時間内に相手ゴールにシュートして得点を競い合うスピード感溢れるスポーツである。

練習やゲームの場面でさまざまな運動技能が求められるだけでなく、共通の課題に向かって取り組んだり、役割を遂行したり、相互に協力し合う等、多くの価値を見いだせる運動である。

(2) 生徒の実態

本学級は、全体的に体育の授業に前向きに取り組む元気な生徒が多く、体育への興味・関心が高い。特に、球技を好きな生徒が多い。小学校のミニバスケット経験者や授業においてバスケットボールを経験しているため、ゲームの基本的な進め方は知っているが、ドリブルやシュートという技術の面ではまだまだ未熟な者もいる。特に、体育や球技が苦手な生徒は、ボールコントロールが上手くできず、ドリブルやパス、シュートが思うようにできない。決まった人だけで攻撃をし、ボールが回らなくおもしろくないと感じると思われる。

そこで、本単元を実施するにあたり、生徒の実態調査を行った。(H26.1.8実施, 調査人数*人)

質問事項	バスケットボール	ア はい イ いいえ
① スケットボールをやったことがありますか。		ア*人 イ*人
② これまでの体育の授業で自分の能力に合った課題やめあてがもてましたか。		ア*人 イ*人
③ これまでの体育の授業で自分の能力を伸ばすための学習計画が立てられましたか。		ア*人 イ*人
④ 友達と助け合い、教え合い、協力しながら学習に取り組めそうですか。		ア*人 イ*人
⑤ 友達と意見の交換をし、友達の助言を取り入れて活動することができそうですか。		ア*人 イ*人

アンケートの結果から「自分に合った課題がもてる」「学習計画が立てられる」「友達と助け合い、教え合い、協力できる」と答えた生徒は多数いた。しかし、総合的な学習や学級活動等での話し合いでは、小グループの意見を押し通し、意見が食い違い衝突することが少なくない。

このことから、アドバイスをしながら生徒自身が意欲的に活動に取り組むことができるようにしたい。その中で、本校の道徳教育の柱でもある「謙虚・寛容」を感じさせる授業にしていきたい。

具体的な手立てとして、チームや自己の課題を明らかにし、その課題を解決するための練習の仕方を工夫したり、作戦を立てたりしながらグループ学習を取り入れ、学び合いの中で技術の向上と友達の意見や考え、指示などを謙虚に受け入れたり、球技の苦手な生徒に対しても、チームの仲間として受け入れる寛容な心を育てたい。

(3) 指導について

本単元では、コート上の空間認知力がゲーム展開に影響するが、自分の身のこなしとボール操作の間に存在する運動能力と経験の差が、個人のプレーの幅(ボールコントロールの差)に大きく影響し、その能力がある程度身に付かないと、空間認知力を意識したゲーム展開が難しい。このことから、準備運動はなるべくボール操作を伴ったものにした。

この運動の持つルールや高度な技術的要素を、そのまま授業で求めすぎるとドリル的な技術練習が多く必要となる。しかし、単元の時間数を念頭におき、ゲームの時間を減らさないために、必要最小限のルール適用や特別ルールを採用した。また、基本的な技能の習得や仲間と連携した動きができ、チームの作戦に応じた技能を身に付け仲間と連携したゲーム展開ができるようにした。さらに、基本的に身体接触が禁止されているが、ゴール型の球技であるバスケットボールのゲームにおいては身体接触が起こりうるので、そのような運動においてフェアプレイの精神や自他の安全への気配りも求められるとともに、話し合いに協力する意欲を育みたい。

生徒が自ら考えて行動することができるよう自分たちでチームの課題を見つけ、それに応じた練習を選択したり、工夫したりさせながら、学び合いを充実させ、全ての生徒の意欲を高め、授業に楽しく取り組めるようにしたい。

4 指導と評価の計画 (10時間扱い)

次	時	学習内容・活動	評価の規準方法	関	考	技	知
1	1	・オリエンテーション ・グループ編成・役割分担 ・学習計画 ・試しのゲーム	・バスケットボールの特性やルールなどについて知ることができたか。(観察) ・意欲的に取り組むことができたか。(観察)	○			
2	4 2/4 (本時)	基本技能の習得、チーム練習	・互いに助け合い、教え合いながら取り組んでいるか。(観察)	○			
		・チームの課題解決練習 ドリブル(両手ドリブル) シュート(ジャンプ・レイアップ) パス(チェスト・ショルダー) ・簡易ゲーム	・互いに協力して課題を設定し、練習に取り組んでいるか。(観察)		○		
			・基本技能を身に付けられたか。(観察)			○	
3	4	・チーム練習 3対3のパスゲーム 3対3のハーフコートゲーム ・リーグ戦	・チームの課題を見つけ、練習やゲームをすることができる。(観察, 学習カード) ・基本技能をゲームの中で活かすことができたか。(観察)	○			
						○	
4	1	まとめ ・スキルテスト, 自己評価(学習カード)	・基本技能が身についているか。(テスト)				○
			・技術の名称や行い方, 学習した内容を知ることができたか。				○

5 本時の指導

(1) 目標

- 健康安全に留意しながら基本技能を身に付け、相手の立場を尊重した言動で練習やゲームを楽しむことができるようにする。(関心・意欲・態度)
- 自己やチームの課題に応じて、工夫して能率的な練習ができる。(思考・判断)

(2) 準備・資料

バスケットボール・得点板・デジタルタイマー・学習カード・ホワイトボード・ゼッケン・心のノート

(3) 展開

時間	学習内容・活動	学習形態	指導上の留意点・評価
5分	1 活動場所に集合する。 ・整列、挨拶を行う。 ・本時の学習について確認する。 ・心のノートで前時の振り返りを行う。 ・体育係を中心に準備運動を行う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の場について安全面を確認する。 ・本時の学習に見通しをもたせる。 2－(5) 謙虚・寛容 前時で心のノートを活用した箇所から互いに認め合うことや励まし合うことを振り返る。そのことから授業後半のゲームの中から他の班からの意見や感想を受け入れ活動することができるようにしたい。 【心のノート活用P.50・51・62・63を活用】 ・常に全体を見渡せる場所で、事故・怪我等が起こらないよう状況を把握する。 ・主運動につながるようしっかりと準備運動に取り組ませる。
10分	2 前時の反省を元に、チームで協力して課題の解決に向けて練習を行う。 チームによりスキルトレーニングを行う。 ・ドリブル ・パス ・シュート めあて1 チーム内でお互いの技能を認め合い、楽しく練習することができる。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを中心に前時の授業における反省を元にチームの課題を把握し、課題に応じたメニューで練習することができるように指示をする。 ・お互いに声をかけ合い、仲間の呼びかけに対し、素早く反応できるようにさせる。 ・動きに対する指示、助言を認め合うことのできるようにさせる。 ㊦練習内容の工夫を通して、興味や関心を高めるように努めさせる。 ・練習方法が分からず、取り組めないチームには練習方法を紹介するなどして、支援する。 ☆チーム内でお互いに、良い点、改善点の助言をするように指示する。 ★技能の低い生徒には個別指導や能力の高い生徒と組むことで動き方を理解できるようにする。 ㊧チーム内でお互いの技能を認め合いながら、楽しくゲームをすることができたか。 (観察) ・個人的技能よりも、チーム全体の課題を中心に助言をさせる。
20分	3 ゲームを行う。 本時は、簡易ルールによるゲームを行う。 ・男女別にゲームを行う。残るチームは試合運営や対戦チームへの助言などをボードに記入する。 ・簡易ルールで、バスケットボールの楽しさを味わわせることを目的とするため、対戦チームで審判を行う。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ㊧チーム内でお互いの技能を認め合いながら、楽しくゲームをすることができたか。 (観察) ・個人的技能よりも、チーム全体の課題を中心に助言をさせる。
10分	4 ボードに記入された助言を活かしながらチームで考えて練習を行う。 めあて2 他のチームの助言をもとにチームの課題に気づき、練習をすることができる。	グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・ボードに記入された助言を参考にチームの課題を確認し練習に取り組めるようにさせる。 ㊧他のチームの助言から課題をつかみ、その解決のための練習をすることができたか。 (観察, 学習カード)
5分	5 片付けをし、集合する。 6 本時の振り返りをする。 あいさつを行う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の自己評価、反省と次時の課題を学習カードに記入させる。

(4) 道徳の内容項目との関連〔2－(5) 謙虚・寛容〕

それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容な心をもち謙虚に他に学ぶ。

(5) 努力事項(学校教育指導方針)との関連

学習内容の明確化を図るために、「できること、わかること、多様に関わること」をバランスよく組み込み、バスケットボールのひとつひとつのねらいを明確にし指導にあたる。また、チーム編成や練習内容の工夫をとおして、興味や関心を高めるように努める。

1 主題名 他に学ぶ 〈2－(5) 寛容・謙虚〉

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目2－(5)は「それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容な心をもち謙虚に他に学ぶ」ことをねらいとしている。中学生の時期は、ものの見方、考え方に違いが現れてくるので、自分の考えや立場に固執する傾向が強くなり、家族間、友人間に意見の対立や摩擦が生じることがある。また、この時期は、反抗期にもあたり、わがままを言ったり、寛容さと謙虚さに欠けたりすることも少なくない。夢を追いかけていくこの時期に、自分の信念を貫く心を養っていくことは大切である。一方で、未熟な一面もあり、寛容な心をもち謙虚に他に学ぶことで人間としての成長に役立つことも多く、寛容な心や謙虚な心を養っていく必要性を強く感じる。本時は、さまざまな立場の考え方があることを理解して、寛容な心をもち謙虚に他に学ぼうとする態度を養っていききたい。

(2) 生徒の実態について (平成26年1月9日実施, 調査人数*人)

1	相手の立場や気持ちを考えずに、自己中心的な言動をとってしまうことはありますか。 ア よくある *人 イ たまにある *人 ウ あまりない *人 エ ほとんどない *人
2	1でア、イと答えた人に聞きます。それはどんなときですか。 自己中心的な態度をとられたとき、悪ふざけをしたとき、はしゃぎすぎたとき、体調が悪いとき、普段の会話のとき、ムカムカしているとき、相手がなかなか答えてくれないとき
3	家族や友人と意見が対立したときに、あなたはどうしますか。 文句を言ってケンカする、自分の意見を突き通す、自分の意見を押し切る、意見をもう一度言う、そのままにする、互いの意見を言って話し合う、相手の意見を聞いてもう一度考え直す、相手の意見にまかせる、謝る、謝らせる

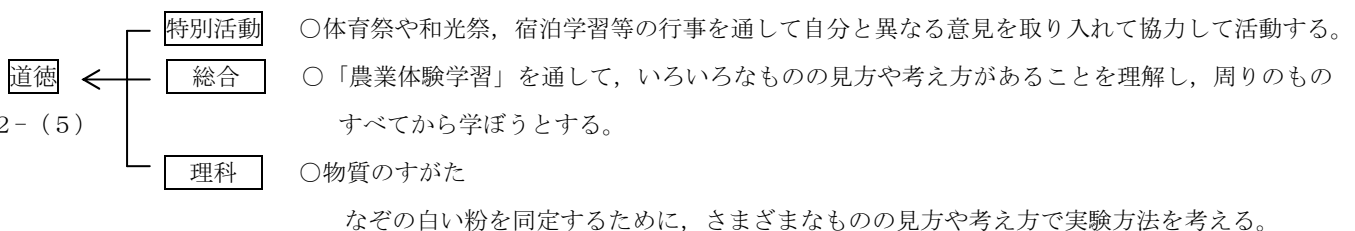
本学級は、一人一人の個性を認め合い、全員が過ごしやすく、互いの力を高めあえるような学級を目指している。そのため、学習面や部活動などの目標をもち、理想の実現のために努力し、個性を認め合うことの大切さをしっかりと理解できている生徒が多い。一方で体育祭や和光祭、宿泊学習などの行事やこれまでの学校生活では、友人同士で意見の対立があり、相手の立場や気持ちを考えることができずに自己中心的な言動をとってしまう生徒、自分の意見を押し切って話し合いにならない生徒もみられている。そこで本時は、自分だけの一方的な考え方をするのではなく、さまざまな立場の見方や考え方を理解し、寛容な心をもち謙虚に他に学ぼうとする態度を育てていききたい。

(3) 資料について (読み物資料「茂の悩み」 福田鉄雄)

本資料は、バスケットボール部のキャプテンである茂が、技量の劣るチームメイトの正夫をレギュラーから外すべきかどうかについて、他の部員の様々な意見の間で悩む姿が描かれている。

技量の落ちる正夫を「チーム全体のため」に外そうという意見をもつ副キャプテンの浩二や1年生、チームに迷惑を掛けまいと熱心にバスケットボールの自主練習に取り組む正夫とチームメイトの稔、それぞれの立場によっていろいろな考え方が理解できる資料である。浩二が「あんなやつ外した方がいいぜ」と言ったとき、レギュラーの辞退を説得するために正夫の家に向かう途中で稔と正夫が自主練習をしているのを見たとき、その次の日の茂・浩二・信一郎の会話に稔が入ってきたとき、それぞれの場面で茂の心の中で「レギュラーから外す」気持ちと「レギュラーから外さない」気持ちがどのような割合であるのか、またそう考える根拠を問い、本時のねらいに迫っていききたい。

3 各教科等における道徳教育との関連



2－(5)

4 本時の指導

(1) 目標

○ さまざまな立場の考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てる。

(2) 準備・資料 掲示物（登場人物、イラスト）、資料「茂の悩み」、ワークシート、心の円グラフ、赤ペン、青ペン、定規

(3) 展開

時	主な活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
2分30分	<p>1 本時の資料がバスケットボール部での話であることを知り、資料「茂の悩み」を読み、話し合う。</p> <p>・登場人物を確認する。</p> <p>・茂の部活に対する気持ちを確認する。</p> <p>○副キャプテンの浩二に「あんなやつ、外したほうがいいで」と言われ、茂はどう思ったでしょう。</p> <p>・心の円グラフで「レギュラーから外す」気持ちと「レギュラーから外さない」気持ちの割合を表し、話し合う。</p> <p>○稔とシュート練習をする正夫の姿を見たとき、茂はどう思ったでしょう。</p>	<p>・部活動での話か。</p> <p>・先生もバスケットボール部の顧問だ。</p> <p>・茂、浩二、信一郎、稔、正夫、1年生、田中先生。</p> <p>・早く来て練習するほど、やる気。</p> <p>・新人戦でベスト4以上の成績を必ず残したい。</p> <p>【レギュラーから外す】</p> <p>・浩二の不満もたまっているし、外しても良いかな。</p> <p>・レギュラーから外すと、1年生の信頼を得ることができるし、今後の部活がやりやすくなる。</p> <p>・雄一郎も上達しているし、勝てるかもしれない。</p> <p>【レギュラーから外さない】</p> <p>・正夫がこんなに努力していたなんて。</p> <p>・こんな姿を見たら、とてもレギュラーを外れてくれなんて言い出せないな。</p>	<p>・話し合い活動を活発にさせるために「コの字の型」にしておく。</p> <p>・資料が長いので、登場人物やあらすじを丁寧に確認する。</p> <p>・資料を読んだら、机の中にしませる。</p> <p>・図や絵を用いて視覚的にあらすじを理解できるように、板書構成を工夫する。</p> <p>・心の円グラフを使用し、「レギュラーから外す」気持ちと「レギュラーから外さない」気持ちの割合を表しやすくする。</p> <p>・「なぜそう考えたか」、「具体的にどういうことか」などの発問で、言語化させ、より深く考えさせる。</p> <p>・それぞれの発問に対して、心の円グラフを使用して、茂の心の変容を捉えやすくする。</p>
<p>◎浩二と信一郎との会話に稔が入ってきたとき、茂はどんなことを思ったでしょう。</p>			
15分	<p>2 自分自身の考えをワークシートに記入し、意見を発表する。</p> <p>3 自分自身を振り返り、これからの自分を考える。</p> <p>○これまでの学校生活（行事、部活動等）の経験を生かして、もし、あなたが茂だったら、このあとどうしますか。</p>	<p>・浩二と1年生の信頼を得ることができて勝てるかもしれないけど、正夫と稔に申し訳ない。</p> <p>・チームのために努力している正夫と稔を大切にしたいけど、部員からの信頼がなくなるかも。</p> <p>・正夫が努力しているのもわかるけど、勝利のためにレギュラーも外れてもらわないと。でも、正夫と稔にもしっかり説明しないとイケないな。</p> <p>・努力しているから、正夫にポストプレーをしっかりやってもらおう。浩二と1年生には、正夫の努力を教えてあげないと。</p>	<p>・机間巡視を行い、生徒の考えを整理しておく。また、考えを書けない生徒にはそれぞれの立場になって考えてみるように助言する。</p> <p>・振り返りの時間を十分に確保して、ワークシートに記入させる。</p> <p>・いつも意見を通そうとする生徒に、日常生活での自分ならどうするか、助言する。</p> <p>・色々な立場の人の気持ちを考えるように助言し、謙虚に他から学ぶ大切さに気が付けたい。</p>
3分	<p>4 教師の説話を聞く。</p>		

(4) 努力事項（学校教育指導方針）との関連

各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育を「補充・深化・統合」することで、さまざまな立場の考え方があることを理解して、謙虚に他に学ぼうとする態度を育てる機会としたい。

(5) 板書計画

○もし、あなたが茂だったら？

○浩二と信一郎の会話に稔が…
茂はどう思った？

○稔と正夫の練習
茂はどう思った？

○浩二「あんなやつ、外した方がいいで」
茂はどう思った？

○正夫
・二年生でレギュラー
・あまり上手くない

「茂の悩み」

【実践事例】 自主的に考え望ましい行動がとれる生徒の育成を目指した取組

阿見町立竹来中学校

URL : http://www.town.ami.ibaraki.jp/school/junior/takaku_jh/

1 学校の概要

本校は、霞ヶ浦に面した阿見町の北東部に位置し、自然の豊かな地域にある。生徒数482人の中規模校であり、「主体的でたくましい、心豊かな生徒の育成」を教育目標として、教育活動に取り組んでいる。

2 生徒の実態

本校の生徒に対して、道徳に関する意識調査（平成25年7月16日実施、全学年446人）を実施したところ、内容項目「1-(3) 自主自律・誠実・責任」の内容である「自ら考え、判断し、実行し自己の行為の結果に責任を持つことはできますか。」という質問に対し、他の内容項目に関する同様の質問と比較してやや低い結果となった。「主体的でたくましい、心豊かな生徒の育成」という本校の教育目標と、この意識調査の結果を踏まえ、自主的に考え望ましい行動がとれる生徒を育成する必要があると考える。

3 取組の概要

上記の理由から、内容項目「1-(3) 自主自律・誠実・責任」を本校の道徳教育の重点目標の一つとし、日々の授業に反映させた。しかし、中学校は教科担当なので教師の意識や捉えをそろえなくてはならない。また、他の教科でどのようなことを指導しているのか分からなくてはならない。そこで、別葉を作成することにした。作成するに当たって、道徳部会でまず全体計画の見直しを行った。そして、道徳教育推進教師が教師間の連携を図り、道徳教育の充実に向けた研修を行うようにした。

併せて、補充、深化、統合を意図した道徳の授業の実践を行った。全体計画の別葉を参照して、「道徳の時間以外の教育活動で、いつ、どのように行ったのか。その結果、生徒はどのような状況にあるのか。」を確認することで、各教科等で行われる道徳教育の補充、深化、統合を意図した道徳の授業を展開した。

さらに、道徳教育を意図した継続した取組として、学級や学年での靴そろえ、自転車そろえの実施や道徳コーナーの充実、家庭と連携するために学級通信や学年通信の活用等の実践も行った。

4 実践内容

(1) 全体計画の別葉の作成

それぞれの内容項目にはどの学習内容、学習態度があてはまるかが分かる別葉の作成を目指した。その際、道徳教育推進教師が中心となって、教科部会や学年会との連絡調整を行った。

ア 教科部会

まず、1-(3)の内容項目と関連のある単元を洗い出した。次に教材の特性からど

の内容項目が学べるかを考えた。そして資料1のようにまとめた。教科によっては、内容項目と結び付きにくいものもあったが、「学習活動や学習態度への配慮」、「教師の態度や行動による感化」の視点も意識しながら作成した。これにより、全職員が関わって作成することができ、教科の中での意識や捉えをそろえることができた。

資料1 別業① 道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連（一部）

道徳教育全体計画【別業】 道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連（第2学年）					
	国語	社会	数学	理科	
1-(1)	望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。				
1-(2)	より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く意志をもつ。	毎時間の漢字テストで満点を目指す。日々の積み重ねを大切に。（通年）		毎時間の小テストで満点を目指す。日々の積み重ねを大切に。（通年）	
1-(3)	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。	「走れメロス」で、メロスがセリヌンティウスとの約束を果たそうとする姿から、自主的に考え、責任ある行動をとろうとする態度を学ぶ。（10月）	学習課題に主体的に取り組む態度を身に付ける。（通年）	「平行と合同」で、図形の性質を導いていく中で、自ら進んで様々な解法を見出す。（11月）	「原子をもとに説明しよう」で、現象を相手に分かりやすく説明するよう自分の考えをまとめる。（6月）
1-(4)	真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。			「三角形と四角形」で、図形の性質の証明を通して、演繹的な推論の仕方や論証の意義を理解する。（12月）	「抵抗の大きさを考える」で真理を追究する姿勢を育てる。（1月）

イ 学年会

学年ごとに学校行事や特別活動、総合的な学習の時間との関わりも考えながら別業の作成を行った。これにより、教科間のつながりが明確になり、今まで道徳教育は担任が中心に行うという意識だったが、そうではなく全職員で行っていくという意識が高まった。

資料2 別業② 内容項目1-(3)のみの別業

重点目標 項目1-(3)		
	第1学年	第2学年
国語	「少年の日の思い出」で、一度起きたことは償うことができないという結末を読み取り、自分の行為が及ぼす結果について深く考えることの大切さを学ぶ。（11月）	「走れメロス」で、メロスがセリヌンティウスとの約束を果たそうとする姿から、自主的に考え、責任ある行動をとろうとする態度を学ぶ。（10月）
社会	学習課題に主体的に取り組む態度を身に付ける。（通年）	学習課題に主体的に取り組む態度を身に付ける。（通年）
数学	毎日の授業の中で、課題に対し積極的に考え、自ら問題を解決しようとする姿勢を身に付ける。（通年）	「平行と合同」で、図形の性質を導いていく中で、自ら進んで様々な解法を見出す。（11月）
理科	「大地の変化」では、火山の形が異なる要因を予想し、実験計画を立てる中で、自分の考えに責任をもち、自主的な態度を育てる。（2月）	「原子をもとに説明しよう」で現象を、第三者にわかりやすく発表する。（6月）

資料3 道徳通信

道徳通信 11月号

～ 自主的に考え望ましい行動がとれる生徒の育成 ～

別業より

別業では、11月に各教科等で行う道徳教育は以下のようになっています。教科の授業の中でも道徳を考慮しながら授業を行っていきましょう。道徳の関係などで別業の内容に変更があれば各自で訂正後、三浦まで報告してください。訂正がない場合も報告をお願いします。

学年	各教科等	道徳との関連	内容項目
1年生	国語	「少年の日の思い出」で、一度起きたことは償うことができないという結末を読み取り、結果に責任をもとうとする態度を身に付ける。	1-(3)
	音楽	「詩と音楽との関わり」で、歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを思い取っく、歌唱表現を工夫する。	2-(4)
	技術・家庭	自分の身のまわりに必要な製品の製作をする事で、設計が完成までの見通しをもち、課題を達成する。	1-(2)
	技術・家庭	製作品の設計・製作で、作品に適した材料や加工法を考え、適切な設計・製作を行う。	2-(1)
社会	社会	「身近な地域の調査」を通して、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高める。	4-(7)
	社会	「身近な地域の調査」を通して、地域社会の発展に努力しようとする態度を養う。	4-(8)

(2) 全体計画の別業の活用

重点目標をより意識するために、完成した資料1の別業を基に、内容項目1-(3)だけを抜き出した資料2の別業を作成した。また、別業を作成しただけで終わらないように、道徳教育推進教師が教師向けに資料3のような道徳通信を作成して、月に1回配付するようにした。そうすることで、その月に指導すべき道徳の内容項目や、各教科等による道徳との関連をより意識するようになった。さらに、別業を活用することで、教科との関連が明確になり、補充、深化、統合を意図した道徳を行うための教材研究に生かすことができた。

(3) 各教科等における実践

別業を活用することで、各教科等のつながりが分かるようになった。例えば、本校の重点目標である内容項目1-(3)は、第3学年の社会「現代社会の見方や考え方」の

単元、技術・家庭〔技術〕の「インターネットの利用とモラル」の単元で関連があることが明確になり、内容項目1-(3)を意識した授業を実践した。また、重点目標以外でも別葉を活用して実践を行った。

ア 重点目標としての取組

(7) 社会科 第3学年「現代社会の見方や考え方」

教科と内容項目との関連	本時の道徳教育の視点
身近な問題を自分の考えに責任を持って話し合い、誠実に実行する。	身近な問題に対して、対立している相手の話をよく聞いて、互いに受け入れることのできる解決策を求めて話し合い、合意を目指す小グループでの話し合い活動を取り入れることにより、自分の考えに責任を持ち、誠実に実行しようとする態度を育てる。

「みんなが納得する解決策を考え、トラブルを解決しよう」という課題で授業を行った。本単元は、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義を考えることを通して、「対立と合意」、「効率と公正」などの見方や考え方があることを理解することをねらいとしている。そこで、本時は生徒にとって身近な問題を取り上げることで、自分の考えに責任を持って話し合った(資料4)。生徒は4人グループで運動部の代表になって体育館の使用法について話し合ったり、学級の代表になって合唱の練習場所について話し合ったりした。話し合いの中で、生徒は自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見を尊重する姿が多く見られた。授業の後半には、話し合いの内容だけでなく、話し合いの仕方についても振り返ることができるようにし、全員が納得するために必要な「効率」と「公正」の概念を押さえることができるようにした。生徒のワークシートからは、「身近な話題を実際に話し合うことで、効率と公正の意味が理解できた」、「代表という意識で話し合いをしたので、自分の考えに責任を持って取り組むことができた」といった記述が見られた。

資料4 話し合いの様子



「みんなが納得する解決策を考え、トラブルを解決しよう」という課題で授業を行った。本単元は、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義を考えることを通して、「対立と合意」、「効率と公正」などの見方や考え方があることを理解することをねらいとしている。そこで、本時は生徒にとって身近な問題を取り上げることで、自分の考えに責任を持って話し合った(資料4)。生徒は4人グループで運動部の代表になって体育館の使用法について話し合ったり、学級の代表になって合唱の練習場所について話し合ったりした。話し合いの中で、生徒は自分の意見を主張するだけでなく、相手の意見を尊重する姿が多く見られた。授業の後半には、話し合いの内容だけでなく、話し合いの仕方についても振り返ることができるようにし、全員が納得するために必要な「効率」と「公正」の概念を押さえることができるようにした。生徒のワークシートからは、「身近な話題を実際に話し合うことで、効率と公正の意味が理解できた」、「代表という意識で話し合いをしたので、自分の考えに責任を持って取り組むことができた」といった記述が見られた。

(イ) 技術・家庭〔技術〕 第3学年「インターネットの利用とモラル」

教科と内容項目との関連	本時の道徳教育の視点
情報モラルについて考え、自律的に考え行動することの大切さを理解する。	情報を発信する立場になったときの注意点や問題点を話し合い、情報モラルについて考えを深めることで、自律的に考え行動しようとする態度を育てる。

「インターネットの危険性を考えよう」という課題で授業を行った。本単元は、情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するだけでなく、著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考える必要がある。そこで、本時は自分が加害者の立場になって考えることで、自分の行動に責任を持つことの大切さに気が付くようにした。導入では、今までインターネットを活用

して、便利だった点と問題となった点について生徒が発表した。その中から特にインターネット上での買い物や情報を得る場合についての注意点について班で話し合い、意見を共有した。さらに、立場を変えて自分が加害者になる場合について考えた。情報を発信する場合は個人情報の問題があるので、自分の行動に責任を持たないといけないことや、相手の立場を考えなくてはならないといったことに気が付くように、具体例を挙げながら話し合いを行った。終末では、「私たちの道徳」の「情報化社会を生きる一員として絶対にしてはいけないこと」の資料を読むことでさらに理解を深め、今後の深化や統合を意図した道徳の授業につなげるようにした。

(ウ) 行事における実行委員会の取組

修学旅行、校外学習、体育祭といった行事では、実行委員を立ち上げて生徒主体で取り組んだ。修学旅行や校外学習では、持ち物や、出発から帰宅までの約束事項など、自分たちで考えることにより、規範意識が高まるようにし、自律的な行動をとる実践の場とした。また、旅行会社との打ち合わせには生徒も参加したことで、自分たちで修学旅行を成功させるという意識が高まった(資料5)。

当日も大きな問題がなかったが、自分たちでもっとよい修学旅行にしたいという思いから実行委員が一般の生徒に語りかける場面も多く見られた。体育祭では、実行委員、応援団長が毎日集まり、その日の活動報告やルールの確認、体育祭を成功させるための話し合いを生徒主体で行った(資料6)。

教師が指導する場面もあったが、教師主導ではなく、生徒の活動を促す支援を心がけ、生徒が自主的に行動できるようにした。教師の規制等による外発的な動機付けによる方法をとると、生徒が自分の意志や興味などで行動しようとする内発的な動機が希薄になり、自主的に行動する意欲を失いやすくなるので、どの行事も実行委員による話し合いを大切にしたい。

(エ) 委員会での取組

各委員会で生徒が自主的に行動したくなるようなキャッチフレーズを考えた。キャッチフレーズは安全委員会が自転車置き場、図書委員会が図書室など、各委員会がかかわりのある場所に関する内容で考えた。それを基に美術部がポ

資料5 打ち合わせの様子



資料6 体育祭の会議の様子



資料7 委員会のポスター



スターを作成し（資料7），カラーコピーをして学校中に掲示した。これまで，委員会によっては掲示物を作成していなかったり，作成していても学級ごとに掲示物を作成していたりと，活動や内容が統一されていなかった。しかし，今年度は自主的に行動したくなるようなキャッチフレーズを考えるという共通意識で取り組み，ポスターも学校全体で統一されたものを作成したことで，全員で本校の道徳教育の重点目標を達成していこうという意識で取り組んだ。その結果，安全委員会で生徒の発案から，下校時に門の付近に立ち，1列走行を促す活動を行うなど，各委員会で自主的な活動が見られるようになった。今後も委員会での活動を通して，生徒の自主性，自律性を育てていきたいと考える。

イ 重点目標以外の内容項目の取組

(7) 国語 第2学年「枕草子」

教科と内容項目との関連	本時の道徳教育の視点
清少納言の鋭い感性が捉えた季節感に触れ，美しいものに感動する豊かな心を持つ。	自然に対する清少納言と自分のものの見方や考え方を比較し，感じたことや気付いたことをまとめることで，自然の美しさに感動する豊かな心を育てる。

「自然に対する，清少納言と自分のものの見方，考え方を比較しよう」という課題で授業を行った。本単元は，古典に表れたものの見方や考え方に触れ，登場人物や作者の思いなどを想像することを指導事項としている。そこで，本時は自然に対する清少納言と自分のものの見方や考え方を比較し，感じたことや気付いたことをまとめることで，自然の美しさに感動する豊かな心を育てようとした。導入では，「私たちの道徳」の内容項目3-(2)である「美しいものへの感動と畏敬の念を」の資料を用いた。資料を通して，四季それぞれの自然の中で美しいと感じたことを振り返ることで，身の回りにある自然の美しさや神秘さを感じられるようにした。本時は枕草子の導入であったので，まず現代語訳を通して，清少納言が感じた自然の美しさを季節ごとにまとめる活動を行った。さらに，自分が感じる自然の美しさを季節ごとにまとめ，清少納言と自分の感じる自然の美しさを比較した。

(イ) 理科 第3学年「遺伝の規則性と遺伝子」

教科と内容項目との関連	本時の道徳教育の視点
生命の連続性についての理解を深め，自他の生命を尊重する。	親から子へ形質が遺伝子を介して伝わることを，遺伝子の記号を組み合わせながら考えたり，モデルを操作したりすることで，生命の連続性について理解が深まるようにする。

「すべての対立形質で，孫での現れ方が3：1になるのはなぜだろう」という課題で授業を行った。本単元は，身近な生物についての観察，実験を通して，生物の成長とふえ方，遺伝現象について理解するとともに，生命の連続性について認識を深めることがねらいである。生徒は親から子へその特徴が伝わることは，

生活経験上から漠然と理解している。しかし、それが遺伝によるものだと答えられた生徒は半数程度であった。本時はそういった実態を踏まえて、遺伝子の記号が親の代から伝わっていること、さらに孫の代へと伝わることを、遺伝子モデルを用いて操作しながら考え、図でまとめることを通して生命の連続性に気付くようにした。「子のAaとAaが受精すると孫の代での形質は3:1で現れる」ということから、生徒からは「孫のAaとaaが受精するとどうなるのだろう」という発言があり、生命の連続性について興味・関心が高まった生徒も見られた。また、このような科学的な理由から、命にはつながりがあるということに触れて授業を終えた。

(ウ) 特別活動（学級活動(1)）第2学年「秋桜祭(合唱コンクール)を成功させよう」

教科と内容項目との関連	本時の道徳教育の視点
「秋桜祭」で、合唱コンクールに向けて目標を持ち、その目標を達成しようとする強い意志を持つ。	「秋桜祭」で、話し合いを通して合唱コンクールに向けて目標を持ち、その目標を達成しようとする強い意志を持つ。

「秋桜祭(合唱コンクール)を成功させよう」資料8 「私たちの道徳」の活用

という議題で授業を行った。資料8のように、話し合いの前に「私たちの道徳」の内容項目「1-(2)目標に向かう意志」について書かれた資料を拡大印刷して前に掲示し、さらに司会の生徒がそれを読み、話し合いの意識付けになるようにした。学級の目標を決めた後に、それを達成するために学級の約束を話し合いで決め、さらに、自分の目標や全体練習とパート練習の計画を立てた。全体での話し合いだけでなく、個人で考えた後、グループでの話し合い、さらに全体での話し合いにしたことで、個人の意識も高まるようにした。



(4) 補充、深化、統合を意図した道徳の時間における実践

ア 第3学年「ネット将棋」

ネット上での将棋の対戦を通して、実際に目の前にいない相手に対して誠実に向き合えず、自分が対局に負けそうになると逃げるようにログアウトする主人公の様子が描かれている。そんな主人公と対照的に描かれている「明子」と「敏和」の行動を明確に対比させながら、自分の行動に責任を持つことの大切さを考えることのできる資料である。

資料9 生徒のワークシート

自分の実行した事に責任を持って、
その判断して間違えていないか、
相手のせいにする(他人に迷惑を
かけていないか)を考え、結果を素直に
受け取れる事を心掛けたいと
思いました。

これまで生徒は、技術・家庭〔技術〕の「インターネットの利用とモラル」の授業を通して情報モラルについて学習し、情報発信に対する責任や情報社会での

規範意識について考えてきた。しかし、携帯電話やインターネット上での無責任な書き込み等によるトラブルが少なくない。

本時は、そういった生徒の実態から深化を意図した授業を行った。導入では、技術の教科書を用いて、これまでに技術の授業で情報モラルについて学習したことを振り返った。また、事前アンケートの結果から、「周りに流されて、自分の意志とは違うことをしてしまったことがある」と答えた生徒が多数いることを踏まえながら、主人公の気持ちに迫れるようにした。終末では、「私たちの道徳」を用いて、「自律的に判断し誠実に実行するために、特に心がけたいこと」についてさらに考えを深めた。生徒のワークシートからは、「自分の行動に責任を持つこと」や、「他に流されない強い信念を持つこと」などの記述が見られた（資料9）。

イ 第3学年「にじんだ文字」

清掃中に誤って掲示物をぬらしてしまった主人公が、悩みながらも最終的には自分から先生に話しに行く姿が描かれている。生徒にとっては身近な話題であり、共感を持って読むことができるため、自分の生活を見直しながら、誠実であるとはどういうことなのかを考えることができる資料である。

これまで生徒は、5月の修学旅行で「自主・自律」をテーマに学年全体で取り組んできた。また、1年時の道徳の授業では、国語の教科書にある「少年の日の思い出」を活用してチョウを盗んだ主人公の行為と、心の葛藤に焦点を当てて、内容項目「1-(3) 自主自律・誠実・責任」について考えを深めてきた。

本時は、生徒がこれまで取り組んできた行事や授業を想起しながら、統合を意図した授業を行った。生徒のワークシートからは、「自分がやったことに対して責任を持つことは大切だと感じた」や、「自分の行動をしっかりと自分で受け止めることの大切さに気付いた」といった記述が見られた。終末では、主人公と自分を比べたり、今まで臨んできた学校行事などを想起したりして、誠実な態度がとれていたかを振り返った。

(5) 道徳教育を意図した継続した取組

ア 学年での取組

資料10のように各学年で靴そろえ、自転車そろえを実施している。学級対抗形式で、そろうと「〇〇完璧」など廊下に張り出し、毎日きちんとそろっている学級には賞状を与えるなど、各学年で工夫して取り組んでいる。学級によっては学級委員や係が呼びかけるなど、学級、学年全員で靴や自転車をそろえていこうという自主的・自律的な意識が高まっている。

資料10 靴そろえ 自転車そろえの掲示物



そして、靴そろえと関連させて、第1学年の道徳の授業では、「出船の位置に」を資料として授業を行った。これは望ましい生活習慣を身に付けておくことの大切さを自覚し、自らを律し、生活を正そうとする道徳的実践意欲を培うことをねらいとしており、授業を通して靴そろえを進んで実行することの大切さを考えることができた。

また、各教室や廊下には道徳コーナーを設置している。そこには道徳の授業で使
 用した資料や、「私たちの道徳」から、その授業に関連する内容の一部を取り出し
 て掲示したり、生徒の感想を掲示したりしている。さらに、生徒の道徳性を育成す
 るために著名人の名言や心に響く言葉なども掲示している。

イ 家庭との連携

学級通信や学年通信を活用して、道徳の時間に学習した内容や生徒の感想、心に
 響くような話を生徒と家庭に伝えている。生徒や担任の思いを家庭と共有すること
 ができ、道徳の時間から家庭生活や学校行事へ、また、学校生活から道徳の時間へ
 と、道徳教育の場を広げていきたいと考える。

(6) 職員研修

別葉を活用した道徳教育の取組について職員研修を行ったところ、よかった点とし
 て「同じ内容項目に対して、他教科がどのような指導をしているか分かる」、「教科
 を横断して道徳教育を行うことができる」、「道徳教育と他教科との関連を教師が意
 識して授業に臨んでいる」などが挙げられた。このことから、すべての教育活動で全
 職員が道徳教育を行っていこうという意識が高まったと考える。また、教科の中で意
 図的に道徳教育を行う方法が分かったので、「私たちの道徳」を教科でも活用しよう
 という意識が高まり、実践にもつながった。改善すべき点として、「別葉をいつも見
 ることができるような工夫が必要」などが挙げられた。この意見から、別葉をより活
 用してもらうために、道徳通信の発行につながるようになった。

5 成果と課題

(1) 成果

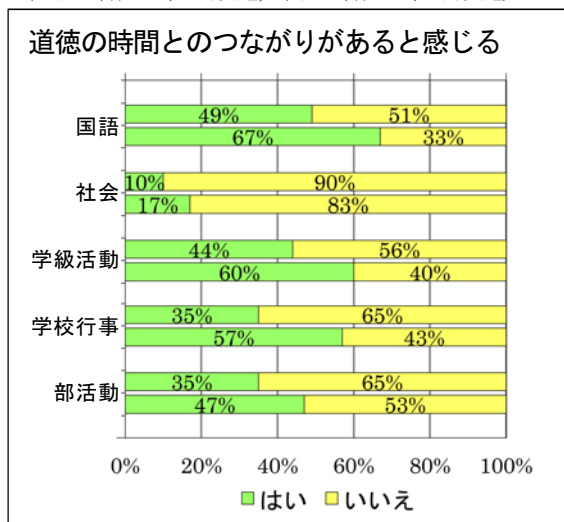
別葉を作成し、活用した実践を通して、
 次のような成果と課題が明らかになった。

ア 生徒の意識調査から、学校教育全体で
 「道徳の時間とのつながりがあると感じ
 るのはどんなときか」という問いに対し
 て、ほとんどの項目で昨年度の結果を上
 回った（資料11）。

イ 生徒が決めた校外学習のスローガンに
 「自主・自律」を入れたり、修学旅行の
 しおりにも生徒が「自律した行動」とい
 った言葉を使ったりと、自分たちでより
 よくしていこうといった意識が高まった
 生徒が増えたと考える。

資料 11 生徒の意識調査の結果

（上段：平成 25 年 7 月実施，下段：平成 26 年 7 月実施）



(2) 課題

ア 道徳教育を教育活動全体で全職員が進めていく意識がそろったので、評価の方法
 や生徒の見取りをそろえていきたい。

イ 新たに意識調査を行い、別の価値についても研究をしていきたい。

重点目標 項目1－(3)

	第1学年	第2学年	第3学年
国語	「少年の日の思い出」で、一度起きたことは償うことができないという結末を読み取り、自分の行為が及ぼす結果について深く考えることの大切さを学ぶ。(11月)	「走れメロス」で、メロスがセリヌティウスとの約束を果たそうとする姿から、自主的に考え、責任ある行動をとろうとする態度を学ぶ。(10月)	「論語」では、古人のものの見方や考え方を理解し、自分の考えをもつ。(10月)
社会	学習課題に主体的に取り組む態度を身に付ける。(通年)	学習課題に主体的に取り組む態度を身に付ける。(通年)	「現代社会の見方や考え方」で、身近な問題を自分の考えに責任をもって話し合い、誠実に実行する。(6月)
数学	毎日の授業の中で、課題に対し積極的に考え、自ら問題を解決しようとする姿勢を身に付ける。(通年)	「平行と合同」で、図形の性質を導いていく中で、自ら進んで様々な解法を見出す。(11月)	授業の中で、生徒自身が問題を作る場面を設定し、主体的に課題に取り組む姿勢を身に付ける。(6月、10月)
理科	「大地の変化」では、火山の形が異なる要因を予想し、実験計画を立てる中で、自分の考えに責任をもち、自主的な態度を育てる。(2月)	「原子をもとに説明しよう」で現象を、第三者に分かりやすく発表する。(6月)	実験・観察の時間の準備や片付けまで責任をもって行う。(通年)
音楽	混声合唱へのステップ 変声について理解し、声部の重なり方の特徴を感じ取る。 (7月～10月)	混声合唱へのステップ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す曲想や魅力を生かして表現する。 (7月～10月)	混声合唱へのステップ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す曲想や魅力を生かして表現を工夫する。(7月～10月)
美術	納得できる作品を作り上げるために主体的に制作に取り組む。 (通年)	納得できる作品を作り上げるために主体的に制作に取り組む。 (通年)	納得できる作品を作り上げるために主体的に制作に取り組む。 (通年)
技術・家庭	家庭生活と消費 消費者としての権利と責任について理解することで、自律の精神を身に付ける。(3学期)	「製作品の設計・製作」で、作品に適した材料や加工法を自分で考え、適切な設計・製作を行う。 (10、11月)	「インターネットの利用とモラル」で、情報モラルについて考え、自律的に考え行動することの大切さを理解する。(9月)
保健体育	保健分野「欲求やストレスへの対処」心の健康を保つため欲求やストレスへの対処を学ぶ。(1月)	自己に適した課題を設定する能力やそれを解決する方法を工夫する力を育てる。(通年)	自己に適した課題を設定する能力やそれを解決する方法を工夫する力を育てる。(通年)
外国語	どんな課題にも粘り強く最後まで取り組む態度を養う。(通年)	新聞記事の内容についてのディベートにおいて、自ら進んで考え、それを表現して他者に伝える。 (10月)	どんな課題にも粘り強く最後まで取り組む態度を培っていく。 (通年)
総合	宿泊学習の準備・計画において、自分たちで目標を設定し、実行する。(4、5月)	古都に学ぶでは、課題を設定し計画することで、目標を達成する。 (4、5月)	「古都に学ぶ」では、目標設定や課題解決を主体的な姿勢で取り組む。(4、5月)
特別活動 (学級活動)	学級の一員として責任ある態度で、係や当番活動に取り組む姿勢を養う。	学級の一員として責任ある態度で、係や当番活動に取り組む姿勢を養う。(通年)	学習面、生活面で自らの行動を振り返りつつ、日々、生活することができる。(通年)
特別活動 (学校行事)	宿泊学習(5月) 体育祭(9月) 秋桜祭(10月)	校外学習(5月) 体育祭(9月) 秋桜祭(10月)	修学旅行(5月) 体育祭(9月) 秋桜祭(10月)

道徳通信



11月号

～ 自主的に考え望ましい行動がとれる生徒の育成 ～

年間計画より

年間指導計画では、11月の道徳は以下の内容になっています。各学級、学年の実態に合わせて道徳の授業を行ってください。授業で活用したワークシート等、データで残せる物は「授業資料保管庫」に入れるようにしてください。

学年	主題名	内容項目	資料名	私たちの道徳
1年生	日本人としての自覚	4-(9)	さよなら、ホストファミリー	P206～P213
	他に学ぶ姿勢	2-(5)	殿さまのちゃわん	P72～P81
	良心のめざめ	3-(3)	銀色のシャープペンシル	P120～P131
	郷土を愛する心	4-(8)	娘のふるさと	P200～P205
2年生	自己を生き輝く集団	4-(4)	明かりの下の燭台	P166～P171
	かけがえのない命	3-(1)	命の重さ	P102～P113
	国際協力を考える	4-(10)	国境線が鍛える共生の思考	P214～P225
	責任ある判断	1-(3)	お前のカワウソが淋しがっているぞ	P22～P31
3年生	家族への敬愛	4-(6)	天使の舞い降りた朝	P180～P193
	日本人としての自覚	4-(9)	日本人という意識	P206～P213
	正しい異性理解	2-(4)	アイツの進路選択	P66～P71
	法の理解と遵守	4-(1)	招集通知ーあなたが裁判員になるときー	P134～P147

別葉より

別葉では、11月に各教科等で行う道徳教育は以下のようになっています。教科の授業の中でも道徳を意識しながら授業を行っていきましょう。進度の関係などで別葉の内容に変更があれば各自で訂正後、**まで報告してください。訂正がない場合も報告をお願いします。

学年	各教科等	道徳との関連	内容項目
1年生	国語	「少年の日の思い出」で、一度起きたことは償うことができないという結末を読み取り、結果に責任をもとうとする態度を身に付ける。	1-(3)
	音楽	「詩と音楽との関わり」で、歌詞と音楽を形づくっている要素との関わりを感じ取って、歌唱表現を工夫する。	2-(2)
	技術・家庭	自分の身のまわりに必要な製品の製作をする事で、設計から完成までの見通しをもち、課題を達成する。	1-(2)
		製作品の設計・製作で、作品に適した材料や加工法を考え、適切な設計・製作を行う。	2-(1)

2年生	社会	「身近な地域の調査」を通して、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高める。	4－(7)
		「身近な地域の調査」を通して、地域社会の発展に努力しようとする態度を養う。	4－(8)
	数学	「平行と合同」で、図形の性質を導いていく中で、自ら進んで様々な解法を見出す。	1－(3)
		「平行と合同」で、図形の性質を導いていく中で、人の考えを大切にしながら学習する。	2－(2)
		「平行と合同」で、図形の性質を導いていく中で、多様な考えがあることに気付く。	2－(5)
		「平行と合同」で、演繹的な推論をして、図形の性質を見出すことを通して、図形がもつ美しさに気付く。	3－(2)
	音楽	「舞台芸術と音楽」で、オペラや歌舞伎について、どのような役割から成り立っているのかを考えるとともに、音楽の特徴や他の芸術との関わりを理解する。	4－(4)
	技術・家庭	製作品の設計・製作で、作品に適した材料や加工法を考え、適切な設計・製作を行う。	1－(3)
		「調理実習」で、協力して実習することで豊かな人間関係を築く。	2－(3)
		「消費生活と環境」で、自然への畏怖とともに環境保全について考え、持続可能な社会について行動できるようにする。	3－(2)
「地域の食材について調べよう」で、地域に対する愛着や郷土意識を高める。		4－(8)	
英語	プレゼンテーションをする時、他の意見を尊重して、相手の発表に真剣に耳を傾ける。	2－(5)	
特別活動	男女の身体発達や精神の発達の相違を知ることにより、思いやりの気持ちをもつ。	2－(4)	
3年生	社会	「国民生活と福祉」で、国民生活の向上のために国や地方公共団体が果たしている役割について理解する。	2－(6)
		「生産と労働」で、社会生活における勤労の権利と義務について理解する。	4－(5)
	数学	「相似と比、円」で、演繹的な推論をして、図形の性質を見出すことを通して、図形がもつ美しさに気付く。	3－(2)
	音楽	「名曲の鑑賞とプレゼンテーション」で、音楽を形づくっている要素の知覚を通して、それらの働きが生み出すよさやおもしろさなどを感じ取る。	3－(2)
	美術	絵馬に自分の願いを描くことにより、目的を達成しようとする。	1－(4)
	技術・家庭	野菜の栽培で、自分の育てる野菜の栽培方法や目標を設定し、栽培課題を達成する。	1－(2)
		情報モラルを身に付け、目的に合った情報の活用や、情報を適切に活用する。	1－(3)
		「幼児と触れ合おう」で、幼児とのふれあいを通じて、他者に対する思いやりについて考える。	2－(2)

1 題材 インターネットの利用とモラル

2 学習のねらいと評価規準

(1) 学習のねらい

- 人権や知的財産権の侵害など、情報発信に伴って発生する可能性のある問題や発信者としての責任を踏まえ、適正に活動しようとする。 (生活や技術への関心・意欲・態度)
- 情報技術の利用場面に応じて、適正に活動することができる。 (生活を工夫し創意する能力)
- 情報を適切な方法で収集・発信することができる。 (生活の技能)
- 情報発信に伴って発生する可能性のある問題や発信者としての責任や心がけが分かる。 (生活や技術についての知識・理解)

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	工夫し創造する能力	生活の技能	知識・理解
人権や知的財産権の侵害など、情報発信に伴って発生する可能性のある問題や発信者としての責任を踏まえ、適正に活動しようとする。 (観察・ワークシート)	情報技術の利用場面に応じて、適正に活動することができる。 (観察・ワークシート)	情報を適切な方法で収集・発信することができる。 (ワークシート)	情報発信に伴って発生する可能性のある問題や発信者としての責任や心がけが分かる。 (観察・ワークシート)

3 題材観

この単元は、学習指導要領に示されている4つの学習内容のうちの「D 情報に関する技術」についての内容である。ここでは、情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、情報に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成することを目的としている。

本単元では、著作権や、情報の発信に伴って発生する可能性のある問題と、発信者としての責任について知ることができるようにするとともに、情報社会において適正に活動する能力と態度の育成を目的としている。また同時に、情報ネットワーク上のルールやマナーの遵守、危険の回避、人権侵害の防止等、情報に関する技術の利用場面に応じて適正に活動する能力と態度の育成を図る。

4 生徒の実態 (男子*人 女子*人 計*人)

インターネットの利用状況に関する実態調査 (平成*年*月*日実施 第3学年*組*人)

Q1.パソコンやスマートフォン・タブレット等インターネットに接続できる端末をもちますか (複数回答) パソコン (*) スマートフォン (*) タブレット等 (*)
Q2.インターネットを利用する際、家庭での決まりはありますか ある (*) ない (*)
Q3.インターネットを利用する際の家庭での決まりはどのようなものがありますか 利用時間 使う場所 (親の前・リビングのみなど)

5 指導観

生徒は今、簡単に家庭のパソコンやスマートフォンなどの端末を用いて、インターネットに接続することができる。しかし、自由にインターネットに接続できる環境が増えている一方で、各家庭での取り決めは少なく、生徒自身のモラルに頼っている面も少なくはない。情報社会で生きていくにあたり、生徒が加害者や被害者にならないためにも、発信者としての立場を自覚し責任をもって情報の発信を行っていく態度の育成が必要だと考える。

6 道徳教育の視点

この単元では、情報モラルのなかでも特に情報を発信する立場になった時にどのようなことに気をつけなければならないのか、どのような問題点が発生する可能性があるのかを考えることを通して、1－(3)「自主・自律」を身に付けることができる考える。

7 学習計画（5時間扱い）

次	時	学 習 活 動 ・ 内 容	評 価 の 観 点			
			関・意・態	創・工	技能	知・理
一	1	○情報モラルについて考える。 ○情報発信に伴う可能性のある問題を考える。	◎			○
二	2 3	○知的財産権について考える。 ○著作権や、インターネット上の著作物について考える。				◎
三	4 ⑤	○安全にインターネットを利用するための技術を考える。 ○情報通信ネットワークで発生する可能性のある問題について考える。	○			◎

8 本時の学習

(1) 目 標 情報通信ネットワークを利用する際に発生する可能性のある問題について考えることができる。

(2) 学習の流れ

学 習 活 動 及 び 内 容	資 料 ・ 準 備	教師の支援及び留意点○、評価●
1 本時の学習課題を確認する。 インターネットの危険性を考えよう。	・ワークシート	○インターネットを利用するにあたって問題点を挙げていくことを伝える。
2 インターネットを活用している中で、今までに便利だった点・問題となった点を挙げる。		○今までにインターネットを活用してきた中での問題点を挙げさせる。 ○問題点ばかりに目がいかないように、活用するメリットなどについても触れるようにする。
3 インターネットを用い、売買をおこなう際の注意点について考える。	・ワークシート	○インターネットを用いて、今まで生徒が行ってきた活動に対する注意点と、利便性に触れられるようにする。
4 インターネット上で情報を得る際の注意点を考える。		○各場面で起こりうる問題点をグループごとに話し合う時間を持ち、意見を共有できるようにする。
5 インターネット上で情報を発信する際の注意点について考える。		●インターネットを利用する際に注意すべき点を考えている。(ワークシート)
6 「私たちの道徳」を読む。	・私たちの道徳	○「ネット社会の歩き方」を参考にしながら、注意点を確認する。 ☆私たちの道徳を読み、インターネットを活用する際のモラルを呼びかけ、意識を高める。
7 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。		○情報社会では、行動を起こす前によく考える必要があること、少しの判断の違いで加害者にもなり得る、という点に触れ、個々のモラルや判断がとても重要なことを伝える。

1 議題 秋桜祭（合唱コンクール）を成功させよう

2 生徒の実態と議題選定の理由

(1) 生徒の実態

本学級は「一真桜輝」という学級訓を掲げている。この学級訓には、一つ一つ、何事にも真剣に取り組み、桜の木のように誰からも愛され、見ている人の心を魅了できるような存在であり、きれいな花を咲かせるために努力をし、そして、一人一人が笑顔で輝ける学級にしたいという思いが込められている。本学級の生徒は、係活動や当番活動に熱心に取り組んだり、自分に与えられた仕事以外にも積極的に取り組んだりする生徒が多い。しかし、誰かが声をかけないと時間を守ったり、規律ある行動ができなかったりする姿が見られる。

(2) 議題選定の理由

秋桜祭（合唱コンクール）の自由曲、実行委員、指揮者、伴奏者、パートリーダーが決定し、音楽の時間に練習が始まった。1学期に行われた学年レクリエーション「あとひとつ杯」では、学級の協力も見られ、優勝することができた。そのため、今回の秋桜祭でも、最優秀賞を目指したいと学級全体に頑張りたいという雰囲気が高まっている。また、各学級での昼・放課後練習が開始期間が近くなり、生徒の中には、「いつ、どこで、どのように練習するのか」を尋ねる生徒も見られる。そのため、秋桜祭の練習をきっかけに学級の団結をさらに高め、そして、自主的に練習に取り組む機会を設けたいと考え、本議題を選定した。

3 評価規準と目指す生徒の姿

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価規準	学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の生徒と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。 〔観察・ワークシート〕	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。 〔観察・ワークシート〕	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や学級集団としての意見をまとめる話合い活動の効率的な進め方について理解している。 〔観察・ワークシート〕
目指す生徒の姿	<ul style="list-style-type: none"> 秋桜祭（合唱コンクール）への取り組みについて意欲的に話合いに参加しようとしている。 秋桜祭（合唱コンクール）に向け、他者の意見を聞き入れながら、よりよい案を考え出している。 話合い活動の決定事項に従って、協力して練習や発表に取り組んでいる。 自他の取り組みについて評価し、学級の団結の意義について理解している。 		

4 道徳教育の視点

本議題は、中学校学習指導要領「2 学級活動の内容 (1) 学級や学校の生活づくり ウ 学校における多様な集団の生活の向上」に該当する。ここで、道徳の内容項目1-(2)「目標に向かう意志」に関連させ、秋桜祭に向けて、学級目標を考え、目標達成を目指し、学級が団結して最後までやり抜く強い意志をもたせたい。また、道徳の内容項目1-(3)「責任ある行動」にも関連させ、練習計画を自主的に考え、話合い活動を通して、学級全体が目標に向けて、誠実に実行できるようにしたい。話合い活動の前に、道徳副読本「私たちの道徳」を活用し、話合い活動の更なる意識付けになるようにする。

5 活動と指導の見通し

	活動内容	いつ	指導・支援	目指す生徒の姿と評価方法
話 合 い の 準 備	・昨年度の秋桜祭のDVD観賞（全員） ・アンケート調査（全員）	9/16 6校時	・昨年度の合唱を観賞して表現の仕方についてイメージをもたせ、自分たちの学級はどうなりたいか考えさせる。	・練習や本番への意欲を高め、よりよい合唱にしようと考えている。 (関心・意欲・態度) 〔観察・ワークシート〕
	役割分担、議題決定、内容の検討(計画委員会)	9/16 放課後	・話合いの内容や順番、役割分担について助言する	
話 合 い	学級会 「秋桜祭（合唱コンクール）を成功させよう」	9/18 本時	・本時の展開参照	

実 行	合唱の練習 (全員)	9/22～ 10/25	・決定事項を教室内に掲示し、自主的に練習に取り組むよう支援する。	・話し合いの決定事項に従って、協力して練習に取り組んでいる。(思考・判断・実践) [観察・評価カード]
	他学年との歌い合い 学年リハーサル(全員)	10/15～ (適宜)	・現段階での合唱ができるようにし、反省を本番に生かせるよう助言する。	
	秋桜祭への参加(全員)	10/25 1～ 5校時	・これまでの練習を振り返り、目的をもって参加できるように助言する。	
振 返 り	秋桜祭を振り返り、今後の生活に生かす。	10/25 6校時	・自分の取り組みを肯定的にとらえるとともに、仲間への感謝の気持ちをもてるような話をする。	・練習の過程と成果を評価し、自主的に自分の役割を果たそうとしている。(知識・理解) [観察・振り返りカード]

6 本時の展開

(1) 本時のねらい

秋桜祭での学級目標、練習の約束事を決定し、練習計画を立てることができる。

(2) 本時の展開 (生徒が作成した活動計画)

議 題	秋桜祭(合唱コンクール)を成功させよう	
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱の練習が開始されるので、学級目標を決めて、みんなの想いを一つにする。 ・練習での約束、練習計画を立て、学級の練習にきちんと取り組めるようにする。 	
役割分担	司会(****, ****) 黒板(****, ****) 記録(****)	
	話し合いの順序	気を付けること
1	はじめの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声ではっきりと話す。 ・話し合う議題について分かりやすく説明する。 ・話し合いの意識付けになるようにする。 ・秋桜祭への意気込みについて話す。 ・個人で考えた後、グループで話し合っって黒板に書いてもらう。その後、全体で話し合っって決める。 ・秋桜祭の目標が達成できるような約束事をグループごとに発表してもらい、みんなで話し合っって決める。 ・全体の練習日を伝え、各パートで集まり、練習内容を決める。 ・決まったことを伝え、秋桜祭に向けてみんなで頑張っていくように話す。
2	学級会実行委員の紹介	
3	議題・提案理由の確認	
4	「私たちの道徳」を読む	
5	話し合い	
①	学級目標を決めよう	
②	学級の約束を決めよう	
③	自分の目標を決めよう	
④	練習計画を立てよう	
6	決まったことの発表	
7	先生のお話	
8	おわりの言葉	

(3) 指導上の留意事項

	話し合いの順序	指導上の留意点	目指す生徒の姿と評価方法
1	はじめの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD鑑賞時の感想やアンケートの紹介、「私たちの道徳」等を活用して、秋桜祭に向けた意識を高められるように支援する。 ・目標は、分かりやすく覚えやすいものになるよう助言する。 ・具体的な内容になるように助言する。 ・練習計画は、全体練習とパート練習、音楽の授業をバランスよく組み合わせるように助言する。 ・自分たちで決めた内容をみんなで守って、目標を達成できるように話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋桜祭への取り組みについて意欲的に話し合いに参加しようとしている。(関心・意欲・態度) [観察・ワークシート] ・秋桜祭に向けて、他者の意見を聞き入れながら、よりよい案を考え出している。(思考・判断・実践) [観察・ワークシート]
2	学級会実行委員の紹介		
3	議題・提案理由の確認		
4	「私たちの道徳」を読む		
5	話し合い		
①	学級目標を決めよう		
②	学級の約束を決めよう		
③	自分の目標を決めよう		
④	練習計画を立てよう		
6	決まったことの発表		
7	先生のお話		
8	おわりの言葉		

7 事後指導

- ・秋桜祭(合唱コンクール)に向けて、計画に沿って練習し、学級で決めた約束事が守れているか、目標達成を意識して練習に取り組んでいるか、学級の様子を振り返る機会を設定する。
- ・他学年との歌い合い、学年リハーサル等の実施を通じて、学級や個人の自己評価する機会を設定し、練習、本番への意欲向上を図るようにする。
- ・秋桜祭後に、学級や自分自身の合唱への取組について振り返り、秋桜祭で得た学級の団結を今後の生活へ生かしていけるように支援する。

1 主題名 誠実と責任 1－(3)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

学習指導要領の内容項目1－(3)では、「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ」とある。

自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。また、自らを律する力が、自らの責任によって生きる自信と、一個の人間としての誇りをもつことにつながるのである。中学生の時期は、自主的に考え、行動することができるようになるが、一方で、自分の行為が周囲に及ぼす結果について深く考えることができない面も見られる。そこで、自分や社会に対して常に誠実であろうとする態度を身に付けさせ、自分の行為の及ぼす結果に責任をもとうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

本資料「ネット将棋」(文部科学省「私たちの道徳 中学校」から)は、ネット上での将棋の対戦を通して、実際に目の前にいない相手に対して誠実に向き合えず、自分が対戦に負けそうになると逃げるようにログアウトをする「僕」の様子を描いた作品になっている。そんな「僕」と対照的に描かれている「明子」と「敏和」の行動を明確に対比させながら、自分の行為に責任をもつことの大切さを考えることにつなげることのできる資料である。

(2) 生徒の実態 (男子*人 女子*人)

本学級の生徒は明るく、素直である。中学校生活最後の体育祭を終え、それぞれが熱心に取り組むことができた。最高学年としての自覚が芽生え始めてきている様子が見られるが、中には自ら行動を起こせず、自分の行動が及ぼす影響を考えずに、無責任な行動をとってしまう生徒もいる。事前に行った実態調査の結果は以下の通りである。

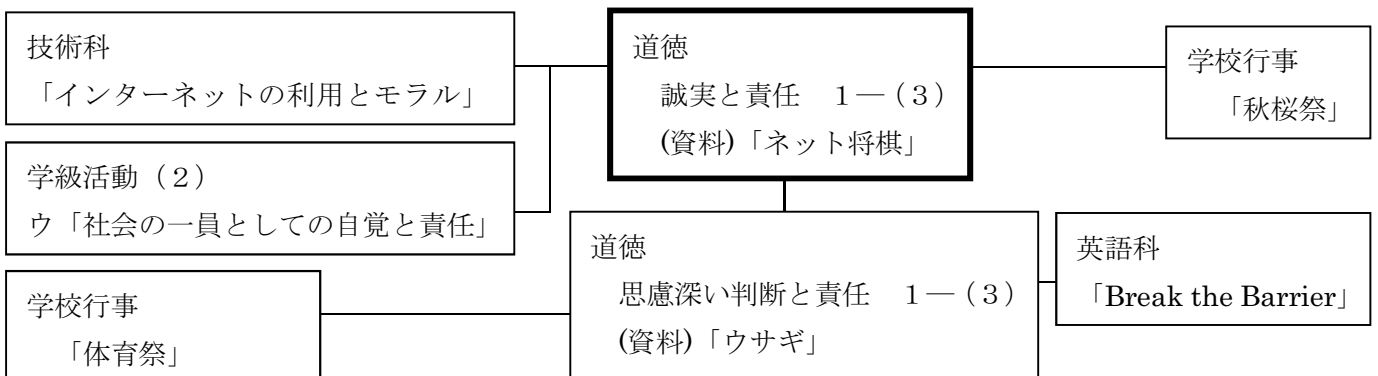
【生徒の意識及び実態調査】

(平成*年*月*日実施 3年*組*人)

Q1	周りに流されて、自分の意志とは違うことをしてしまったことがある。 ・ある (*) ・ない (*)
Q2	Q1であると答えた人に質問です。それはどんなことでしたか。その時の気持ちはどうでしたか。 ・予定にはなかったことをしてしまった。 (*) ・学校の規則を破った。 (*) ・友人に対しての非難や、中傷。 (*) ・楽しかった。 (*) ・やってしまった。 (*) ・恥ずかしい。 (*) ・嫌な気分。 (*) ・別にいいや。 (*) ・嘘をついてしまった気分。 (*) ・相手に申し訳ない。 (*)
Q3	Q1でないと答えた人に質問です。どんな気持ちがあったから、周りに流されなかったのですか。 ・友達や先生、親に迷惑をかけたくないという気持ち。 (*) ・善悪を判断しようとする気持ち。 (*) ・自分の弱さに負けない気持ち。 (*)

アンケートの結果から、善悪を判断し、自分の行動に責任をもとうと考える生徒は半分に満たないことが分かった。ほとんどの生徒が、後先を考えず、その場の雰囲気や、友人に流されて行動に移してしまう現状が見られた。しかし、その行動の裏には、後悔する気持ちがあることが分かる。そこで、本題材を通して、他者に対して誠実であることの大切さに気付き、責任をもって行動しようとする態度を育てていきたい。

(3) 教育活動全体における道徳の時間との関連



3 本時の学習

(1) ねらい

主人公の「僕」が、友人たちの会話を聞くうちに、自分の未熟さに気付く過程に視点を当てて話し合うことを通して、誠実に実行し、その結果に責任を持つようとする道徳的な判断力を養う。

(2) 展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	教師の支援及び留意点○, 評価●
<p>1 アンケートの結果を基に、誠実な行動について自分を振り返る。</p> <p>2</p> <p>3 読み物資料「ネット将棋」を読み、話し合う。 ○一手一手考え込んでいるふりをして、徹底的に時間稼ぎをしている僕はどんなことを考えているのだろうか。</p> <p>○ネット将棋でいきなりログアウトした「僕」はどんなことを考えているのだろうか。</p> <p>◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どんなことを考えているからだろうか。</p> <p>4 「誠実に生きる」とは何かを考える。</p> <p>5 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・別にいいや、嫌な気持ち、嘘をついたような気持ち。 ・負けたくない。 ・なぜ、敏和がこんなに強くなっているのだろう。 ・このまま時間が過ぎてほしい。 ・まじめにやられているか。 ・相手が誰だか分からないし、また自分が誰かも知られていないから、まあいいか。 ・自分に実力がなくて情けない。 ・これ以上やっても無駄だ。 ・こんなので敏和が強くなったなんて本当なのだろうか。 ・負けたときに、いきなりログアウトしていたから。 ・ネットで相手が見えないからと、相手に失礼なことをしていたのだ。 ・負けから学ぶということなのだ。 ・勝ち負けでなく、相手と誠実に対戦する姿勢が大切なのだ。 ・相手が目の前にいるかどうかにかかわらず、いつでも誰にでも相手の立場を考えることが必要なのだ。 ・自分の気持ちに正直に、最後までやり抜くこと。 ・自分に正直に生きること。 	<p>○ネット将棋について話題にし、読み物資料への関心を高めるようにする。</p> <p>○恥ずかしい負け方ができないので時間稼ぎをして逃げようとする主人公の気持ちをとらえる。</p> <p>○一方的に試合をやめてしまう主人公の弱さに、共感できるようにする。</p> <p>○すっきりした気分になれない「僕」の心を押さえる。</p> <p>○「僕の生き方も自分に誠実ではないか」等の問いかけをすることにより、本時の道徳的価値に迫っていけるようにする。</p> <p>○アンケートの結果を想起し、「誠実に生きるとは何か」を考えられるようにする。</p> <p>●自分にも相手にも誠実であることの大切さに気づき、責任ももって行動していこうと考えているか。 (わたしたちの道徳 p 24～25)</p> <p>○本時で学んだことから、実践できるようにする。</p>

1 主題名 誠実に生きる 1-(3)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目1-(3)は「自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任を持つ」である。

人間として生きていく上で、自ら考え、判断し、誠実に実行して結果に責任をもつということは、望ましい自己の形成を図る上で重要なことであり、社会生活の基盤となるものである。しかし、自らを律し行動に移すことは難しく、感情のままに行動してしまったり、責任を他人に転嫁してしまったりすることも少なくない。中学生の時期は、自主的に考え、行動することができるようになるが、その一方で自由の意味をはき違え、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかを深く考えない面も見られる。そこで、善を行おうとする良心の大切さに気付き、責任をもって誠実に行動する実践力を育てたいと考え、本主題を設定した。

本資料「にじんだ文字」(笠間市立稲田中学校自作資料)は、清掃中に誤って掲示物をぬらしてしまった主人公が、悩みながらも最終的には自分から先生に話しに行く姿が描かれている。生徒にとっては身近な話題であり、共感をもって読むことができるため、自分の生活を見直しながら、誠実であるとはどういうことなのかを考えることができる資料である。

(2) 生徒の実態 (男子*人 女子*人)

本学級の生徒は明るく、素直である。3年生になり、中学校生活最後の1年を充実したものにしようと、様々なことに意欲的に取り組んでいる生徒がほとんどである。しかし、自己中心的な考えやその場の感情に流されてしまい、誠実な行動がとれないこともある。事前に行った実態調査の結果は以下のとおりである。【生徒の意識及び実態調査】 (平成*年*月*日実施 3年*組*人)

Q 生活用品店に行き、陶器のコップを見ていました。棚の奥に気に入ったものがあり、それをとろうとしますが、うっかりコップにひびが入ってしまいました。しかし、近くには誰もおらず、お店の人も気付けていません。あなたは、お店の人に言いますか？
 ア、言う(*) イ、たぶん言う(*) ウ、たぶん言わない(*) エ、言わない(*)

アンケートの結果から、進んで謝罪をすることができず、自分の行為に責任をもつことができない面があることが分かる。そこで、本題材を通して、善を行おうとする良心の大切さに気付き、誠実に行動しようとする態度を育てていきたい。

3 指導計画及び教育活動全体における道徳の時間との関連

事前	行事「修学旅行」(第3学年5月) ○修学旅行では、自主・自律をテーマに学年全体として取り組んできた。持ち物や、出発から帰宅までの約束事項など、自分たちで考えることにより、規範意識が高まるように働きかけた。また、自分たちで決めたことを、最後までやり抜くことで、自己の考え、行為に責任をもち、誠実に実行できるような態度を育てるようにした。
本時	道徳「にじんだ文字」 ○導入では、一人一人が「誠実」というものをどのように捉えているのかを自覚できるようにする。その後、資料を通して主人公の人間としての弱さを認めつつも、それを克服し、自分の行動に責任を取ろうとしたことに気付かせる。終末では、主人公と自分を比べたり、今まで臨んできた学校行事などを想起したりして、「誠実」な態度がとれていたかを振り返る。そうすることで、責任をもって誠実に行動する実践力を育てたい。
事後	学級通信(年間を通して発行) 行事「体育祭」(第3学年9月)「合唱コンクール」(第3学年10月) ○学級通信を通して、道徳での意見などを紹介し、他者の意見から自分の考えを深めることができるようにする。また学校行事を通して、周囲の雰囲気流されるのではなく、自ら考え、判断し、自己の行為の結果に責任を持つことができるようにすることで、誠実に実行できるような態度を育てるようにする。

4 本時のねらい

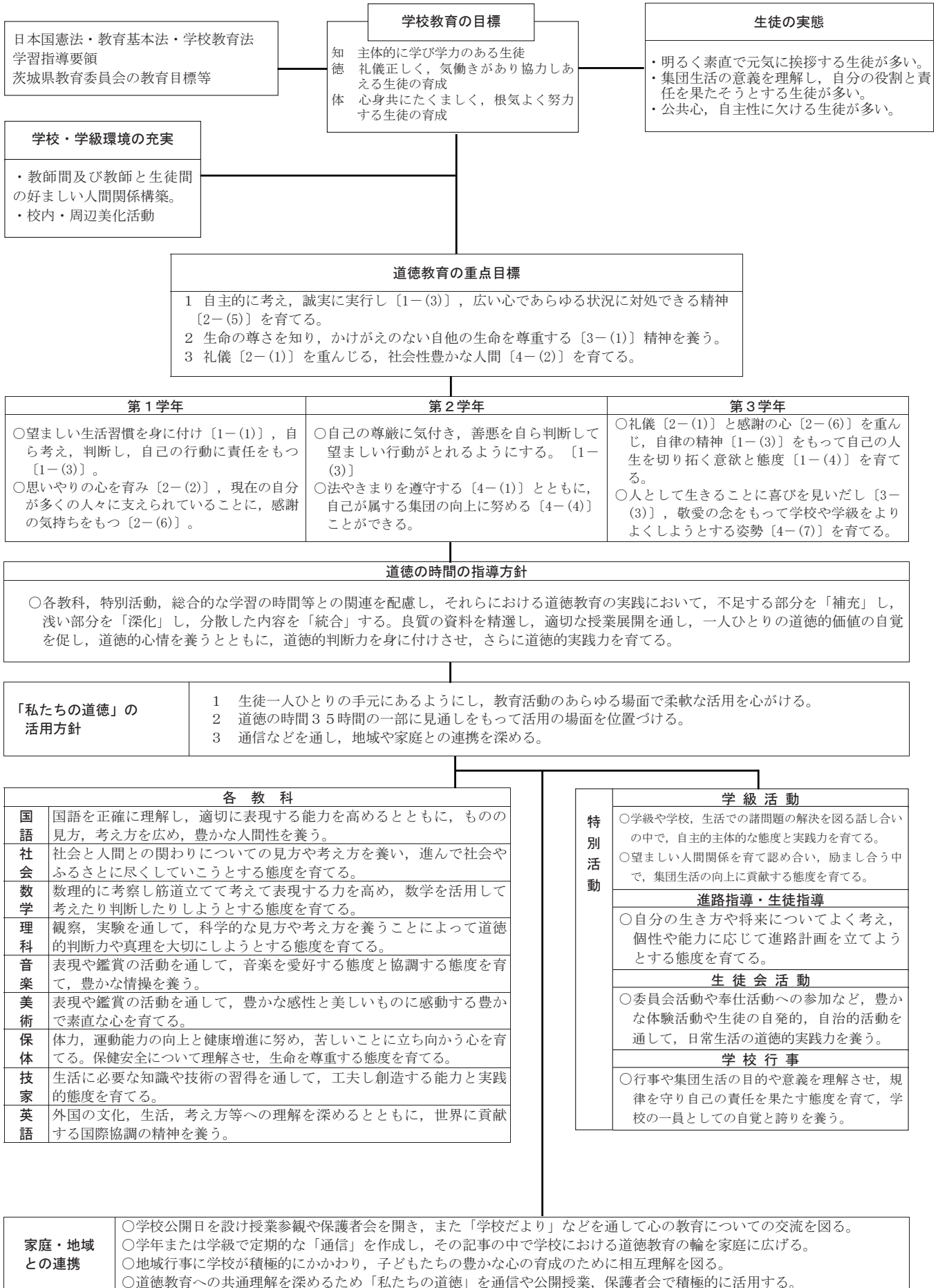
(1) ねらい

善を行おうとする良心の大切さに気付き、誠実に行動しようとする態度を育てる。

(2) 展開

主な活動と発問	予想される生徒の反応	教師の支援及び留意点○, 評価●
<p>1 アンケートの結果を基に、誠実な行動について自分を振り返る。</p> <p>2 読み物資料「にじんだ文字」を読み、話し合う。</p> <p>○「これからどうしよう」の「これから」には、どのような選択肢があるだろう。</p> <p>○「わたしがやりました」という言葉をごくりと飲み込んだ時のひろみは、どのような気持ちだっただろう。</p> <p>○どうしてお母さんに相談したのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 <p>○「どっと涙がこぼれ落ちた」時の、ひろみの気持ちはどのようなものだっただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって不都合なことはわざわざやらない。 ・正直に行動したいけど、勇気がない。 ・自分でやったことは、自分で何とかしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・黙っておこう。 ・誰かのせいにしよう。 ・正直に先生に言おう。 ・言ったら怒られそうで、言えない…。 ・言った方がよかったかな。 ・言わないとダメだけれど、やっぱり言えない。 ・自分一人では、どうしてよいのか分からないから。 ・自分だけで抱え込んでいるのは苦しいから。 ・「正直に言うべきだよ」と誰かに背中を押してもらいたかったから。 <ul style="list-style-type: none"> ・もっと早くに先生に言っておけばよかった。 ・どんな時でも正直でいることは大切だなあ。 ・自分でやったことなので、きちんと自分で伝えることができよかった。 	<p>○ねらいとする価値に触れることで、関心を高める。</p> <p>○アンケートの結果を知り、自分は「誠実」であるかを自覚できるようにする。</p> <p>○教師が範読する。</p> <p>○やってしまったことに対して、その時の自分の判断が、その後の結果を変えていくことを示唆する。</p> <p>○ひろみが、一度は正直に先生に告げようという判断をしていることに気付くようにする。</p> <p>○罪悪感はあるが、言えないひろみの弱さに気付くようにする。</p> <p>○お母さんに対して言わないという選択肢もあったことを告げ、それでもなお、お母さんに言ったひろみの思いに迫るように促す。</p> <p>○ワークシートに自分の考えを書くようにし、意図的指名ができるようにする。</p> <p>○今までの流れを押さえ、単に怒られなくてよかったという短絡的な考えにならないように注意を促す。</p> <p>○自分の弱い心を克服したことで正直に言うことができ、心も軽くなったひろみの気持ちを考えるようにする。</p>
<p>3 授業を振り返り、感じたことを話し合う。</p> <p>○ひろみの心の移り変わりを見て、どんな感想をもちましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・うそをつく、結局自分が苦しくなるので、どうするべきかの判断をきちんとつけることが大切だと思った。 ・自分がやったことに対して責任をもつことは大切だと感じた。 	<p>○アンケートの結果を想起し、自分とひろみを比べることで、これから自分が誠実さとどのように向かい合うかを考えられるようにする。</p> <p>●善を行おうとする良心の大切さに気付き、誠実に行動していこうと考えているか。(ワークシート)</p> <p>○学んだことを実践できるように意識できるようにする。</p>

道徳教育全体計画



道徳教育全体計画(別業) 道徳の時間と各教科等の指導内容と時期との関連 (第1学年)

項目	道徳	国語	社会	算数	理科	英語	外国語	総合	特別活動(学校行事)	特別活動(家庭行事)
1-1(1)	思い思いの生活態度を身に付け、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
1-1(2)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
1-1(3)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
1-1(4)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
1-1(5)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
2-1(1)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
2-1(2)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
2-1(3)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
2-1(4)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
2-1(5)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
2-1(6)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
3-1(1)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
3-1(2)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
3-1(3)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(1)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(2)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(3)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(4)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(5)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(6)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(7)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(8)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(9)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									
4-1(10)	1-1(1)の目標を達成し、心身の健康を維持し、心身の発達に努め、心身に適切な生活態度を身に付ける。									

【実践事例】 自己の人生を切り拓く生徒を育てる^{ひら}道德教育の取組

県立勝田高等学校

URL : <http://www.katsuta-h.ed.jp/>

1 学校の概要

本校は、ひたちなか市のほぼ中央に位置している。昭和48年に全日制普通科高校として創立し、卒業生は約1万人である。平成26年度は各学年5学級で、在籍生徒数597人のうち市内中学校出身者は約70%を占めている。部同好会の加入率は約65%を占め、活動も盛んである。学習に対して意欲的な生徒も多く、約95%の生徒が四年制大学、短期大学、専門学校へ進学している。

2 生徒の実態

与えられた課題には真面目に取り組むことができるが、将来の自分の姿を具体的に想像しどのように自分の未来を築くかということに対して、自ら積極的に考えることができる生徒は多くない。3年生になっても希望進路が固まらず不安を感じたり、具体的な進路が決められない生徒もいる。生徒の意識調査では、「1-(4)真理愛、理想の実現」の値が、他の内容項目に比べてやや低い結果となっている。これらのことから、生徒が自分の将来について深く考え、自分の将来を見通す態度を育成する必要性があると考えた。

3 取組の概要

「心身ともに健やかで、気力に満ちた有為な人材を育成する」ことが本校の教育目標であり、「適切な勤労観、職業観の育成を図り、主体的な進路選択能力の向上に努める」ことが進路指導の重点目標の一つである。本校では、ホームルーム活動と総合的な学習の時間を通して、進路学習に取り組んでいる。1年生では、卒業後の進路を考えた適切な文理選択を行うために、「自分自身を知る」、「将来の仕事について考える」学習を行っている。2年生では、適切な進路決定のために、「自分自身の現状を知り、将来を見つめる」、「大学・学部・学科に関する理解を深める」学習を行っている。

この進路学習と道德教育を関連付けて、「気力に満ちた有為な人材を育成」し、「主体的な進路選択能力を向上」させる取組を行いたいと考え、「1-(4)真理愛、理想の実現」を重点的に行う内容項目とした。

具体的な取組として、「道德」と特別活動（ホームルーム活動（以下「LHR」という。）、学校行事等）、各教科・科目とを計画的に関連付ける総合単元的な道德教育の取組を行った。

4 実践内容

(1) 総合単元的な道德教育

ア 1年生：「道德」を要として

(ア) 題材：進路について考える

1年生の9月から12月にかけては、2年生からの文系理系コース選択を決定する時期である。しかし、文理選択について多くの生徒が迷いを感じていた（資料1）。本校では、進路選択について考える機会として大学見学会および企業訪問の学校行事を行っている

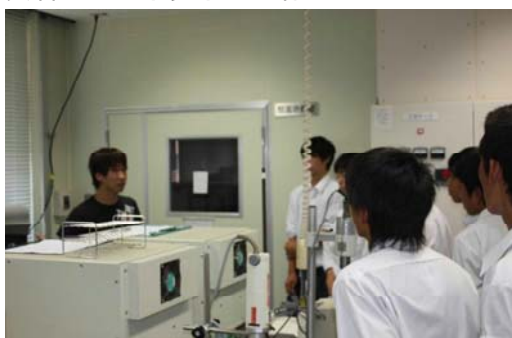
（資料2）。文理選択に迷う生徒が多いことを踏まえ、自分の将来について深く考え、悔いのない文理選択をするための取組として、9月から「題材：進路について考える」を実施することとした（資料3）。「道徳」を大学見学会の事後に位置付け、計画の要とした。生徒が主体的に取り組めるようにするために、生徒の意識の流れを中心に計画を組んだ。実施に当たっては、週1回開催の学年会において、指導について教師間の共通理解を図るように努めた。結果、生徒たちは自分の将来をしっかりと考え文理選択に取り組んだことが、生徒との面談の様子などから見て取れる。

資料1 文理選択決定状況

（平成25年9月実施 1年生200人）

文系に決定	25.3%
理系に決定	19.2%
文系に一応決めているが迷っている	20.2%
理系に一応決めているが迷っている	18.2%
考えているが決定できていない	15.2%

資料2 大学見学会の様子



資料3 題材：進路について考える

時期	教科等	単元・主題・題材名	生徒の意識	ねらい
9月	学校行事	大学見学会・企業訪問 ・茨城大, 県立医療大等 ・日立製作所, JICA筑波等	気付く	希望ごとにコースに分かれての見学会（大学及び企業）に参加し、上級学校や職場への理解を深め、自らの進路を考える。講話を聞くことや施設・設備の見学を通して、実際の雰囲気に触れ、進路先研究の大切さを認識する。
9月	LHR	大学見学会報告会	気付く	他のコースに参加したの生徒の発表（報告）を聞き、他コースの情報や他の生徒の感じ方を知ることにより、進路意識を高める。
10月	「道徳」	1-(4) 理想の実現 ・“I Have A Dream” ・偉くなつてはいけない	深める	将来の夢や将来どのような仕事に就きたいかということについて考える。理想の実現に向けて努力する態度を育てる。
10月	課外活動	個人面談 ・将来の進路選択	広げる	2年次からの文系理系コース選択について、面談を行う。将来の進路についての考えを広げる。

(イ) 題材：働くことについて考える

本校では、1年間進路について学んできたことのまとめとして、2月に学校行事「キャリア教育講演会」を実施している（資料4）。そこで、1月からは、将来の職業を考えることを通して、自分の進路について深く考えることを目標に「題材：働くことについて考える」に取り組んだ（資料5）。今回も、「道徳」を学校行事の事後に位置付け計画の要とし、生徒の意識の流れを中心に計画を組んだ。実施に当たっては、学年会において、指導の共通理解を図るように努めた。

資料4 キャリア教育講演会の様子



その結果、現2年生の1年生7月と3月を比較した生徒の意識調査の結果では、生徒

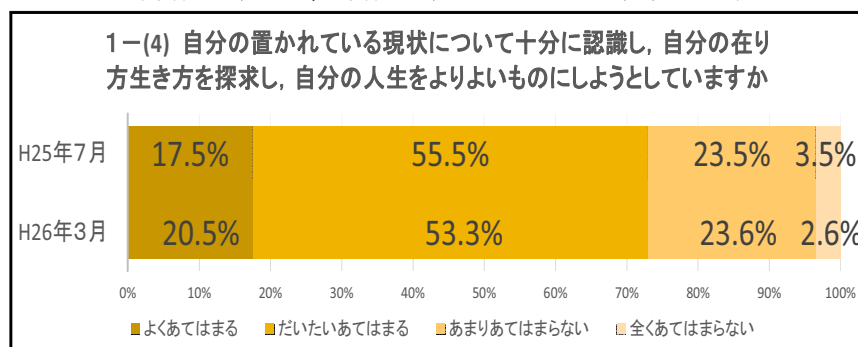
たちの将来に対する意識が高くなったことが読み取ることができる（資料6）。また、生徒の感想からも、悩みながらも自分の進路について、前向きに考えている様子が見える（資料7）。

資料5 題材：働くことについて考える

時期	教科等	単元・主題・題材名	生徒の意識	ねらい
1月	倫理	現代に生きる人間の倫理 ・「宗教観の転換」	気付く	職業は神から与えられるもので等しく尊いものという考え方（職業召命観）、近代の職業観の変化について学び、職業について考える。
2月	学校行事	キャリア教育講演会 ・勤労観、職業観	気付く	講話を通して、自分の仕事を決めたり、仕事をする上で大切になる心構えを知る。高校生として、今努力すべきことは何かについて考え、まとめる。
3月	「道徳」	1-(4) 理想の実現 ・本当の自分を見つける方法	深める	現在の自己の在り方について内省し、自分の人生は自分が選択し、築くものなのだという事について考えを深める。
3月	課外活動	個人面談 ・将来の進路選択	広げる	2年生に向けて、面談を行う。将来の進路についての考えを広げる。

資料6 生徒の意識調査

（平成25年7月，平成26年3月実施 1学年200人）



資料7 生徒の感想

（1年を振り返る）

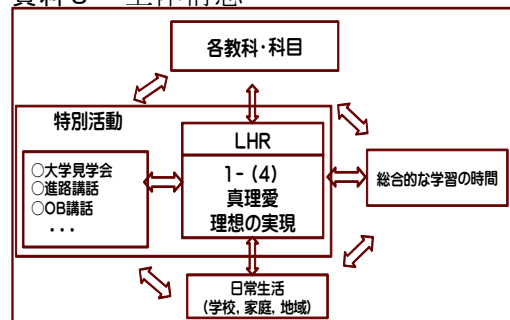
- ・将来の目標に向かうには、この時点で僕には足りないことばかりだ。春休みから生活を変えていこうと思う
- ・ずっとやりたいことがぼんやりしている。将来どんな仕事につくかまだまだいろいろ考えていきたい。
- ・看護師になりたいので、看護学部に進みたい。これからは、なりたいたいではないかなるためにはどうするかを考えたい。

イ 2年生：LHRを要として

「道徳」は1年生のみの設置のため、2年生ではLHRを要として、1年生と同様に他の教育活動との関連性を持たせる取組を行った（資料8）。

2年生前期は、進路学習として、学部学科を調べ、大学を知る活動を実施している。学校行事としては、大学見学会を実施している。そこで、学ぶことについて深く考えるために「題材：学ぶことについて考える」に取り組んだ（資料9）。

資料8 全体構想



LHRの実践については、話し合い活動を通して、生徒に深く考えさせることをねらいとした。

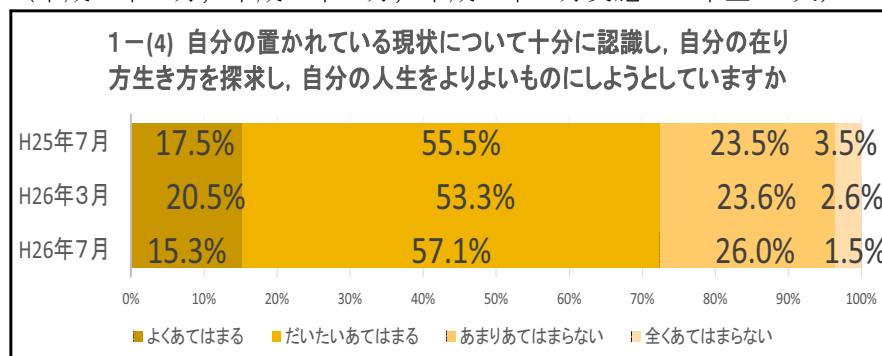
現2年生の1年生7月と3月、2年生7月を比較した生徒の意識調査の結果では、「1-(4)真理愛、理想の実現」の値が、若干落ちた（資料10）。これは、それぞれの進路希望や学力等を客観的に見る態度がついてきたことで、数値が低く出ているのではないだろうか。生徒の感想から、生徒たちの進路意識が高くなっていると見て取ることができる（資料11）。

資料9 題材：学ぶことについて考える

時期	教科等	単元・主題・題材名	生徒の意識	ねらい
6月	学校行事	大学見学会	気付く	希望コースに分かれての見学会に参加し、上級学校への理解を深め、自らの進路を考える。講話を聞くことや施設・設備の見学を通して、実際の雰囲気に触れ、進路先研究の大切さを認識する。
6月	学校行事	教育実習生講話	気付く	教育実習生の講話（大学での勉強や生活、どのように進路選択をしてきたかなどの講話）を通して、気付いたことや感じたことをまとめ、高校卒業後の学びについて考える。
7月	LHR	1-(4) 理想の実現 ・人間としての在り方生き方を考える	深める	自分は何で学ぶのか。人はなぜ学ぶのかということについて考え、人間としての在り方生き方について考える。
9月	課外活動	個人面談 ・将来の進路選択	広げる	面談を行う。将来の進路についての考えを広げる。

資料10 生徒の意識調査

(平成25年7月, 平成26年3月, 平成26年7月実施 2年生200人)



資料11 生徒の感想

(2年生前期を振り返る)

- ・僕は将来、宇宙の不思議を解明したいと思っています。宇宙について学ぶために志望大学に合格したいと思います。
- ・医療系の大学に進学したいと考えています。地元の大学は倍率が高く、決して入りやすい大学ではありません。勉強に対して不安も多いのですが、残りの高校生活を悔いの無いように大切にしていきたいです。

(2) 補充, 深化, 統合を意図した「道徳」, LHRにおける実践

ア 「道徳」での実践 (1年生): 「本当の自分を見つける」

学校行事等で学習したことを深化させる時間として、本授業を実践した。毎日の生活を振り返ることを手掛かりに、日々の生活や、現在のものの見方・考え方等、自分の生きる姿勢の延長線上に自分の未来が存在するという、自分の未来は自分が作っていくものであるという実感を持たせることをねらいとした。一人一人の生徒が、静かに現在の自己の在り方について内省できるように雰囲気作りに配慮した。「アイデンティティは必要か否か」という抽象的な問いについて考えるなど、難しい題材であったが、生徒は真剣に取り組み、考えを深めることができた(資料12)。

資料12 生徒の感想

- ・時間が限られている。将来に向けてがんばりたい。
- ・先を見据えて勉強に前向きに取り組まなければならない。
- ・将来の目標をきちんと持ち、勉強の意欲を持てるようになった。

イ LHRでの実践 (2年生): 「人間としての在り方生き方を考える」

学校行事等で学習したことを深化させる時間として、本授業を実践した。生涯を通して学ぶ幡谷祐一氏の姿勢から、人間としての在り方生き方を考え、主体的に生きる意欲と態度の育成を図ることをねらいとした。グループ活動を通して、「何のために学ぶのか」ということについて考えを深めた(資料13)。「学ぶことは自分にとって大切なことだ。」「知りたいことはたくさんある。」等の意見が出るなど、生徒はしっかりと授業に取り組むことができた(資料14)。

資料13 授業の様子



資料14 生徒の感想

- ・学ぶことに終わりは無い。知りたいことはたくさんある。
- ・一生学び続ける。必要がある。
- ・学ぶことは人生を豊かにするもの。
- ・学ぶことは自分にとって大切。
- ・自分を成長させてくれるだけでなく、社会をよりよくする。
- ・興味あることを、ずっと学び続けたい。

(3) 各教科等における実践

ア 学校行事における実践：介護老人保健施設でのボランティア活動

本校の近隣にある介護老人保健施設において、希望者（約20人）のみであるが、土日及び長期休業中（約10日）に、ボランティア活動への参加を実践している。活動内容は、利用者の方の話し相手や書道やカラオケなどのレクリエーションの手伝い、食事の配膳や片付けなどである（資料15）。「とてもやりがいのある仕事だと感じた」、「人の役に立つ仕事をしたい」等の生徒たちの感想から、この活動が、将来の進路や働くことについて、生徒の考えを深める良い機会となっていると言える（資料16）。

資料15 活動の様子



資料16 生徒の感想

- ・細やかな気配りが必要で、体力的にも大変な仕事だと感じました。とてもやりがいのある仕事だと感じました。人の役に立てるようにこれからしっかりした人になりたいです。
- ・最初は緊張して、利用者の方とあまり会話をすることができませんでした。だんだんとスムーズに話ができるようになり、終了時には「ありがとう」「また来てね」と声をかけてくださり、とてもうれしかったです。自分の将来について考える貴重な体験でした。誰かの役に立つ仕事に就きたいと思いました。

イ LHRにおける実践：クラス写真集「行けばわかるさ」の作成

高校生活1年目の区切りとして、クラス写真集を作成した（資料17）。各々が将来に向けて、クラスメイトに贈りたい言葉をそれぞれの写真とともに綴った写真集である。よりよい在り方生き方を求め、未来に向けて前向きに生きようとする態度が見て取れる。生徒は、他の生徒の言葉を興味深く感じていた（資料18）。

資料17 クラス写真集「行けばわかるさ」



資料18 生徒の感想

- ・皆高校生らしくて良かった。エネルギーと若さをもたらえた気がする
- ・私にはない視点がたくさんあり興味深かった。
- ・この言葉があったから、今この人があるのかなと思いつつ読んでいた。重みのある本だと思う。
- ・読んで元気づけられた。また明日からがんばろうと思えた。
- ・この写真集からパワーをもらいました。

5 成果と課題

(1) 成果

学校行事等の教育活動と「道徳」・ホームルーム活動を計画的に関連付ける総合単元的な道徳教育の取組を実践することができた。

ワークシートを作成しファイリングさせ、生徒が自分の歩みを振り返るポートフォリオとした。生徒の道徳的実践意欲と態度の変容が見て取れる。担任は、これらを面談の資料とした。自分自身の進路について考えが深まっていく生徒の様子が読み取ることができる（資料19）。

資料19 生徒の感想（抜粋）

生徒A
 ◆キャリア教育講演会（1年生2月）
 自分のなりたい職業を見つけたいです。
 ◆OB進路体験講話（1年生3月）
 どの先輩もはきはきと自分の体験談や将来の夢について話をしている姿をみてすごいなと思いました。自分も2年後先輩たちのように自分の進路に自信を持って進めるように早くから目標を見つけて、その目標に向かってがんばって行こうと思います。
 ◆大学見学会（2年生6月）
 医療福祉の現場に必要な物作りを学ぶ最先端の研究が、やりがいがあっておもしろそうだなと思いました。
 ◆教育実習生講話（2年生6月）
 自分で考えて行動できる力をつけていきたい。広い視野を持っていろんなことに興味を持って取り組みたいです。

生徒B
 ◆キャリア教育講演会（1年生2月）
 いろいろな可能性を信じるをいう言葉が心に残りました。人間には無限の可能性がある。数年後に果たしたい目標を立て、その目標実現のために日々努力することが大切であるということを学びました。
 ◆OB進路体験講話（1年生3月）
 今日の先輩方は、いきいきとして、キラキラしていました。私も2年後先輩方のように輝ける人になりたいと思います。
 ◆大学見学会（2年生6月）
 様々な言語が学べる所にとっても興味を持ちました。
 ◆教育実習生講話（2年生6月）
 進学にしている人は、自分を律して勉強に励んでいることが分かった。経済学っておもしろそうだなって思いました。

また、教師に実施した実態調査アンケートからも分かるように、今回の実践を通して、「道徳」の補充、深化、統合の役割についての教師の理解が深まったこと、「道徳」における指導が充実したと感じられるようになったことが成果としてあげられる（資料20）。

(2) 課題

実態調査アンケートから、各教科における道徳教育の指導を充実したと感じる項目の値が、他の項目に比べて低くなっている（資料20）。今回の研究において十分にに取り組むことができなかった各教科・科目における道徳教育の指導を、充実させることが課題である。

3年間を通した計画的な教育活動を学校全体で推進する必要性については、様々な教育活動の場面において感じることである。高等学校の道徳教育については、「道徳」が設置されているのは1年生にのみであり、2年生以降は、LHRを要とした取組となる。今回は、現2年生の1年生から2年生の2年間の取組を報告した。この取組を3年間を通した実践とするために、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育をより一層充実させるために、豊かな心育成コーディネーターを中心とする校内道徳教育推進委員会の体制づくりが重要であると感じている。

資料20 実態調査アンケート

（平成26年10月実施 1, 2学年教師20人）

補充, 深化, 統合について	平均
(1) 道徳の時間は、各教育活動において行われる道徳教育を、全体にわたって調和的に補充、深化、統合する時間であることが理解できた。	3.1
(2) 道徳の授業における、補充、深化、統合のそれぞれ役割を理解できた。	3.0
(3) 道徳の授業において、補充、深化、統合する工夫を取り入れた。	3.1
(4) 道徳の授業を構想する際、補充、深化、統合を意図するようになった。	3.0
各教科等の指導について	
(1) 道徳の時間の指導が充実したと感じる。	3.2
(2) 各教科(及び外国語活動)における道徳教育の指導が充実したと感じる。	2.6
(3) 総合的な学習の時間における道徳教育の指導が充実したと感じる。	3.4
(4) 特別活動における道徳教育の指導が充実したと感じる。	3.1
よくあてはまる	4点
だいたいあてはまる	3点
あまりあてはまらない	2点
全くあてはまらない	1点

		指導者	
主題名	将来の自分について考える	内容項目	1-(4)
ねらい	毎日の生活を振り返ることを手掛かりに、自分の生きる姿勢の延長線上に自分の未来が存在するのではないか、自分の未来は自分が作っていくものなのではないかという気付きを得る機会を設け、理想を実現するための的確な判断力を育む。		
資料名	「本当の自分を見つける方法」(高校生の「道徳」とともに歩むー今を、そして未来へー)		
主題設定の理由	与えられた課題には、比較的真面目に取り組むことが出来る生徒が多い。しかし、将来の自分の姿を具体的に想像したり、未来をどう築くのかといった問題を考える生徒は殆どいない。一人一人の生徒が、静かに現在の自己の在り方について内省し、進路選択の枠を超えて、自分の人生は自分が選択し、築くものなのだという意識を持つ一助として本主題を設定した。		
展 開			
	学習活動(発問と予想される生徒の心の動き)	指導上の留意点	
導 入	<p>○資料を読む前に、自分なりに「本当の自分とは何だろうか。」という問いに向き合い、答える。</p> <p>本当の自分とは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく分からない。 考えたことがない。 自分が本当にしたいことをしている状態。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間一般についての問い掛けであることを確認し、自己が存在することの意味について考えることの意義を意識させる。 内省する場の入り口に立ったという雰囲気をつくる。 	
展 開	<p>○資料を読む。</p> <p>○ワークシートに従って、「アイデンティティ」について考える。</p> <p>「アイデンティティ(自分はこういう人間であるという自覚)」は、人間にとってまた自分にとって必要だと考えるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要である。→自分が何者なのか分からなくなってしまうから。 必要ではない。→自分がどういう人間なのか簡単に分かるものではない。自覚しなくても生きてはいける。 <p>○「人間とは、彼がいつもしているところのものである。」という内容を、自分の問題として考える。</p> <p>○ワークシートに従って、中学1年生及び現在の自分の生活や考えについて振り返る。</p> <p>中学1年生だった頃の自分を振り返り、その頃高校生活に対して抱いていたイメージや希望・期待を思い出してみよう。</p> <p>現在の自分の生活を振り返ってみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> もっと楽しく暮らしていると思っていた。 想像していた以上にやるべきことが多い。 まあ想像の範囲内の生活だ。 <p>中学時代に持っていた希望・展望と、現在の自分を比較してみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料の内容を生徒が自分の問題として考えるためにも、授業者がゆっくりと朗読する。生徒には、その後各自のペースで読み返すよう指示する。 一人一人の生徒が、抽象的な問いを自分の問題として考える道筋を得られるよう配慮しながら問い掛ける。 「人間とは、彼がいつもしているところのものである。」という記述を実感できるよう、自分の生活や経験、思い通りの自分でない部分等をじっくり振り返るよう促す。 本時は、一人一人が自分の在り方・生き方について振り返る時間であることを、静かに自分と向き合う時間であることを確認する。 中学時代の自分の生活や考え方を振り返る中で、当時の生活とまだ見ぬ高校生活に対して抱くイメージとの関係を意識させる。 中学時代抱いていた、高校生活に対するイメージや理想等を思い出す中で、現在の自分の在り方を振り返るよう促す。 	
終 末	<p>○ワークシートに従って、現在の自分と高校卒業後の希望とを比較する。</p> <p>高校卒業後の自分に対する希望を言葉にしてみよう。</p> <p>現在の生活と、将来の希望を比較してみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の生徒が、自分の将来について具体的に考えられるよう手助けをする。 現在の生活が未来の自分に繋がることを少しでも実感できるよう、現実・日常としての未来に意識を向けさせる。 	
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が、未来の自分について考える時間を持てたか。また、未来の自分は現在の自分と繋がっていることに思いを馳せるきっかけが得られたか。 		
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートから、記述内容を確認する。 		

「本当の自分を見つける方法」(『ともに歩む』P93・P94)

- 「本当の自分とは何だろうか。」(P93L4)という問いに答えてみよう。
(本文を読む前に)

- 「アイデンティティ(自分はこういう人間であるという自覚)」(P93L28)は、
①人間にとって必要だと考えるか? < 必要である・必要ではない >

理由

- ②自分にとって必要か? < 必要である・必要ではない >
必要だと考える場合→特にどんな時に必要だと感じるか?

○「人間とは、彼がいつもしているところのものである。」(P94L12) について、		
	1 中学1年生	2 高校1年生
行動	①しなくてはならなかったのでしていた事柄 ②しようと心掛けていた事柄 ③何となくよくしていた事柄	B ①しなくてはならないのでしている事柄 ②しようと心掛けている事柄 ③何となくよくしている・やりたいと思っ てしている事柄
認識	①自分はどうかをしていたか？ ②自分はどうかをしたかったのか？	C ①自分はどうかをしているのか？ ②自分はどうかをしたいのか？
希望・ 展望	A ・自分はどうか高校生活を送ると考えて いたか？どうか高校生になりたいと考 えていたか？	D 高校卒業後 ①20歳の自分は何をしていたいか？ ②30歳の自分は何をしていたいか？

○AとB・Cを比較して考えること

○B・CとDを比較して考えること

【実践事例】 自尊感情を育む道德教育の取組

県立那珂高等学校

URL : <http://www.naka-h.ed.jp/>

1 学校の概要

本校は、水戸市の以北約8kmに位置し、近くの小学校、水戸農業高等学校、短大と共に文教地域を形成している。各学年4クラスの中規模校で、地元的那珂市をはじめ県北部の水郡線沿線地域の中堅学校としての期待が大きい。卒業後の進路は8割強の生徒が専門学校を含めた進学を希望しており、また就職では公務員志望者が多い傾向にある。

2 生徒の実態

生徒の意識調査の結果によると、「1-(1)基本的生活習慣、節度・節制」、「2-(2)思いやり」の項目で高い値を示しているのに対し、「1-(2)強い意志と態度」、「1-(5)個性の伸長」で低い値を示している。この結果は、本校生徒の意識を如実に反映したもので、普段の生活にもよく表れている。まず、礼儀正しく、生徒間はもとより、大人に対してもほぼ全ての生徒が自然と爽やかな挨拶をすることができる。そして、心優しく周囲を思いやることができ、自分の考えよりも他人の考えを大切にしようとする。その一方で、自分の考えを強く主張することに抵抗がある生徒が多く、中には、自分の思いを伝えず、我慢して精神的に追い込まれてしまう生徒もいる。また、日々の生活を送っているときには問題がないが、現状に甘んじる傾向が非常に強く、自己の向上を願ってその個性を生かし伸ばしていこうとする気持ちはあまり強く感じられない。

3 取組の概要

本校は教育目標「勤労の精神を養い、自主的、自発的な学習態度を育てる」、「感受性を養い、豊かな情操、思いやりの心を育てる」のもと、「2-(2)思いやり」及び「3-(1)生命の尊重」、「4-(5)勤労・奉仕の精神」を伸ばす道德教育に取り組んできた。生徒が心優しく、全体的に非常に落ち着いているのは、その成果であると考えている。一方で日頃の様子から、意識調査の結果で低い値を示した2項目については、未熟な思いやりの気持ちから生まれた偏った仲間意識に起因すると推測されることから、前出の内容項目3点に加え、人間関係を大切にだけでなく、ともに励まし合って協力関係を作り上げていく「4-(4)役割と責任・協力」の育成が本校生には必要であると考えた。これからの社会で自らの未来を切り拓いていく力を養うためには、自分の良さを肯定的に捉えるとともに、自己を価値ある存在とする自尊感情が欠かせないものとする。そこで、本研究では、以上4項目の育成を通して、自尊感情を育むことにした。

これまで行ってきた「道德」の授業では、各教科等で行われた道德教育のつながりをあまり意識せず、読み物資料をもとに一斉授業の形態で自己の内面と向き合い道德的価値に迫ってきた。しかし、小中学校時代に道德の授業を経験してきた生徒たちにとって、それは「前にもやったこと」という意識が強く、心を揺さぶるまでには至らなかったと考える。そこで、「道德」の授業を各教科等における道德教育と関連させたりグループ活

動での話し合いを生徒主体で行ったりしてより心を揺さぶるようにした。

4 実践内容

(1) 各教科等における実践

ア 特別活動（学校行事）～老人福祉施設「えくぼ」におけるボランティア体験～
（1学年162人，クラスごとに4回にわたって実施。5月26日～6月9日）

昨年の施設開設以降，本校の1年生が行っている体験活動である。ふだん触れ合う機会が少ない年代の方々と触れ合い，時間を共有することで，コミュニケーションのすばらしさに気づくとともに，相手のことを考えて行動することで，人は助けあって生きていることを感じることをねらいとしている。

これは「2-(2)思いやり」，「4-(4)役割と責任・協力」と関連する。頭で価値理解はできている年齢であるため，自分の中から湧き上がる思いに向き合うことでより深まると考えた。事前にLHR等を利用して，クラスごとに利用者の方々の活動内容（劇，合唱，ゲーム）を考え，当日一緒に活動したり，出し物を披露したりした。活動は大変好評で，介護士の方々の助言をいただきながら，利用者の方々と手を取り合ってゲームをするなど，とても和やかに過ごすことができた（資料1）。

資料1 えくぼでの交流



実施前には行く意味があるのかと口にする生徒もいたが，実施後の振り返りシートには「2-(2)思いやり」の観点から「おばあちゃん可愛い」，「守ってあげたい」，「笑ってくれて嬉しい」という記述が，また，「4-(4)役割と責任・協力」の観点から「なかなか伝わらない」，「どう動けばいいかわからない」という戸惑いの記述が得られるなど，気持ちが変化したり，考えを深めたりすることができたと考えられる記述があった。

この体験活動での世代の異なる方々との触れ合いから，他の人に対する深い理解と共感する気持ちを育てるとともに，クラスごとの活動を企画・運営することで一人一人が自己の役割と責任を理解し，協力し合って進めていくことの大切さを実感することができたのではないかと考える。

イ 特別活動（学校行事）～震災ボランティア講話＝本校JRC部の活動の映像と共に～（6月16日実施）

本校JRC部は，隣接する茨城女子短期大学の専任講師である埴雅文先生と以前から交流があり，埴先生が主催する東日本大震災のボランティアに他校の生徒と共に数回参加している。先日，その映像がネットテレビで放送されたことを受け，その映像を基に埴先生からボランティアや人のつながりについてお話をいただいた（資料2）。

資料2 映像を観ながら



この行事は、人々が共に助け合って生きることの喜びを感じ、社会奉仕の精神を養うことをねらいとしており、「4-(5) 勤労・奉仕の精神」と関連する。自分の知っている先輩たちの活動や表情を映像で見ることで、より効果的な間接的体験ができると考えた。

映像の中で、自分の知っている先輩のいつもと違う表情を見たことで、生徒たちの心の中には驚きや様々な気持ちが湧いてきたようである。人のために尽くすとは、何をするかは重要ではなく、相手に寄り添い時間を共有することだけでよいというような記述が多く、生徒の振り返りシートから見られたことにより、ボランティアという行為の内面にまで深く入ることができたのではないかと考える（資料3）。

資料3 講話を聴いて

- | |
|---|
| <p>1 お話や映像で印象的な話や言葉など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアに行くとき逆に関心をもってもらえる。 ・心を開くと、相手も聞いてくれる。 ・何も無いときこそ人間の力が発揮される。 ・先輩たちの顔がいつもと違っていい。 <p>2 ボランティアとは何なのでしょう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の心の傷を軽くすること、共有すること。 ・支えたいという気持ち。 ・誠意の押しつけとは違う。相手に寄り添うだけでもいいと思った。 ・やりたいと思う人がやること。誰かにやらされるのはボランティアじゃない。 |
|---|

ウ 国語科～「セメント樽の中の手紙」～（10月実施）

本授業は手紙の中でさまざまに変化する差出人の心について変化の過程をたどりながら、どのような認識の深まりにいたるかを整理することがねらいである（資料4）。学習の最後には主人公「与三」になったつもりで「女工」に返事の手紙を書き、女工の気持ちに寄り添う活動をする。

資料4 国語科 セメント樽の中の手紙

『セメント樽の中の手紙』（葉山嘉樹 著） あらすじ
 低賃金で長時間、加えて先の見通しのない過酷な工事現場で働く孤立した一人の労働者。ある日、セメント樽から一通の手紙を見つける。それは、セメント工場に働く女工からのものだった。女工の恋人は、破砕器に巻き込まれてセメントになった。そのセメントがどこに使われたかを知らせてほしいというのが手紙の趣旨だった。手紙を読むことを通して示される、労働者の連帯の可能性そして一人の労働者の家族に対する思いを描く。

恋人を労働災害で亡くした女工の気持ちに寄り添うことで、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることを感謝する気持ちにつながると考え、「3-(1) 生命の尊重」に関連した内容であると考え。

生徒たちが書いた手紙には、「セメントは美術館の廊下に使われて訪れる人を優しく見守っています。どうぞ訪れてみてください。」「今はつらいかもしれませんが、彼はきっとあなたのことを見守っています。共に進んでいきましょう。」「あなたからの手紙を読んで仕事に対する思いが変わりました。家族のために自分が頑張っていかななくてはと思いました。」など、女工の気持ちに寄り添い元気付ける言葉だけでなく、それまであまり意識していなかった家族のことにまで思いを至らせるような記述があった。この授業を終え、生徒たちは主人公の気持ちに寄り添うことで、生命に対して向き合うことができたと考え。

(2) 補充、深化、統合を意図した「道徳」の時間における実践

各教科等で行われる学習活動のねらいが、本研究で取り組む4項目「2-(2) 思いやり」、「3-(1) 生命の尊重」、「4-(4) 役割と責任・協力」、「4-(5) 勤労・奉仕の精神」にそのまま適合するとは限らない。

そこで、「道徳」の授業で各教科等で意識した道徳的価値について「深化」させる意図で行った。個人で道徳的価値の自覚を意識させた後、生徒主体のグループでの話し合いを行うなど、これまでの学習や体験をつなぐことで、生徒の心を揺さぶるような授業を心がけた。

資料5は、各教科等と「道徳」の授業との関連を図示したものである。

資料5 「道徳」と教科・特別活動

	「道徳」		国語科		特別活動(学校行事)	
	月	内容	月	内容	月	内容
学校教育目標関連	2-(2) 思いやり	7 「学習机」			5 6	老人ホーム「えくぼ」におけるボランティア体験
	3-(1) 生命の尊重	11 「命てんでんこ」	10	「セメント樽の中の手紙」		
	4-(5) 勤労・奉仕の精神				6	震災ボランティア講話
	4-(4) 役割と責任・協力	7 「友と一緒に」			5 6	老人ホーム「えくぼ」におけるボランティア体験

ア 「友と一緒に」

該当クラスに野球部の生徒が多いこと、全校野球応援が近づいている時期であったことから、老人ホーム「えくぼ」におけるボランティア体験で意識した「4-(4)役割と責任・協力」について深化させる教材としてこの読み物資料を選んだ。

まず導入として、クラス全体で読み物資料の読み合わせを行い、その後個人ワークシートを完成させたのち、グループに分かれて意見交換をした。終末では、グループごとに発表をし、後日ワークシートを掲示した。初めての本格的なグループでの話し合いであったが、野球部の生徒が自身のこととして真剣に取り組んだことから他の生徒も活発に意見交換をしたり、資料の内容から派生して自身の体験談を話したりと十分に話に入り込んでいた。的外れな意見により、話し合いがなかなか進まないグループもあったが、全体としてはとても前向きな姿勢で話し合いができていた。

「一人でできないことも仲間がいればできることがある」と自身の経験を話す生徒、それにとっても同意しながら聞く生徒があちらこちらで見られたことや授業後の感想の記述から集団の意義を深く考えることができたことと推測できる(資料6)。また、感想で「他の人の意見を聞くのは意外と楽しい」と述べる生徒が多いことから、話し合い活動によって一斉授業以上に心を揺り動かすことができたと感じた。

資料6 授業感想の抜粋

- ・色んな感じ方があるのだと改めて思った。
- ・他の人の意見を聞くのは楽しい。
- ・仲間は大切だと本当に思った。野球頑張ろう!
- ・一人では出来ないことも仲間や支えてくれる人がいれば、できる!

イ 「学習机」

この授業は老人ホーム「えくぼ」におけるボランティア体験で意識した「2-(2)思いやり」について深化させる授業として実施した。何かをする行為も、思いが伴っていないと相手に伝わらない。どんなときも思いやりを持って相手に接して欲しいという願いを込めてこの読み物資料を選んだ。

グループでの話し合いは、上述の「友と一緒に」と同様に行ったが、生徒たちの自主的な話し合いを進めるため、グループづくり、司会者決め、話し合いの全てを生徒たちが行うこととした。仲のよい者同士のグループができたため、話し合いが進まないのではと案じていたが、「私、前に～なことして失敗した」などと、自分の今までの行為を思い出し、友人に話す様子が多く見られ、非常に活発な意見交換ができていた。ある生徒が、行為に至るまでの心情や考えについて触れ、「何もしない思いやりもある」と発言すると、それをきっかけに思いやりについて深く考え、話し合うグループが出てくるなど、グループによっては「目に見えない思いやり」にまで考えを深めることができていた。

ウ 「命てんでんこ」

国語科の「セメント樽の中の手紙」の授業で意識した「3-(1)生命の尊重」について深化させる授業に適した教材としてこの資料を選んだ。自らも被災しながら、消防団の父の仕事を手伝う中学2年生の気持ちに寄り添うことで道徳的価値に迫った。終末には、生きていくことに深く思いを至らせることを期待して、「自分が考える『命』というものを大切な人に伝えてみよう」という問いを投げかけた。

高校生には難しい問いであったが、この問いに真摯に向き合い自分の考えをよく書き表していた（資料7）。話し合いにより高校生としての考えを深めることを意図していたが、軽々しく話せる内容ではないと考えたのか、グループでの話し合いは思うように進まなかった。反省として、このようなデリケートな内容を扱うときには、考えを深めるための工夫が必要であると感じた。

資料7 生徒が考える命・生きる

- 一人だけのものではなくて、その人一人の命がなくなるだけで何人も人が悲しむんだよ。
- 大切な人のために自分の命を守り、他人も大切な人のために自分の命を守る。命というのは、自分のモノだけではないんだよ。
- いつかは消えてしまうもの。だけど、消える前にいろいろなことに挑戦しようよ。
- 生まれてきたことへの感謝を忘れないで。
- 死んだら何もできないよ。

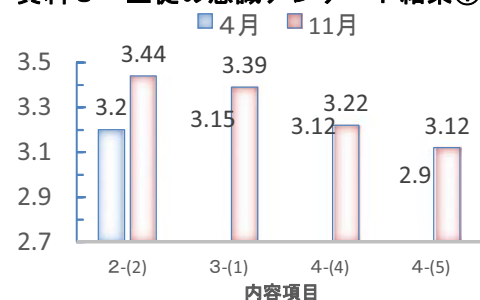
5 成果と課題

(1) 成果

ア 自尊感情を育むための内容項目を明確に定め、内容項目の観点から各教科等で行う道徳教育を整理することで、各教科等と「道徳」の授業との関連を意識するようになった。そのことで、各教科等で意識した道徳的価値を「道徳」の授業で深化させることができるようになり、学校の教育活動全体を通して自尊感情を育む道徳教育に取り組みやすくなった。

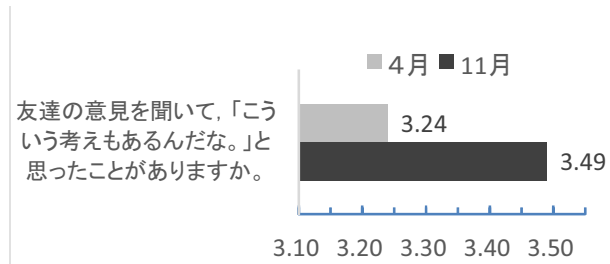
イ 生徒の意識調査について4月と11月の結果を比較したところ、資料8のように、「2-(2)思いやり」、「3-(1)生命の尊重」、「4-(4)役割と責任・協力」、「4-(5)勤労・奉仕の精神」について、

資料8 生徒の意識アンケート結果①



それぞれ0.24ポイント、0.24ポイント、0.10ポイント、0.22ポイントの向上が見られた。また、資料9のように、友達の意見を聞いて「こういう考えもあるんだな」と思ったことがあるという問いについても向上が見られることから、生徒一人一人が自分の考えを表現することができ、それをお互いに尊重して受け止めることができたこととうかがえる。これらのことから、本研究の目的である自尊感情を育むことができたと考えられる。

資料9 生徒の意識アンケート結果②



(2) 課題

ア 学校の教育活動全体を通じて、自尊感情を育む道徳教育を継続して進めていくためには、豊かな心育成コーディネーターが四つの内容項目について学校の教育活動全体を整理し、実施状況を把握する必要がある。コーディネーターが全体を把握することで、一人一人の教員がやるべきことを把握でき、実践しやすくなると考える。

イ 1年生の時から3年間継続して、自尊感情を育てていくためには、「道徳」の授業のない2、3年生においても、自尊感情を育む内容項目を意識して教育活動が行われる必要がある。そのために、1年生と同様に、四つの内容項目で学校の教育活動全体を整理し取り組んで行く必要があると考える。

学校行事（勤労生産・奉仕的行事）の概要

1 内容 老人福祉施設「えくぼ」におけるボランティア体験活動		
2 目標 老人福祉施設でのボランティア体験活動を通して、異世代の方々とのコミュニケーションのすばらしさに気付くとともに、相手のことを考えて行動することで社会の一員としての役割の認識を深める。		
3 評価 異世代の方々とのコミュニケーションのすばらしさに気付くことができているか、他者を思いやる心や社会貢献の精神に基づきながら、社会の一員としての果たすべき役割についての認識を深めることができているかなどの観点から、一人一人の生徒のよさや可能性を積極的に把握し評価する。		
4 活動の概要 本活動は、学校に隣接する老人福祉施設において、施設の行事に参加・支援するとともに、各クラスで考えた合唱・ゲームなどの活動を利用者の方々で行う。5月26日～6月9日の間にクラスごとに実施する。		
5 活動の計画		
	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
事前の活動	○グループ分けと活動計画の作成・準備 (ホームルーム活動(1時間)及び、休み時間・放課後等を活用した自主的活動)	・利用者の方々が生きてきた時代背景などを考慮し、一緒に楽しめる活動になるように工夫することを助言する。
本時の活動	○クラスごとのボランティア体験活動 ・各クラスで考えた活動 1組：グループごとに劇を披露する 2組：利用者の方々と合唱をする 3組：グループごとにゲームをする 4組：グループごとにゲームをする ・施設の行事の支援	・介護士の方々の助言を参考に、声のかけ方等に配慮することを助言する。 ・利用者の方々が心地よく活動できるように、利用者の方々の様子を見ながら臨機応変に対応することを助言する。 ・利用者の方々とのコミュニケーションに戸惑う生徒には、声のかけ方、接し方などを助言する。
事後の活動	○一人一人の生徒による振り返りシートの作成(ホームルーム活動(1時間))と事後訪問における謝意の伝達(放課後等)	・活動前後での気持ちの変化や、活動を通して感じたこと気付いたことについて、振り返りシートに具体的に記入することを助言する。

茨城県立那珂高等学校 第1学年*組 「道徳」学習指導案

		指導者	
主題名	思いやりとは	内容項目	2-(2)
ねらい	これまでの自分の行動を振り返り、相手の立場に立ってものごとを考え、思いやりの心を持って他者と関わっていかうとする心情を育てる。		
資料名	「学習机」(作成委員会編)		
主題設定の理由	思いやりの心は、互いの立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる心の在り方であるが、時には、黙って温かく見守るといった表に現れない場合もある。日頃の生徒の行動を見ていると、その場を取繕う表面的な優しさで行動しているのではないかと感じられる場面が多く見受けられる。本資料から思いやりのない行為をとった主人公の心の動きを考えさせることにより、思いやりの心をもって人に接することの大切さに気付かせたいと考え、本主題を設定した。		
展 開			
	学習活動(発問・予想される生徒の心の動き)	指導上の留意点	
導入	<p>1 生活の中で、相手の立場になって考えるべきだったと後悔した場面を考える。</p> <p>○今までの人生で、もっと相手のことを考えればよかったと後悔したことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族や友達を傷つける言葉を言ったとき ・お節介をやいてしまったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を振り返ることで、関心を高める。 	
展開	<p>1 資料を読む。</p> <p>2 主人公「私」の心について話し合う。</p> <p>○「私」にとって、学習机を売ることはどういうことだったのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事として事務的にこなすことだった。 ・頭では夢を与えることと分かっているが、実感を伴っていない。 <p>◎大枝さんに「そういう問題じゃないのよ」と言われて、「私」はどんなことに気付いたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傲慢な気持ちだった。 ・相手の立場に立って、考えていなかった。 <p>3 相手の立場になって考えることについて、個人で考えた後、グループによる話し合いにより、考えを深める。</p> <p>○相手の立場になって考えるとはどういうことなのだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを大切にすること。 ・心をこめて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習机を販売する「私」の心に焦点を当てて考えさせる。 ・個人の考えを自分の言葉で具体的にワークシートに表現するよう、指示する。 ・学習机を売ることが夢を与えることであることが分かっていない「私」の気持ちを考えさせる。 ・大枝さんの言葉を聞いた「私」の気持ちから、相手の立場に立って考えることの意味に気づかせたい。 ・自分の言葉で、具体的な例を挙げながら相手に伝えること、自分と違う意見も否定しないことを指示する。 	
終末	<p>4 教師の体験に基づく説話を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやりには様々な形があり、一見厳しいと思える行為が実は相手を思いやったの行動である場合もあることを話すことで、思いやりについて深めたい。 	
評価	<p>○思いやりについて考えることができているか。</p> <p>○他の人に対する深い理解と共感する心について自覚を深められているか。</p>		

「学習机」

1年__組__番 氏名_____

問1 今までの人生で、もっと相手のことを考えればよかったと後悔したことはありますか。

問2 「私」にとって、学習机を売ることはどういうことだったのだろうか。

問3 大枝さんに「そういう問題じゃないのよ」と言われて、「私」はどんなことに気付いたのだろうか。

問4 相手の立場になって考えるとはどういうことなのだと思いますか。

【個人】

【グループ】

V 研究のまとめ

本研究は、道德教育の全体計画に基づいた、道德の時間(「道德」)を要として学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方を明らかにし、研究協力校において実践による事例を研究し、道德教育の充実に役立てようとするものである。

昨年度は、先行研究や文献から得た資料や情報を基に、「学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方」について、基本的な考え方の検討、基本構想の計画立案等を行った。さらに、それを踏まえ、研究協力校において、道德教育の全体計画を基に、重点目標を焦点化した取組を実践した。具体的な内容は、全体計画の別葉の作成と活用、各教科等における実践、補充、深化、統合を意図した道德の時間(「道德」)における実践を行った。

今年度は、継続的に実践を行い、実践の分析と考察の方法を検討し、2年間の研究の成果と今後の課題について、以下のようにまとめた。

また、研究協力校において、アンケートによる教員の意識調査を実施し、研究の成果と今後の課題を明らかにするための基礎データを得た。なお、意識調査の内容及び結果については、「〔資料3〕研究協力校における教員の意識調査(アンケート結果)」に掲載した。

1 研究の成果

2年間にわたる研究協力校での実践研究を終え、各校において、学校や児童生徒の実態に応じた道德教育が推進されるとともに、教師、児童生徒の意識や態度に変容が見られ、研究の成果を得ることができた。

(1) 全体計画の別葉の作成と活用

全体計画の別葉を作成することで、各教科等において意図的・計画的な道德教育を行うことができた。

全体計画の別葉を作成し、活用することで、道德の時間(「道德」)において、補充、深化、統合を意図することができた。

(2) 各教科等における実践

授業実践においては、各教科等の指導を通じて児童生徒の道德性を養う視点を持つことができた。さらに、各教科等の特質に応じて、目標やねらいを明確にした授業展開をする中で、道德教育との関連を意識した指導ができるようになった。

(3) 補充、深化、統合を意図した道德の時間(「道德」)における実践

道德の時間(「道德」)において、補充、深化、統合を意図したことで、授業のねらいが明確になり、道德的価値の自覚を深めることができた。

2 今後の課題

全体計画の別葉を作成、活用することで学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の充実を図ることができたと考えられるが、活用という点ではまだ研究の余地がある。全体計画の別葉を活用した道德教育と道德の時間の関連を図るために、校内研修の充実といった取組を推進することも課題であると考え。また、児童生徒の発達段階や特性等を踏まえた道德教育を学校全体で確認し、推進していく必要があると考える。特に、中学校、高等学校においては、組織的な取組のために全教職員の理解を図り、道德教育を推進するための組織体制づくりを整備することも課題であると考え。

補充、深化、統合を意図した道德の時間の授業を構想する際、補充については、別葉に記載している学習内容が少ないことから判断することができた。しかし、深化や統合については、児童生徒の実態を踏まえるために、どちらを意図して授業を構想するのか判断が難しい状況がある。また、補充、深化、統合を意図した道德の時間(「道德」)によって、より効果的に道徳的実践力を育むために、補充、深化、統合を意図した授業の展開や発問についても追究していく必要があると考える。さらに、道徳的実践に生かす活動を取り入れることで、学校全体で児童生徒の道徳性を育む取組が必要であると考え。

文部科学省で、平成26年度から使用できるよう、全国の小・中学校に配付した道德教育用教材「私たちの道徳」の活用を図る必要があると考える。

現在、文部科学省で検討中である、道德の時間を「特別の教科 道德」(仮称)として位置付けるという教育課程の改善の方策について、注目する必要がある。当然、国の動向を踏まえた今後の道德教育の在り方についての方向性や対応が、今後の大きな課題であると考え。

3 【資料3】から見えてくる問題点

(1) 全体計画の別葉の作成と活用すること

作成することの負担を大きく感じている傾向がある。さらに、活用の仕方や方法がよく分からず、活用することについても負担を感じている。

(2) 各教科等で道德教育を行うこと

小・中学校は、総合的な学習の時間における道德教育の指導、人間関係に関する指導の充実を図る必要がある。

高等学校は、教科における道德教育の指導、教室や校舎・校庭等の環境の整備の充実を図る必要がある。

(3) 補充、深化、統合を意図すること

補充、深化、統合を意図した道德の時間の授業(「道德」)を構想するとともに、補充、深化、統合するための工夫が必要である。

〔主な参考文献等〕

- 『道徳授業の発問構成（1・2年）』 赤堀博行・柳下高明編著
- 『道徳授業の発問構成（3・4年）』 赤堀博行・長谷徹編著
- 『道徳授業の発問構成（5・6年）』 赤堀博行・馬場喜久雄編著
(東洋館出版社, 平成25年10月)

- 『道徳授業で大切なこと』 赤堀博行著 (東洋館出版社, 平成25年10月)

- 『道徳教育への招待』 押谷由夫・内藤俊史編著 (ミネルヴァ書房, 平成24年10月)

- 『道徳教育を考える 多様な声に応答するために』 岡部美香・谷村千絵編著
(法律文化社, 平成24年10月)

- 『これだけは知っておきたい道徳教育の基礎・基本』 渡邊弘著
(川島書店, 平成24年4月)

- 『板書で見る全時間の授業のすべて（低学年）』 永田繁雄・矢部憲司・田野口重明編著
- 『板書で見る全時間の授業のすべて（中学年）』 永田繁雄・林和子・小倉潔編著
- 『板書で見る全時間の授業のすべて（高学年）』 永田繁雄・長谷徹・馬場喜久雄編著
(東洋館出版社, 平成24年2月)

- 『道徳の時間の特質を生かした授業の創造 心を耕す道徳授業の実践』
赤堀博行監修・網走市立白鳥台小学校著 (教育出版, 平成23年10月)

- 『道徳教育推進教師の役割と実際』 永田繁雄・島恒生編著 (教育出版, 平成22年8月)

- 『心を育てる要の道徳授業 補充・深化・統合へのアプローチ』 赤堀博行編著
(文溪堂, 平成22年10月)

- 『道徳教育で大切なこと』 赤堀博行著 (東洋館出版社, 平成22年7月)

- 『生と死を見つめる「いのち」の道徳授業（小学校）』 諸富祥彦編著
- 『生と死を見つめる「いのち」の道徳授業（中学校）』 諸富祥彦編著
(明治図書出版, 平成22年1月)

- 『人間としての在り方生き方をどう考えるか』 林泰成・白木みどり著
(教育出版, 平成22年1月)

- 『いのちの教育』 大阪教育大学附属池田小学校著 (東洋館出版社, 平成21年10月)

- 『各教科で行う道徳的指導』 押谷由夫編著
(教育開発研究所, 平成21年7月)

- 『「じぶん」「いのち」「なかま」を見つめる道徳授業』 永田繁雄編著
(教育出版, 平成18年10月)

- 『道徳教育の可能性 その理論と実践』 中戸義雄・岡部美香編著
(ナカニシヤ出版, 平成17年5月)

〔研究関係者一覧〕

1 研究助言者

学校法人 東京家政学院大学現代生活学部 教授 長谷 徹
国立大学法人 東京学芸大学総合教育科学系 教授 永田 繁雄（平成25年度）

2 研究協力校・研究協力員

笠間市立友部第二小学校 教諭 菊田 千河子
日立市立大沼小学校 教諭 水野 聡子
教諭 田所 和彦（平成25年度）
銚田市立旭中学校 教諭 庄司 貞夫
阿見町立竹来中学校 教諭 三浦 健一
県立勝田高等学校 教諭 根本 真澄
県立那珂高等学校 教諭 高柳 優子
教諭 澤畠 華子（平成25年度）

3 教育研修センター

所長	武井 一郎	
次長兼教職教育課長	増田 年男	
教職教育課主任指導主事	関根 康裕	
教職教育課指導主事	小沼 浩幸	広戸 純
同	宮崎 淳司	田部井 悦子
同	玉井 康浩	中島 隆行
同	幸田 裕子	小出 岳夫
同	糸川 宏	小貫 香織
同	柴山 優子（平成25年度）	柴山 修二（平成25年度）
同	吉永 成範（平成25年度）	岡部 正徳（平成25年度）

研究報告書第85号

教職に関する研究

学校の教育活動全体を通じて行う道德教育の在り方

平成25・26年度

平成27年3月発行

編集 茨城県教育研修センター教職教育課

発行 茨城県教育研修センター

〒309-1722 茨城県笠間市平町1410

TEL 0296(78)3212 (教職教育課直通)

FAX 0296(78)2122

URL <http://www.center.ibk.ed.jp/>

